

一五 「シベリア」出兵関係一件 七六一

九二二

自ラ本件提議ノ（脱）トスルノ狡猾手段ニ出デタルモノト
思慮セラル

七六一 十一月九日 在浦潮菊池政務部長ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

チタ政府外務次官ノ談話報告ノ件

第五一二号

十一月九日本官答礼ノ為非公式ニ「チタ」外務次官「コゼ
フニコフ」ヲ往訪シタルニ其ノ際彼ハ左ノ通り語レリ
浦潮政府カ從来日本ト協定セル諸約束（日本軍憲トノ間ノ
取極ヲ含ム）ニ関シテハ「チタ」政府ハ個々ノ取極竝問題
ニ付研究ノ上承認ノ可否ヲ極メントス（トテ從来ノモノヲ
原則トシテ其ノ儘繼承スル意嚮ヲ語リ）吾人ハ「チタ」統
一會議ニテ決議ノ日ヨリ浦潮ヲモ含メル極東統一成立セル
モノト認ム從ツテ目下行ハレツシアル浦潮国民議会ノ決議

ニ対シテハ何等ノ注意ヲ払ハス（トテ右議会無視ノ態度ヲ
示シ）日本軍ノ撤退アランコトヲ希望シ日本ハ過激思想ノ
宣伝ヲ恐レ居ルモ右宣伝ハ統一共和国ニ於テスラ行ハレ居
ラサルニアラスヤトテ右宣伝ノ行ハルヘカラサルヲ述ヘ同
時ニ革命ノ行ハレツシアル外国ニ軍隊ヲ駐屯スルハ其軍隊
所属国内ニ革命思想醸成ノ原因トナリ得ヘキ危険アリトテ
暗ニ日本ノ撤兵ノ得策ナルヲ皮肉リ且下利權商取引ニ関シ
日英米ノ商人ト交渉中ナリト云ヒ日本ノ土地的野心ナキヲ
信シ吾人ハ誠意以テ民主的政治ヲ行ハシコトヲ期シ日露親
善關係ヲ目的トスト述べ最後ニ十一月三十日以後「ムイソ
ワヤ」以東ノ後貝加爾鉄道ハ「チタ」政府輸送省ノ管轄ニ
属シ「ムイソワヤ」駅ヲ以テ「ソビエット」鉄道トノ境界
点トシ旅客ノ乗換ヲ行フコトトナレル旨ヲ報セリ

事項一六 「メキシコ」革命動乱関係一件

（「オブンガ」政府承認問題ヲ含ム）

七六一 三月三日 在墨伊藤臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛

墨国叛徒首魁アレナス捕ハレ軍法會議ニ附サ

レタル件

政公信第五六号 （四月一十一日接受）

大正九年三月三日

在墨 臨時代理公使 伊藤敬一（印）

外務大臣子爵 内田康哉殿

当國「ベラクルース」州ニ於テ劫掠ヲ逞フセシ叛賊ノ一

首魁 Cirilio Arenas ハ一月二十九日ノ松曉窃ニ Puebla 市
ニ在リシ所ヲ同地警察ノ為取押ヘラレ目下行軍法會議ニ廻サ

レ居リ候、近來賊徒ノ目立チタルモノニシテ或ハ捕ハレ或
ハ戦死シ又ハ降服スルモノ多ク平定事業着々功ヲ奏スルモ
ノノ如ク今ヤ手強キ叛賊トシテハ Felix Diaz (Veracruz,
Puebla, Oaxaca) Francisco Villa (Durango, Chihuahua,
Coahuila) Higinio Aguilar (Veracruz, Puebla) Peláez

十六 「メキシコ」革命動乱関係一件 七六二 七六三

九二三

七六二 四月九日 在墨伊藤臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

墨国大統領候補者オアレロン将軍ハ特別軍事

裁判所ニ出廷中ノ旨並メキシコ新聞ノ革命情

勢ニ対スル論評報告ノ件

第三三三号 （四月十三日接受）

大統領候補者「オブレゴン」將軍ハ軍務省ノ召喚ニヨリ十
六日朝、遊説地「タマウリパス」州ヨリ「モンテレイ」市
ヲ経テ帰京シ同日午後ヨリ特別軍事裁判ニ於テ叛徒「ディ
アス」ノ一首領「ロベルトセフード」事件（一度降服シ銃
器其他ノ供給ヲ得テ「ディアス」派征伐ノ為「ベラクル」

一六 「メキシコ」革命動乱関係一件 七六四 七六五

九一四

ス」州ニ往キシモ虚偽ノ降服ナリトテ目下監禁サレ居ルモノ）ニ関係ノ嫌疑ヲ以テ訊問ヲ受ケツツアリ又同將軍派ノHill, Castro 両將軍等ハ軍律ニ反シ政治運動ニ関与セル等ノ廉ニテ逮捕命令発セラルベシト云ヘバ「オブレゴン」候補ノ運命予測シ難キモノアリ

四月七日ノ當市「エキセルシオル」ハ論評シテ昨今再ビ革

命ノ声ヲ聞クニ至レルガ國民ハ最早之ヲ欲セズ休養ヲ熱望

スレドモ軍人派及文治派ノ時局觀ヨリ推論セバ孰レガ勝利ヲ得ルモ革命ハ其結論タルベシ軍人派ハ文治派候補ハ官選

ニシテ國民ノ意思ニ反スト論ジ亦文治派ハ軍人ノ當選ハ必然的ニ軍人階級ノ跋扈トナリ階級政治ニ化スルヲ以テ彼等

ハ國民ノ敵ナリト言ヒ双方トモ一方ノ當選ニ對シ革命ノ必

要ヲ説クモ其國民ハ風馬牛相関セザルナリ而シテ政府側

ノ新聞紙ハ革命ハ不可能ナリ政府ハ強力ナリ何人ト雖モ之ニ対抗スル能ハズト揚言スルモ秩序アル少數者及多數ノ無

関心者ノ外ニハ尚幾分ノ煽動家及職業的革命家アリテ騒擾ヲ釀スニ充分ナルヲ知ラザルベカラズ而シテ十年來ノ經驗ハ彼等ニ教フルニ革命ノ捷径ヲ以テセリ兎ニ角墨國ノ政海ニハ不穏ノ波漂フ云々ト言ヒ翌日ノ「ヘラルド」モ同様ノ

論旨ヲ述ペタル後米國ノ大統領選舉近キニアリ對墨政策ノ変更ヲ見ントスル今日革命ヲ説クカ如キハ甚ダ不謹慎ナリト結論セリ尚政府ハ「オブレゴン」ノ生地「ソノラ」州ニ於ケル人心ノ動搖ヲ顧念シ蛮族退治ノ為ナリト称シ兵八千ヲ送ルニ決シ「ディエゲス」將軍ヲ北西部軍總司令官ニ任セリ

四月九日在米大使済

七六四 四月十四日 在墨國伊藤臨時代理公使ヨリ 内田外務大臣宛（電報）

墨國大統領候補オブレゴンノ生地ソノラ州ノ 独立宣言及グアテマラ國ニ於ケル革命勃發報

告ノ件

三四号 （四月二十一日接受）

Sonora ハ中央政府ト關係ヲ絶チ之ニ叛クニ至リ當地トハ通信全ク絶エタリ但シ邦人ハ心配ナカルベシ

「グアテマラ」國ニ於テモ亦革命起リ專制大統領「カブレラ」没落セリ

七六五 四月十四日 在墨國伊藤臨時代理公使ヨリ 内田外務大臣宛（電報）

墨國大統領候補オブレゴン將軍逃亡説報告ノ件

（四月十七日接受）

七六六 四月二十四日 在ロス・アンゼルス大山領事ヨリ 内田外務大臣宛（電報）

墨國ソノラ州軍南進ニ伴フ混亂ノ場合ニ於ケ

ル在留日本人ノ保護ノ方策ニ關シ在墨代理人公

第四〇号

（四月二十六日接受）

本官發在墨代理公使宛電報第一号

墨國「ソノラ」州叛軍ハ曩ニ「シナロア」州「クリヤカン」

ヲ陥レ不日「マサトラン」ヘ進撃セントスル由ノ處多分御承知ノ通リ「ソノラ」州ニハ北方ノ米國ニ近キ鉱山ニ約百

五十人「エルモシヨ」ニ約五十人其ノ他ノ鐵道沿線ノ都邑ニ約百名「シナロア」州ニハ「クリヤカン」「マサトラン」

ニ各四十名位其ノ他ノ鐵道沿線都邑ニ五六十名位ノ日本人在留セル模様ナルガ若シ「ソノラ」軍優勢ナレバ「クリヤ

カン」以北ハ大体ニ於テ安全ナルベキモ中央軍優勢ナレバ右地方ハ當然両軍ノ交戦地トナルベク身體財産及生活上ノ危険鮮カラザルモノト見ザルベカラス現ニ右地方在留民中貴館トノ交通容易ナラザル趣ニテ右ノ如キ万ノ場合ニ対

シ保護方ヲ當館ニ請願スルモノアリ之等日本人ニ對シテハモ之ニ關係セル如ク報セラル
在米大使済ミ

一六 「メキシコ」革命動乱関係一件 七六七 七六八

九一六

根本方針決定セザル限り差当リ其ノ取扱困難ナリトハ思考スルモ此ノ際何等御訓示ノ御希望アレバ目下郵便交通可能ナル模様ニ付便宜當館ニ於テ告示ノ方法ヲ講ズベシ本官ノ

見ル所ニ依レバ両軍目下ノ実状不明ナルニ依リ右騒乱地方日本人ノ取扱方ニ付確然タル意見ヲ定メ難キモ万全ノ策ト

シテハ右地方ハ早晚混乱スルモノト仮定シ本人ニ於テ希望スル限り成ルベク速ニ本邦ニ帰還セシムルカ又ハ数年前ノ

「チワワ」避難民ノ例ニ倣ヒ目下事業非常ニ勃興シ就職容易ナル下加州「メキシカリ」方面ニ移住セシムルカノ外ニ

方法ナキモ右ハ何レモ米国ヲ通過スル必要アルニ依リ在米大使ノ御考慮ヲ仰カザルベカラザルコトト思考斯尚又新聞

電報ニ拠レバ米国政府ハ今回太平洋沿岸駐在米国領事ノ建議ニ依リ「マサトラン」及「トボロバンボ」方面在留米国人保護ノ為太平洋艦隊所属ノ砲艦ヲ同地ニ急航セシメタル趣ニ付同方面日本人保護ニ關シ米国政府ニ依頼スルモ一策ナリト思考ス右ハ已ニ御気付ノコトトハ思考スルモ前記願

出ノ次第モアルニ付申進ス若シ参考トナルベキ情報アレバ外務大臣及在米大使へ転電セリ

電報請ス

（四月二十一日接受）

第三号

行動ヲトル様通達方ヲ在ロス・アンゼルス領

事ヘ依頼ノ件

（四月二十七日接受）

在墨代理公使発ロス・アンゼルス宛電報

第四〇号

貴電第一号感謝ス若シ貴地ト「ソノラ」州ト交通アラバ在留民ヘ左ノ通御通達ヲ請フ（但シ「マサトラン」ヲ経テ當館ヨリモ右通信ヲ試ミツツアリ）

貴地方ノ叛乱状況詳ナラス同胞ノ安否少シモ分ラズト雖モ大局ヨリ判断シテ今回ノ騒動ハ間モナク鎮定スベシト観測

セレ居ルニ付各自ニ於テモ慎重ニ行動シ官叛執レニモ加担セズ危急ノ場合ニハ米国其他ノ領事ニ保護ヲ依頼スル様一般ニ伝ヘラレタシ

七六九 四月二十六日 在墨国伊藤臨時代理公使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

ボニーヤス及ゴンサーレス大統領候補ヲ辞退

セリトノ風聞報告ノ件

第四一号

（四月二十九日接受）

本官カ昵近ナル一將軍ヨリ聞キタル所ニ依レハ過日來秘密

一六 「メキシコ」革命動乱関係一件 七六九 七七〇 七七一

七六七 四月二十五日 在墨国伊藤臨時代理公使ヨリ

墨国内騒乱ノ際米国領事及軍艦ニ依ル在墨日本人ノ保護ヲ米国政府へ依頼スル様在米大使

二稟申ノ件

（四月二十八日接受）

第三九号

本官發在米大使宛電報貴大臣御参考迄ニ転電ス

在羅府領事來電第一号ニ閲シ

斯ル際ニハ判断ヲ誤リ易キモノナルモ米国新聞紙ノ騒ク程事態重大ナラズ又排外的騒動ノ如キト性質ヲ異ニスレバ日本ニハ重大ナル危險ナカル可シト思考スルモ万ノ際ヲ慮リ米国軍艦及領事ノ保護ヲ御依頼下サラバ好都合ナリ尚一九一五年ニハ今日以上ノ騒アリ當時ハ「カラニサ」ニ於テモ諸將其他革命派ノ旗色今日程鮮明ナラズ大ニ手加減ヲ要セシニ拘ラズ難局ヲ切り抜ケ得タレバ今回モ程無ク時局ヲ收拾ス可シト一般ニ信ゼラル

七六八 四月二十五日 在墨国伊藤臨時代理公使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

墨国ソノラ州方面ノ在留日本人ニ対シ慎重ノ

第三号

貴電第四〇号末段ニ關シ貴官ハ予メ米国其他ノ領事ニ対シ

危急ノ場合本邦人ニ保護ヲ与フル様依頼セラレタル次第ナリヤ若シ未タナラハ既ニ貴官カ在留民ニ如斯布告ヲ發セラレタル以上適當ノ筋ヲ經テ其旨依頼スル必要アリト認メラルニ付同地方ニハ何国ノ領事カ駐在シ居ルヤ回電アレ

七七〇 四月二十九日 在墨国伊藤臨時代理公使ヨリ内田外務大臣宛（電報）

墨国大統領選挙運動ノ状勢報告ノ件

（五月六日接受）

第四三号

九一七

一六 「メキシコ」革命動乱関係一件 七七一 七七三

九一八

往電第四一號ニ関シ

其後両候補者派代表者數次会見ノ結果或点迄成功セントセシガ最後ニ於テ一致ヲ欠キ一先ダ失敗ニ終レリ
政府ハ「ソノラ」「ミチヨアカン」「ゲレロ」州其他多少騒擾ヲ始メタル地方ニ動員シ各軍進軍ヲ始メタリ
地方騒乱ニ鑑ミルニ大統領選舉期日延期セラルベシトノ説盛ナリ（三十日）

在米大使、羅府へ電報セリ

七七二 四月三十日 在墨國伊藤臨時代理公使ヨリ 内田外務大臣宛（電報）

墨國騒乱ノ場合邦人保護方英米仏公使ニ依頼

シタルモ尚正式ニ英米仏政府ニ依頼アリタキ

旨稟申ノ件

第四四号 貴電第一三号ニ関シ

昨年政機密第二三号拙信中諾威國公使館及英國公使館代表者ノ説ニ依レバ各國領事ハ他国在留民ヲモ保護スル慣例トナリ居ルニ付過般「ソノラ」州騒乱ノ徵アリシ際英米仏公使館ニ対シ邦人ノ保護ヲ依頼シ在米本国邦大使へハ往電第

（五月五日接受）

七七三 五月三日 在墨國伊藤臨時代理公使ヨリ 内田外務大臣宛（電報）

メキシコニ於ケル政府軍ト叛軍対峙ノ情勢報 告ノ件

第四六号

「ゴンサーレス」將軍ハ大統領ト会見意見交換ノ後去ル三十日ノ夜當市ヲ去リタルモノノ如ク同將軍軍使ハ數日間休養ノ為或高地ニ行キタリト声明セルモ官刃ノ消息ニテハ同將軍ハ「ツラスカラ」州ニ入りテ政府ニ反キタルモノナリ同將軍及「オブレゴン」將軍ニ附隨シ知事及司令官ノ反キシ州ハ今日迄ノ処「サカテカス」「ミチヨアカン」「ゲレロ」「タマウリパス」「メキシコ」「ツラスカラ」「タバスコ」「チウアウア」等ナルモ右地方ニハ何レモ多数ノ政府軍駐屯シ

揚クル支度中ナリ

五月七日午後亞爾然丁國公使館ニ於テ第一回外交官會議アリ意見ヲ交換セシモ何等纏リタル決議ナシ

在米大使へ電報済

七七五 五月十一日 在ロス・アンゼルス大山領事ヨリ 内田外務大臣宛（電報）

首都ヨリ退出セル墨國大統領ノ列車ハ敵軍ト

激戦中ナル旨在墨代理公使ヨリ報告ノ件

第四二号

在墨代理公使ヨリ左ノ通り

（五月十三日接受）

本省へ御転電ヲ請フ

本電及前電ノ着否折返シ御電報ヲ請フ

往電第五〇号

大統領ノ列車ハ「ベラクルース」線ト「ブエブラ」線ノ交

叉点「アピサコ」停車場附近ニ於テ敵軍ト激戦中、當市叛軍ヨリハ援兵ヲ送リタリトノ報アルモ其ノ後ノ情報ヲ得スマ国トハ僅カニ「ファレス」市ヲ経テ電信ノ通スルノミ鉄道交通全然ナシ

ノ準備中ナル旨報告ノ件

（五月二十二日接受）

Carranza 大統領ハ五月五日夜十時長文ノ「マニフェスト」

ヲ出シ時局ノ展開ヲ説明シ最後ニ選挙ニ依ラサル何者ニモ政府ヲ引渡サズト云ヘリ然ルニ政府ハ五月六日夜墨市ヲ引

一六 「メキシコ」革命動乱関係一件 七七四 七七五

九一九

一六 「メキシコ」革命動乱関係一件 七七六 七七七

九二〇

註 在墨代理公使ヨリノ第八号ハ後出大山領事発外務大臣宛第四

四号

七七六 五月十二日 内田外務大臣ヨリ

在墨國伊藤臨時代理公使宛(電報)

墨國騒乱三際シ外交公使館領事館ニ邦人保護

ヲ依頼スル場合ノ措置ニ関スル件

第一四号

貴電第四四号ニ関シ貴官ヨリ特ニ英米仏公使館ニ依頼セラレ各公使館ニ於テ之ヲ承諾シタル義ナラハ本大臣ヨリ更メテ各政府へ正式ニ依頼ノ必要ナカルヘシト認メラルモ必要アラハ更ニ御申越アレ又此場合數国ノ領事館アル地方ニ於テハ其内ノ一領事館ニ依頼スル方可然ト思考セラルニ付各地方ニ付何国ノ領事館ニ依頼スヘキヤ併セテ御来示アレ尚向後ノ形勢ニ依リ館員派遣ノ場合ハ予メ本省へ稟請アリタシ

七七七 五月十四日 在ロス・アンゼルス大山領事ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

墨國大統領各省長官等ノ共ニ首都ヲ去リゴン

サーレス、オブレゴン両將軍首都ニ入り市内

去ル六日夜ヨリ電報不通ニ付発電遅延ス

時局急転直下政府ノ勢大イニ非ナリシカバ「カラソナ」大統領ハ七日前拾時各省長官府知事市長大審院長及有志ノ官吏「ボニーヤス」等ト共ニ直チニ二十四余ノ列車ニ分乗シ「ベラクルース」ニ向ヒ同日正午「ゴンサーレス」將軍ノ前衛墨市ニ入り午後六時ニ將軍入市セラレタリ昼間巡視無カリシモ夜ニ入り出動セリ市内ハ至ツテ平穩電車ハ平常ノ通り往復スルモ商店銀行ハ開カズ「オブレゴン」「ゴンサーレス」両將軍ノ協調何時迄統クヤ疑問ナリト雖モ共同ノ敵ヲ控フルト米國ノ干渉ヲ恐ル為當分ハ両立シ此ノ上騒擾ヲ見ル事無カルベシ八日商店ハ大部分開店セリ紙幣發行ヲ恐レ銀行預金ヲ引出スモノ多シ「オブレゴン」九日午前入市「サバタ」残党ノ首領等是ニ從フ「チワワ」「ヲアハカ」

在墨代理公使ヨリ左ノ通リ

第八号 (五月十六日接受)

海底電線不通ニ付左ノ通リ外務大臣へ御転電アリタシ

在墨代理公使ヨリ左ノ通リ

第四九号

駅以南ニ突進シ「マル(不明)タ」駅附近ニ於テ交戦シツク敵軍ニ要擊セラレタルガ其行方未ダ判明セズ馬上「タンピコ」方面ニ向ヘリトモ云フ「サリナクルス」港ヨリハ何レヘモ交通絶エ居ルニ付公報スル迄東洋汽船会社汽船ニ於テ同港向荷物ヲ取扱ハザル由ナリ五月九日「ソノラ」州トノ電信開通セル模様ナルガ同地方モ格別ノ危険無カリシ如ク見ユ

五七八 五月十四日 在ロス・アンゼルス大山領事ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

オブレゴン及ゴンサーレス両將軍メキシコ市

入り後ノ諸情勢外交団會議ノ模様等在墨代理
公使ヨリ報告ノ件

第四五号

在墨代理公使ヨリ左ノ通リ

第一〇号

左ノ通リ大臣ヘ転電同時ニ在米大使ヘモ転電アリタシ

第五一号

大統領軍ノ前衛ハ「ベラクルース」鉄道線「エスペランサ」

一六 「メキシコ」革命動乱関係一件 七七八

九二一

一六 「メキシコ」革命動乱関係一件 七七九 七八〇

ニ付出来得ベクンバ外交団ヲ同市ニ置カレタシ本官ハ同僚ト共ニ行動ゼン

七七九 五月十五日 在墨公使館發外務省宛公信汽車襲撃ニ遇ヒ紛

内田外務大臣宛（電報）

在羅府領事經由電報ノ東京著否不明ニ付力ラ
ンサ大統領ノ首都脱出及其後ノ情勢ヲ更メテ

七八〇 五月十五日 在墨国伊藤臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

報告ノ件

失セルニ付写送付ノ件

（五月十七日接受）

第四六号 在墨代理公使發本官宛電報第一二号

在ノ通り本省へ転電ヲ請フ

第五二号

当地郵便局ヨリノ通知ニ依レバ、当館發公信第四九号ヨリ

（不明）号迄機密第九号ヨリ第一七号迄ハ当地「ファレス」

間ニ於テ汽車襲撃ニ遇ヒ紛失セル趣ニ付写ヲ送付ス其他ニ

発送セル公信ノ安否判明セズ不安ニ堪ヘズ

機密第一〇号拙信ハ高畠ヨソ吉放逐ニ閑スル顛末ヲ報告セ

ルモノナルガ今回当國ノ事変ヲ機会ニ同人ガ再び渡墨セン

コトハ在留民一般大ニ不安ヲ感ズル所ナルニ付厳重ニ御取

締相成リタシ

第四六号

（五月二十二日接受）

去ル四日夜ヨリ海底電信不通ノ為五通ノ電報ヲ「シウダド、

ファレス」経由在「ロサンゼルス」領事ヲ経テ發送セルガ

果シテ事実着セルヤ否ヤ不安ニ付更ニ過日來ノ経過ニ関シ

報告ス但シ本信モ海底電線ノ開通近キヲ予想シ發スル次第

ニ付延着ハ免カレザル可シ

時局ハ急轉下シ大統領ニ反キ「オブレゴン」及「ゴンサー

レス」兩派ニ投ズル者多キタメ政府ハ内々數日前ヨリ引揚

ノ準備ヲナシツアリシガ大統領ハ遂ニ七日朝十時頃政府

専用ノ列車ヲ率ヒテ墨市ヲ去リ内務、大藏、軍務、工商

務、外務ノ各長官其他官吏市長府知事大審院長「ボニーヤ

ス」大使等之ニ從ヘリ

外務大臣代理ハ当地ヲ去ルニ臨ミ外交団長宛「時局ニ鑑ミ

首府及政府ヲ「ヴェラクルース」ニ移スニ付外交団モ同市

ノ官吏ヲ臨時任命シ市内ノ秩序ヲ保チ居ルヲ以テ予想外ニ

静穏銀行商店モ開業スルニ至レリ

大統領軍ハ当地ヲ去ルヤ否ヤ屢々革命派ノ攻撃ヲ受ケ「エ

スペランサ」停車場ニ達セシテ八日間苦戦シ終ニ十四日

列車ヲ見棄テ「ヴェラクルース」州山間ニ逃げ入りレリ

革命派ハ十二日武將會議ヲ開キ「ソノラ」州知事ヲシテ二十
四日ヲ以テ臨時国会ヲ召集セシムルニ決シ同知事ハ電報ヲ
以テ召集令ヲ發セリ但シ聯邦ヨリ独立宣言セル「ソノラ」
州知事ガ斯ノ如キ命令ヲ發スルハ適法ナラズト云フ者アリ
時局ハ今後尚幾多ノ曲折ヲ免カレザル可シ

静穏銀行商店モ開業スルニ至レリ
在米大使ヘ転電セリ

第五六号

（五月二十二日接受）

十六日ノ新聞ニテ發表シタル「ゴンサー」將軍ノ「マ
ニフェスト」ニヨリ同將軍ハ此際斷然大統領候補ヲ辭スル
旨宣言セリ右ハ「オブレゴン」ト内密ノ妥協整ヒタルニ依
ルナランモ之ニテ国内ノ平和ハ一層保証サレタリト見ルヲ
得ヘシ

七八一 五月十六日 在墨國伊藤臨時代理公使ヨリ

内田外務大臣宛（電報）

墨国内静穩ニ歸シ今回ノ事件ニ依リ外国人ハ

大ナル危害ヲ蒙ラザリシ旨報告ノ件

第五七号

（五月二十四日接受）

其後國內引続キ静穩此分ニテ行カハ国内ハ急速ニ平定スヘ
ク「ビヤ」モ引退スヘシト報セラレ「ファレス」市ヘノ鉄
道最早ヤ危険ナク全通スルモ数日後ナルヘク（往電第四四
号ノ件モ最早其ノ必要ナシ）「ラレド」「ペラクルース」間
モ近々全通スヘク国内電信モ略々復旧セリ「サリナクルス」
方面モ危険ナキカ如シト雖モ鉄道ハ未タ復旧セス、今回ノ
事變ニ不拘一般外国人ハ大ナル危害ヲ蒙ラサリシモノノ如

七八一 五月十六日 在墨國伊藤臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

一六 「メキシコ」革命動乱関係一件 七八一 七八二

九二三

一六 「メキシコ」革命動乱関係一件 七八三 七八四

九二四

「ゴンサーレス」將軍ヲ仮大統領ニ推サントスルモノアシ

リ、機密第四号拙信(註)ノ件ハ詮議見合サレタシ（十八日）

註 機密第四号ハ軍艦八雲迎接者ニ対スル叙述ノ件ナル旨ノ記入アリ

七八三 五月二十日

在墨国伊藤臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

カラランサ等ノ遁走、革命派ノ各省長官任命、

在留日本人ノ被害ノ模様等報告ノ件

第五八号 （五月三十日接受）

貴電第一四号五月二十日接受本件ハ最早其必要ナシト存ズ

各日本人ノ状況ハ今尚詳ナラザルモ軍隊ノ為多少物品ヲ奪

ハレタルモノアル外生命ニハ危険ナカリシガ如ク見ユ但シ

支那人ハ大損害ヲ受ケタリト云フ

「カラランサ」「ボニーヤス」兩氏生命ノ安全ニ関シテハ革
命軍ニ於テ保証シ居レバ心配ナカラムモ今尚革命軍ノ追撃

ヲ受ケ居レリ其中捕ハルルナラン然ラザルモ其再起ノ望ミ

少シ「カラランサ」ノ引揚ト同時ニ入市セル「ゴンサーレス」

將軍自ラ軍政ノ長トナリ仮ニ各省長官其他ノ官吏ヲ悉ク部

下ヨリ任命セルヲ以テ「オブレゴン」將軍トノ間多少面白

カラザル感情アリシモ今ヤ融和セリ

來ル二十四日ノ臨時国会ニテハ「ゴンサーレス」將軍力
「ソノラ」知事「デ・ラ・ウェルタ」ノ中仮大統領ニ選バ

ルベク今ノ分ニテハ七月四日ニ選挙ヲ行フコトトナリ居レ

リ

（追加）在米大使宛在「ロス・アンジエ尔斯」領事經由貴

電第二一六号接受大統領及大使ハ Vera Cruz 州ノ山間ニ

アリ「アギラル」將軍トハ未ダ連絡取レザルガ如シ二三ノ
大臣及將軍之ニ隨フ「ディエゲス」將軍「グアダラハラ」

ニ於テ捕虜トナル

在米大使ヘ電報セリ

七八四 五月二十日

在墨国伊藤臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

墨国外務省事務仮担任者ヨリ在外墨国各公使
及總領事ニ對シ四十八時間以内ニ革命政府ヲ

認ムルヤ否ヤ回答方ヲ命ジタルコト等報告ノ

件

第五九号

（五月二十三日接受）

仮ニ外務省事務ヲ担任セル「ゴンサーレス」派上院議員

「サンチエス、アスコナ」氏ハ在外墨国各公使及總領事ニ

對シ四十八時間内ニ革命政府ヲ認ムルヤ否ヤ回答スヘキヲ

命セルガ電信遲延ト事情不通トノ為ニ今日迄明カニ否認シ

来リタルモノナシト雖モ承認セルモノハ數人アリ

米國領事館ニ於テハ外國旅券ニ對シ査証ヲ与フルコトトナ

レリ

仮大統領候補者「デ、ラ、ウェルタ」ト「ゴンサーレス」

両派議員ハ盛ニ運動シツツアリ其勝敗ハ「カラランサ」派

議員ノ向背ニ依リ決スベシ

外務省事務担任者ハ筆頭公使西爾然丁國公使ヲ私的訪問セ
ル以外各国公使館トハ未タ交通セス

右在米大使、羅府ヘ転電セリ

七八六 五月二十二日 在墨国伊藤臨時代理公使ヨリ

内田外務大臣宛（電報）

カラランサ大統領虐殺サレタルコト等報告ノ件

第六二号

（五月二十六日接受）

往電第六〇号ニ閑シ

大統領ハ「エレロ」ノ為メ虜トナリ虐殺サレタリ「エルギ

ア」將軍、陸軍次官、内務、大蔵両大臣其他一、三人共ニ

殺サル「サツニン」ハ部下ト共ニ逃亡、サル軍隊ノ追撃ヲ

受ケツツアリ其ノ原因ハ不明ナルモ此ノ際ノコト故種々ノ

噂ヲ生ムハ當然ナリ大統領ノ死骸ハ廿三日払暁当地ニ着ス

ル筈

「アギラル」將軍ハ海外ニ出ヅル許可ヲ得タル如シ「ボニ
ーヤス」大使ハ安全ニシテ既ニ自由トナレリ

カラランサ大統領暗殺セラレタル件

（五月二十四日接受）

「カラランサ」大統領ハ二十一日午前一時去ル三月中「カラ

ンサ」軍ニ降服セル「ロドルフオ、エレロ」ニ殺サレタリ

「ボニーヤス」大使ハ安全ニテ降服ヲ交渉中ナリト云フ

一六 「メキシコ」革命動乱関係一件 七八五 七八六

九二五

一六 「メキシコ」革命動乱関係一件 七八七 七八八

ナラズ

其後日本人ヨリノ報告ニ依レバ各地何レモ大ナル損害無キ
モノノ如シ

東洋汽船静洋丸ハ本航ニ限り貨客ヲ受ケザル方宜シカラ

地方ハ未ダ秩序立タズ

五月八日貴方着無号往電トハ何ヲ指スヤ想像付カズ、六日
ヨリ九日迄ハ電信不通ナリ

在米大使及在羅府領事へ転電セリ

(廿二日)

(五月二十八日接受)

在米大使及在羅府領事へ転電セリ

二十四日臨時国会ニ於テ後任大統領ヲ選フ可シ

米、羅府へ転電セリ

七八八 五月二十四日 在墨国伊藤臨時代理公使ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

墨国臨時国会ニ於テソノラ州知事ウエルタ承

繼大統領ニ選任及カラソ大統領葬儀ノ模様

等報告ノ件

第六四号

(五月二十八日接受)

廿四日夕刻臨時国会ニ於テ「ソノラ」州知事「アドルフ・
デ・ラ・ウエルタ」大多数ヲ以テ承継大統領ニ選バレ六月
一日宣誓式ヲ行フ筈「ゴンサーレス」ハ僅ニ二八票ヲ得タ
ルノミ今ヤ国内ノ叛徒大部分革命軍ヲ承認シ「オブレゴン」
ニ従フニ至リ平和復活ノ曙光ヲ見ントスルニ當リ前記投票
ノ結果トシテ「ゴンサーレス」派ニ不平アルハ勿論国民全
然革命軍ヲ謳歌セルニアラズ今後ノ政局愈々紛糾セント杞
憂スルモノアリ

「デ・ラ・ウエルタ」ハ二二日附ヲ以テ行政部及立法部ノ
選舉期日ヲ今回限リ九月第一日曜日迄延期スル旨ノ命令ヲ
発シタリ右ハ今回軍事行動ニ關係セシモノヲシテ九十日前
に従フニ至リ平和復活ノ曙光ヲ見ントスルニ當リ前記投票
ノ結果トシテ「ゴンサーレス」派ニ不平アルハ勿論国民全
然革命軍ヲ謳歌セルニアラズ今後ノ政局愈々紛糾セント杞
憂スルモノアリ

ニ退役セシメ被選資格ヲ有セシメン為ニシテ世ハ「オ」將

軍ノ思フ儘ナル如ク見ユルモ今後ノ形勢予断シ難キモノア

リ

「カラソ」大統領ハ前往電ノ事実ト大同小異ニテ暗殺サ
レ廿四日午後其ノ遺志ニ従ヒ一般墓地ニ埋葬サレタリ右葬
儀ニハ革命派ノ会葬無カリシモ市民ハ群集シテ会葬セリ
「カラソ」派ノ主ナル武将及文官今朝(廿四日)抑留サ
レタリ「ボ」大使コノ中ニアリ下加州知事「カンソー」ハ
形勢観望中ノ処愈々革命軍ヲ承認セリ(五月廿四日)
米、羅府へ転電セリ

外交団ハ大礼服ニテ「カラソ」氏ノ葬儀ニ会葬セリ

七八九 五月二十六日 在墨国伊藤臨時代理公使ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

墨国臨時外務省事務取扱ヨリ大統領ノ死去及

後任選挙ノ結果通報アリタルコト並国内ノ政

局尚紛糾ノ虞アル旨報告ノ件

第六六号 (五月三十日接受)

当國上院外交委員長臨時外務省事務取扱ノ名ヲ以テ筆頭公
使宛(二十四日附ヲ以テ「カラソ」大統領ノ死去ヲ報シ)

一六 「メキシコ」革命動乱関係一件 七八九 七九〇

九一七

十五日附ヲ以テ後任大統領選挙ノ結果ヲ報シ来レリ

「オブレゴン」派ニ蹂躪セラレタル「ゴンサーレス」派ニ
ハ多大ノ不平アルモ当人ハ武力ニ訴ヘテ反抗スル意ナント
云フ又革命軍ニ於テ墨市占領ノ當時両將軍間ニ種々ノ妥協
行ハレシモ「オブレゴン」配下ノ增長ヨリ總テ破壞セラレ
タレハ此上形勢ノ変化予測シ難ク新任大統領カ就任シ首尾
ヨク時局ヲ拾収スルヲ唯一ノ望トシ居ル有様ナルモ其ノ背
後ニ「オブレゴン」及「カエス」將軍ノ牽制アルベク時局
ハ紛糾セントスルガ如シ

在米大使ニ電報セリ

七九〇 五月二十八日 在墨国伊藤臨時代理公使ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

メキシコ新政府承認問題ノ成行ヲ新外務大臣

二問合ノ件

第七四号 (六月一日接受)

二十八日非公式ニ外務大臣ト會見シ承認問題ノ成行ヲ尋ネ
タル處墨国側ニ於テハ外交關係ハ依然繼續セルモノト認ム
ルニ付承継大統領就任ノ通牒ニ對スル各國元首ノ返翰サヘ
アレバ事濟ミトナル次第ニテ他ハ只形式ノ問題ト思惟シ居

一六 「メキシコ」革命動乱関係一件 七九一 七九二

九一八

ル旨ヲ（脱）今回「ガテマラ」ヲ承認セル米国ハ艦テ墨国ヲ承認スルニ至ルベシト樂觀的ニ語レリ猶數日前当地新聞紙上ニ現レタル「オブレゴン」ノ声言中米国ト結合シテ歐洲及日本ノ干渉ヲ防グベシトアリタルニ付其ノ切抜ヲ示シ斯クノ如キハ大統領候補者ノ言トシテ信ゼラレズ日本ハ未だ嘗テ墨国ニ対シ何等ノ害ヲ加ヘタルコトナシト述ベタルニ対シ彼ハ答ヘテ米国ト懇親ヲ結ブハ現政府ノ希望ナルモ夫ガ為他國ヲ引出シ累ヲ及ボスカ如キコトナシ斯ハ全ク新聞記者ノ捏造ナリト弁解セリ又新任独逸公使ハ信任状ヲ持參セルヤト尋ネタル処何等承知セズト答ヘタリ

往電第七三号伯刺西爾公使新任ノ件ハ虚報ノ旨米国代理公使ヨリ承知セリ（二十八日）在米大使ヘ転電済

七九一 六月一日 在墨国伊藤臨時代理公使ヨリ 内田外務大臣宛（電報）

メキシコ新大統領ウエルタ国会ニ於テ宣誓ヲ為シ支那代理公使ハ本國政府ノ電命ニ依リ同氏ヲ仮大統領トシテ之ヲ承認スル旨六月一日附ヲ以テ通告シタリ右ハ當國ニ承認セルモ亦彼ナリシニ鑑ミ暗ニ米国ノ意ヲ酌ミテ為シタルニ非ザルカト疑ハル

「ペスト」患者増加セリ
在米大使済ミ
電信料（経常費）二千ペソ電送アリタシ
（六月三日接受）

De la Huerta ん六月一日午後四時国会ニ於テ宣誓ヲ為支那代理公使ハ本國政府ノ電命ニ依リ同氏ヲ仮大統領トシテ之ヲ承認スル旨六月一日附ヲ以テ通告シタリ右ハ當國ニ承認セルモ亦彼ナリシニ鑑ミ暗ニ米国ノ意ヲ酌ミテ為シ和ノ一手段トシテ為シタルモノナランモ秘露國政府ヲ第一ニ承認セルモ亦彼ナリシニ鑑ミ暗ニ米国ノ意ヲ酌ミテ為シタルニ非ザルカト疑ハル

在米大使済ミ
電信料（経常費）二千ペソ電送アリタシ

七九二 六月二日 在墨国伊藤臨時代理公使宛（電報） 内田外務大臣ヨリ

カラナンサ大統領ノ逝去ニ對スル弔意表彰ニ閣スル措置振及英米等ノ新政府承認問題ニ對スル態度隨時報告方訓令ノ件

附記 墨国革命乱近状調書

第一八号

貴電第六六号ニ閲シ
臨時外務省事務取扱ノ通知ニ對シ外交團ニテ弔意表彰等ノ

第六八号
（六月三日接受）

在米大使

スル旨通告セル件

（附記）

墨国革命乱近状（外務省政務局第一課調）
措置ヲ執ル場合ニハ貴官ハ「カラナンサ」政府ヲ承認セル重ナル外國使臣ノ振合ニ依リ措置セラレ差支ナシ尙新政府承認問題ニ付テハ英米其他ノ使臣ト密接ナル接触ヲ保チ隨時形勢電報アリタシ

右参考ノ為在米大使ヘ転電アリタシ

（附記）

墨国革命乱近状（外務省政務局第一課調）
墨国大統領選挙ハ本年七月四日挙行ノ予定ナリシガ右選挙ニ關聯シテ過般來「カラナンサ」大統領ト大統領候補者「オブレゴン」及「ゴンサーレス」両將軍トノ間ニ争鬪行ハレツツアリンガ其ノ後形勢急変シテ政府軍利アラズ大統領ハ

五月七日各省長官其ノ官吏ヲ率ヒ急遽墨市ヲ去リテ大西洋岸「ヴェラ、クルース」ニ向フ途上追撃軍ト交戦スル

コト八日ニシテ二十一日「ブエブラ」州「ツラスカルテンゴ」ノ村落ニ於テ護衛ノ任ニ当レル「エレロ」ノ暗殺スル

所トナリ遺骸ハ二十三日墨市ニ着シ翌二十四日其遺志ニ從ヒ一般墓地ニ埋葬セラレタリ右葬儀ニ際シ革命派ノ会葬者無カリシモ一般市民ハ群集シテ之ヲ送リ外交団亦大礼服ヲ

着シテ之ニ会セリ

（六月四日接受）

七九三 六月一日 在ロス・アンゼルス大山領事ヨリ 内田外務大臣宛（電報）

下加州知事転任シオブレゴンノ親友アルマダ
後任トナリタル件

（六月四日接受）

一六 「メキシコ」革命動乱関係一件 七九三

九二九

一六 「メキシコ」革命動乱関係一件 七九四 七九五

九二〇

重要ナル地位ニ転ズル事トナリ數年間当地ニ於テ貿易ニ從

事シ居タル墨西哥人 Balzmero Almada 六月一日其後任ニ

任ゼラレ「カソウ」ヨリ平和ニ事務引継ヲ了リタリトノ

事ナルガ同人ハ「オブレゴン」ノ親友ナリト云フ

米、墨ヘ転電セリ

七九四

六月三日

在墨國伊藤臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

墨國新政府承認ニ關シ我在英米仏各大使ニ對

シ任国政府ノ意向探索方訓令アリタキ旨稟請

ノ件

第六九号

（六月六日接受）

貴電第一八号後段ニ關シ当地ニ於テ英米其ノ他政府ノ意図

ヲ明カニ知リ得タルトキハ既ニ當該政府ニ於テ何等カ決定

セル後ナルベキニ付相成ルベクバ英米仏駐在ノ吾ガ大使ニ

対シテモ同様ノ御訓令アリ度シ

七九五

六月三日

在墨國伊藤臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛

墨國騒乱時ニ於ケル在留邦人狀況報告ノ件

附屬書 墨國騒乱時ニ於ケル在留邦人狀況要領

政公信第一三五号

（七月二十六日接受）

大正九年六月三日

外務大臣子爵 内田康哉殿

在墨

臨時代理公使 伊藤敬一（印）

当國過般ノ騒乱ニ際シ国内各地ノ交通一時全然杜絶セシ為

メ在留邦人ノ消息懸念ニ堪ヘザリシ處其後秩序次第回復

シ交通復旧セラルト共ニ各地日本人ノ狀況追々報告ニ接

スルヲ得ルニ至リ候ニ付今日迄接受シタル消息別記要領ノ

通及報告候 敬具

（附屬書）

墨國騒乱時ニ於ケル在留邦人狀況ニ關シ接受セル報告書要領

別記

（一）五月二十七日附在「ソノラ」州「エルモシーヨ」市日

本人会報告、六月三日接到

在留邦人ニ對スル貴館御布告ハ出来得ル限り當州各地ニ亘
リ伝達方取計置申候、當「エルモシーヨ」市ハ今回騒擾ノ
先駆地ナリシニ拘ラズ何等生命財産ノ危険無之邦人一同平
時ノ如ク生計ヲ營ミ居候、諸物価ハ非常ニ高騰致シ今猶平
価ニ復セズ候ヘ共次第ニ下落ノ傾向相見エ申候

（二）五月二十四日附在「ソノラ」州「カナネア」市日置佐
右衛門報告、六月六日着

当地方一帯ハ新聞紙ノ報ズル如キ騒擾無之邦人ニ何等ノ損害
害無之候条御安心相成度候

（三）四月二十三日附在「シナロア」州「マサトラン」港矢

守治作報告、五月二十日着

「ソノラ」州叛乱以来當州官軍ハ統々北方ニ移動致シ居リ
候、當市在留支那人ハ軍事費トシテ五万「ペソ」ノ支出ヲ
要求セラレ直ニ之ニ応ジタルモノノ如ク又他ノ外國商人ニ
対シテモ二十万「ペソ」ノ醸金ヲ申込メルヤニ聞及候モ本
邦人ニ対シテハ未ダ何等ノ交渉モ無之候當州内全ク交通機
関杜絶人心洶々タル有様ニ有之候

（四）四月二十七日附在「シナロア」州「マサトラン」港日

本人会報告、五月二十日着

在留同胞ニ対スル貴館御布告ノ儀ハ當地ハ申スニ及バズ在
ソノラ同胞ニ対シ出来得ル限リノ方法ヲ以テ伝達方取計
申候、通信杜絶ノ為メ詳報ハ知ルニ由ナキモ「ソノラ」叛
乱ハ殆ト全州一致ノ行動ニシテ同地独立新政府ハ秩序ノ維
持ニ努メ一般外人ニ対シテモ十分ニ其生命財産ヲ保護ス可

一六 「メキシコ」革命動乱関係一件 七九五

キ由声明シ居ル由ナレバ在留邦人ノ安否左シテ憂慮スルニ
及バザル可キカト思考セラレ候、尤モ同州ニハ多數ノ支那
人在留シ平時ヨリ排斥セラレ居ル者ナレバ今回ノ騒擾ヲ好
機トシ或ハ迫害ヲ被ルヤモ計リ難ク既ニ種々ノ風説ヲ耳ニ
致シ候、「オブレゴン」將軍ノ配下ニシテ當州知事ノ候補者
タリシ「アンヘル、フローレス」ハ「ソノラ」叛軍ニ響応
シテ兵ヲ挙ゲ當州北部ヲ席捲シ既ニ「クリアカン」（「シナ
ロア」州首都）ヲモ占領致シ候、「クリアカン」市ヲ逐ハ
レタル政府軍ハ當市ニ退却シ來リ「ナヤリット」州及「ハ
リスコ」ヨリノ応援軍ヲ待チテ決戦ヲ期シ居ルモノノ如ク
塹壕ヲ築キ砲列ヲ敷キ居ルヤニモ見受ケラレ候、両軍ノ前
哨ハ當地北方約百基米突ナル「ラ、クルス」ニ対峙中ナル
由ナルガ近日中「ディエゲス」將軍大軍ヲ率ヒテ來リ一挙
叛軍ヲ掃蕩スベシトノ噂專ラ高ク現時ト雖約二千ノ政府軍
當市ノ防衛ニ當リ居レバ万々叛軍ニ破ラル事可無之一時
ニ比シ人心稍平静ニ赴キタル模様ニ有之候、「クリアカン」
邦人ノ動静ハ今日迄之ヲ審ニスルヲ得ズ候、サテ當会ノ特
ニ貴館ノ御保護ヲ仰度キ点ハ當國斯ノ如キ騒擾ニ際シテモ
日本人タルノ事實明白スレバ何等危害ヲ加ヘラル怖可モ

一六 「メキシコ」革命動乱関係一件 七九五

九三二

之ト思考セラレ候モ吾人ノ面貌支那人ニ酷似セルヨリ一度
支那人ト誤解セラルニ於テハ万一千軍当地ニ侵入シ秩序
紊亂ノ際如何ナル迫害ヲ受クルヤモ計リ難ク之レ吾人ノ最
モ怖ルル所ニ付希クハ貴館御差給ニ係ル帝国臣民タルノ証
明書ヲ各自ニ御配布相願度之レ万全ノ策ト存セラレ候此段
御依頼旁御報告申上候

(五)五月二十九日附在「チャバス」州「エスクイントラ」

水野房一、渡辺忠一報告、六月三日着

貴館御配布ノ御注意書一同難有拝見致シ候當地方ニ於ケル

政府軍ハ大多数革命ニ加担セルヲ以テ左シタル戦争ノ慘禍

ヲ見ズニ終リ候へ共山賊軍ニシテ革命軍ニ投降セルモノハ

騒擾ヲ機会ニ掠奪ヲ擅ニシタルヲ以テ彼等ノ跋扈セル地方

住民ハ少カラヌ損害ヲ被リタル由ニ有之候隨ツテ在留同胞

モ幾分ノ巻添ヲ喰ヒタルモ夫ハ真ニ微々タルモノニ有之先

ヅハスノ如キ程度ニ於テ災禍ヲ免レ得タルヲ一同喜ビ居リ

候交通復旧ニ付不取敢右御報告申上候

(六)五月十一日附在「チャバス」州「タパチュラ」辻真報

告、五月二十日着

當地方ニ於テハ内外人商人別段ノ損害モ無之候へ共支那人

人被害ノ件) 六月一日着

岡山県人入谷豊市ハ墨国「コアウイラ」州「ラス、エスペ
ランサス」ニ於テ雜貨二軒ヲ經營致シ居リ候處去ル四月三
十日午後八時「オブレゴン」派ト称スル武装兵十二名ニ侵
入セラレ墨貨式千六百十三「ペソ」五十三仙ニ該当スル商
品ヲ強奪セラレ候ニ付右被害現状ヲ調査セル當地官憲ノ証
明書相添ヘ及御届候

(七)五月五日附在「ヴェラクルース」州「プエルト、メリ
コ」港日本人会報告(邦人被害ノ件) 五月十一日着

熊本県人奥村仁四郎ハ当「ヴェラクルース」州「プエルト、メリ
コ」港ニ於テ木炭及果物販売ヲ業トセル處去ル五月八
日前四時五名ノ兵士ノ為メニ屋内ニ侵入セラレ現金及商
品ヲ合算シテ約千「ペソ」ヲ強奪セラレ候ニ付此旨直ニ當
市々長ニ届出テ置キ申候

右御報告申上候

七九六 六月四日 在墨国伊藤臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

英米両国代表者ニ會見シ墨国新政府承認二對

スル態度打診ノ件

一六 「メキシコ」革命動乱関係一件 七九六 七九七

七九七 六月五日 在墨国伊藤臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

在米大使ヘ電報セリ

九三三

商店ノミハ數軒掠奪セラレ爾後支那人各商店ハ全部閉鎖致
シ居リ候但シ当地方ハ略奪ニ名ヲ得タル「マバチエ」將軍配
下ノ匪徒横行スルヲ以テ何人モ警戒ノ手ヲ緩ムル能ハザル
状態ニ有之上流良家ノ子女ノ如キハ統々隣邦「グアテマラ」
國ニ避難スル有様ナレバ商況不振ナルハ致方モ無之候、當
地ハ五月五日革命軍ノ手ニ占領セラレタルガ當日數名ノ死
者ヲ出シタルノミニテ鎮定致シ候「ウイストラ」「エスクイ
ントラ」在留同胞ニモ左シタル被害無之由ナルモ支那人ハ
例ニヨリ大分ヤラレタル模様ニ有之候

(八)五月十二日附在「ヴェラクルース」州「アカユカン」
水沢潤作報告、五月二十日着

當地方ニ駐屯セシ政府軍ハ本月六日早朝他方ニ撤退シ同日
午後革命軍ニ属スル「カストル」配下ノ「エンリッケ、デ
ィアス」ノ一隊山地ヨリ乗込ミ来リ候、鐵道ハ同日ヨリ不通ト
相成リシ商店ハ全部開店営業ヲ続ケ居リ候「カララン
サ」軍及「オブレゴン」軍ノ勝敗ニ関シ種々流説有之候ヘ
共未ダ確報無之候何レ事件發生ノ際ハ重ネテ御報告可申上
候

(九)五月二十八日附在「コアウイラ」州日本人会報告(邦
人)

一六 「メキシコ」革命動乱関係一件 七九八

九三四

メキシコ新政府承認問題ニ関スル仏、伊公使

ノ意向報告ノ件

往電第七〇号ニ関シ

第七一號

(六月八日接受)

七九八 六月六日

在墨國伊藤臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛

カランサ政府ガ墨都引揚ニ際シ外交団ニ送り

タル公文写及訳文送付ノ件

附屬書 右訳文

政公信第一四〇号

大正九年六月六日

(七月三十一日接受)

在墨 臨時代理公使 伊藤敬一(印)

外務大臣子爵 内田康哉殿

右申進候 敬具

註 外交団長ヨリ亞國公使宛公文写省略

(附屬書)

伊國公使ハ夜間數度「オブレゴン」將軍ノ訪問ヲ受ケタル
由ナルガ其ノ結果同將軍ハ大統領タルノ教養ナク又「カラ
ンサ」氏ヲ暗殺セシメタルモ同將軍ナリト考ヘラルノミ
ナラズ「ゴンサーレス」將軍今後ノ行動ニ付非常ニ関心シ
居ル様子ナレバ時局當分暗黒時代ヲ脱セザルベキニ付承認
問題ハ急グ必要ナント思考スル旨語レリ
支那政府ノ承認ニ關スル外交官一般ノ評判ハ支那人ニ対ス
ル何等保証ヲ要求スルコトナク而モ大統領宣誓式以前ニ於
テ之ヲナスコト更ニ不謹慎ナリト云フニ一致ス

訳文

以書翰致啓上候陳者下名ハ現下特異ノ状態ニ鑑ミ共和国政
府及其首都ヲ一時「ヴェラクルース」市ニ移転スルコトニ
決定相成タル旨ヲ閣下ニ通告スルト同時ニ之ヲ駐墨外交団
ニ移牒セラレンコトヲ冀ヒ併セテ閣下ヲ通ジテ若シ能フ可
クンバ該市ニ移ラレンコトヲ外交団ニ対シ招請スルノ光榮
ヲ有シ候

本官ハ茲ニ閣下ニ向テ重ネテ敬意ヲ表シ候

敬具

千九百二十年五月六日

外務省事務取扱

官房長代理 アルベルト、シー、フランコ

アーヴィング・アンド・カンパニー

ドクトル、ドン、マヌエル、エー、マルブラン閣下

七九九 六月七日 在ロス・アンゼルス大山領事ヨリ
内田外務大臣宛 (電報)

下加州知事更迭ニ關シ「カンツウ」及「アル
マダ」間ニ未ダ話合附力ザル旨報告ノ件

第五三号

(六月九日接受)

費又ハ冥加金トノ関係上知事ノ交迭ヲ欲セズト云フ

在米大使、在墨公使ヘ電報セリ

一六 「メキシコ」革命動乱関係一件 七九九

九三五

一六 「メキシコ」革命動乱関係一件 八〇〇 八〇一 八〇一

九三六

八〇〇 六月八日 在墨国伊藤臨時代理公使ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

メキシコニ於テ臨時国会召集ニ闇スル件

第七二号

(六月十三日接受)

来ル二十日ヲ以テ臨時国会召集サル主ナル議案ハ選挙法ノ

改正地方知事任命労働法ノ制定等ニシテ最後ノモノハ外国

人ノ利害ニ関係ヲ及ホスヘシ

最後迄「カラランサ」ニ從ヒシ内務大臣其ノ他ノ將官連九日

ヨリ公判ニ附セラル

八〇一 六月十五日 在ロス・アンゼルス大山領事ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

「カンツウ」ノ下加洲知事再任ニ關シ新聞報道

ノ件

第五四号

(六月十七日接受)

拙電第五三号ニ閲シ

「アルマダ」ハ運動ノ為目下首府ニ向ケ旅行中ノ由ナルガ新聞報ニ依レバ「カンツウ」ハ十四日仮大統領ヨリ知事ニ再任セラレタリトノ事ナリ

在墨公使ヘ転電セリ

八〇二 六月十七日 在墨国伊藤臨時代理公使ヨリ

内田外務大臣宛

墨国政変前後ニ於ケル外交的附隨事件報告ノ

件

政機密公信第二一号

(七月三十一日接受)

大正九年六月十七日

在墨臨時代理公使 伊藤敬一(印)

外務大臣子爵 内田康哉殿

(一) 外交団會議、米國大使不在中外交團長タリシ 諾威公使 Michael Strom Lie 氏ハ多年当國ニ在勤シ 墨国ニ於ケル所謂革命ナルモノヲ実見シタル人ニシテ當國人士ニモ

氣受ヨク且ツ各國ノ同僚ニ対シテハ公平親切ナリシ処夫
人ガ墨国大統領ノ改選期近ヅクニ從ヒ人心動搖シ騒擾ノ起ランコトヲ虞レタルト他ニ家事上ノ都合トニヨリ本年四月末ヲ以テ賜暇帰朝ノ途ニ就キタル為亞爾然丁國公使ノ Doctor Manuel E. Malbrán 氏其後ヲ承ケ筆頭公使ノ地位ニアリシガ同氏ハ去ル五月六日急使ヲ走セテ同日午後外交団會議ヲ召集シ其席上同公使ハ「今朝來耳ニセル所ニヨレバ「カラランサ」政府ハ急ニ「ヴエラクルース」

市ニ引揚グルノ決心ヲナシタルモノノ如シ若シ之ガ現実スル場合外交團ノ執ルベキ態度如何、又反対派ガ墨市ヲ占領スル場合ニ於テ如何ナル態度ニ出ヅベキヤ等ニ就キ意見ヲ交換シ度シト陳ベタルガ其日ハ何等纏リタル決議ヲ見ズ(事前に於テ決議スルハ早計ナリトノ意見勢力ヲ得タリ)唯臨機応變的ニ時ノ當局ト交渉シ便宜各国民保護ノ方法ヲ講ジ其他ハ總テ本国政府ノ訓令ヲ俟チ行動スルヨリ外ニ良策ナシト解散セリ

右第一回會議ニハ英國代表者ヲ除ク一切ノ代表者出席セ

ルガ亞國公使ニ於テ何故英國ヲ無視セルヤノ理由ハ

一、「カラランサ」政府ハ英國ト外交關係ヲ断チ其代表者ヲ認メ居ラズ

一、現在英國公使館事務ヲ執ル H.A. Cunard Cummins 氏ハ同館ノ記録ヲ保管セルノミニテ本国政府ヨリ外交官トシテ認メラレタルニ非ズ(「カミンズ」ハ本国ヨリ正当ニ外交官トシテ認メラレ居ル旨主張ス)
ト云フニアリシモ其裡面ニハ外国人ニ往々見ラル個人的感情ノ蟠ルモノアリ、即昨年七月中英國公使館ニ於テ戰捷祝賀ノ為大夜会ヲ催シタル際中立國代表者ヲ招待セ

一六 「メキシコ」革命動亂関係一件 八〇一

ザリシ為(英代表者ノ説明ニヨレバ西班牙公使丈ハ其依頼ニヨリ個人的ノ友人トシテ招キタル由ナリ)亞國、智國両公使ハ大ニ感情ヲ害シ就中後者ノ如キハ其後公衆ノ面前ニ於テ「カミンズ」氏ニ握手ヲ拒絶シ侮辱ヲ与ヘ亞國公使ハ本国政府ニ其顛末ヲ報告シタル程ノ間柄トナリ居レルヲ以テ恐ラクハ智、亞両國公使間ニ打合ノ上英國ヲ排斥シタルモノト察セラル然ルニ同盟側タル仏、伊、白代表者及西班牙公使(米國ハ之ニ与ラズ)ハ之ニ対シ非常ニ不満ヲ抱キ其後寄々会合ノ上斯ル異常ノ場合ニ際シ最大ノ利益ヲ代表スル英國代表者ヲ除外スルハ其意ヲ得ズ即「カラランサ」政府ガ依然トシテ首府ニ存在スル場合ハ之ニ遠慮スル亞國公使ノ態度尚首肯シ得ベキモ既ニ同政府ハ首府ヲ見捨テントシツアル危急ノ場合ニ際会シ各国代表者ノ意見ヲ交換セントシヌ方リ徒ラニ Proto-col ノ定式ニ藉ロシ若クハ個人的感情ニ制セラレ英ヲ無視スルハ公平ナラズ(「カミンズ」氏ハ永年墨国ニ在勤シ「ヴィヤ」「サパタ」ヲ始メ多数ノ武将連ト親交アリ能ク墨国ノ国情ニ通ズルヲ以テ仮令非公式ナリトモ同氏ノ出席ヲ求ムレバ大ニ吾人ノ参考トナラント言フ者モアリ

一六 「メキシコ」革命動乱関係一件 八〇一

九三八

キ) 又墨国ニ於テハ殆ト半文錢ノ利益ヲモ代表セザル南米及中米ノ外交官ト共ニ時局ヲ談ジ彼等ト行動ヲ共ニスルコトハ大ナル利益ヲ代表スル歐洲外交官ノ忍ビ能ハザル処ナリトノ意見モ行ハレ結局仏、白、伊、西代表者ハ今後ノ外交団會議(虚名ニ憧レ銜氣鼻持チノナラサル南米外交官ヲ團長トシ同僚トシ彼等ヨリ無益ノ國際法論ヲ聴カサレ無闇ニ騒立ツルヲ好マズ我等ハ各ノ利害ヲ考量シテ適宜ノ処置ヲ為セバ足ルトノ感情論モ出デタリ)ニハ出席セザルコトヲ約セリ

『第一回會議ニ出席前英國代表者ハ小官ヲ訪ヒ可成自分ヲ出席セシムル様斡旋シ與レト依頼セシヲ以テ小官ハ團長ニ対シ日本ノ同盟國タル英國ノ代表者ヲ本席ニ見ザルハ大ニ遺憾トスルノミナラズ墨国ニハ日本領事ノ駐在スルモノナキヲ以テ万ノ場合ニハ日本人ノ保護ヲ英國領事ニ依頼セザル可カラザル關係モアルニ付非公式ナリトモ「カミンズ」氏ヲ招カレ度旨申述ペタルモ亞國公使ハ「貴下ガ英國ヲ代表スレバ宜シカラシ」ト揶揄シタル後智利公使ヲ拉シテ他室ニ至リ密語セル外何等ノ回答ヲ為サザリシニ付小官ハ其上敢テ固執スル

ル處ナリトノ意見モ行ハレ結局仏、白、伊、西代表者ハ今後ノ外交団會議(虚名ニ憧憬レ銜氣鼻持チノナラサル南米外交官ヲ團長トシ同僚トシ彼等ヨリ無益ノ國際法論ヲ聴カサレ無闇ニ騒立ツルヲ好マズ我等ハ各ノ利害ヲ考量シテ適宜ノ処置ヲ為セバ足ルトノ感情論モ出デタリ)ニハ出席セザルコトヲ約セリ

『第一回會議ニ出席前英國代表者ハ小官ヲ訪ヒ可成自分ヲ出席セシムル様斡旋シ與レト依頼セシヲ以テ小官ハ團長ニ対シ日本ノ同盟國タル英國ノ代表者ヲ本席ニ見ザルハ大ニ遺憾トスルノミナラズ墨国ニハ日本領事ノ駐在スルモノナキヲ以テ万ノ場合ニハ日本人ノ保護ヲ英國領事ニ依頼セザル可カラザル關係モアルニ付非公式ナリトモ「カミンズ」氏ヲ招カレ度旨申述ペタルモ亞國公使ハ「貴下ガ英國ヲ代表スレバ宜シカラシ」ト揶揄シタル後智利公使ヲ拉シテ他室ニ至リ密語セル外何等ノ回答ヲ為サザリシニ付小官ハ其上敢テ固執スル

大佐ノ新宅ニ掲ゲタリ然ルニ後ニ至リ首都ヲ占領セル革命軍仮政府ハ前政府ニ属セル自動車ノ所在ヲ取調ブル必要アリトテ警吏或ハ兵士ヲ送リ屢同公使ヲ煩ハシタル由ナリ

(三)敵ノ毒手ニ斃レタル「カラランサ」氏ノ遺骸當市ニ着シ五月二十四日埋葬セラレシ際仮政府ハ「カ」氏カ憲法ニ違反シ擅ニ首府ヲ移転セント企テタルハ正ニ大統領ノ資格ヲ失ヒシモノトシ何レノ官庁ニモ弔旗ヲ掲ゲズ大統領ニ對スル礼遇ヲ与ヘザリシガ駐墨外交団ハ「カ」氏ニ最後ノ敬意ヲ表スペク大礼服ニテ会葬シ墨国民ニ対シ一種ノ好感ヲ与ヘタリ

(四)前「ソノラ」州知事 Adolfo de la Huerta 氏ガ承繼大統領ニ選バレ六月一日ヲ以テ宣誓ヲ行ヒシ前仮政府ノ臨時外務省事務取扱 Juan Sánchez Azcona 氏(「サンサーレス」派ノ領袖、上院外交委員長、新聞記者、外交官)ハ伊、仏、西、白等ノ政府ニ対シ其代表者ヲ右宣誓式ニ臨席セシメラレ度旨懇請セシガ上記諸國ハ孰レモ其代表者ニ對シ機宜ノ処置ヲ為ス可キ旨電訓セル由ニテ彼等ハ協議ノ出席セザルコトトセリニ当日臨席セシハ支那代理公

コトナク会合終リタル後英國代表者ニ其次第ヲ報じ置ケリ』

第二回外交団會議ハ五月十日ヲ以テ召集サレンガ當日電話ニテ伊、西、白、仏ノ代表者ヨリ不參ノ旨通知アリシヲ以テ小官ハ亞國公使ノ私怨ヲ買ハザル様当日午後ニ至リ「急用出来シタルヲ以テ今回丈ハ不參ヲ宥サレタシ」ト申送リ欠席セルガ會議ノ席上ニテハ英國代表者ノ資格ニ就キ亞國公使ノ説明アリタル外何等要領アル討議モナカリシ由ナリ因ニ米国代理大使ハ「モンロー」主義ノ關係上南米諸国ト離レ能ハザル事情アリ一回トモ出席セルモ始終黙シテ一言ノ意見モ陳ベザリシ由ナリ

(五)「カラランサ」政府都落チノ数日前、當時ノ鐵道綿裁 Col. Paulino Fontes (巨額ノ資本ヲ拵ヘタリトノ噂アリ最近立派ナル住宅ヲ新築セリ、「カラランサ」没落後一度革命軍ニ捕ハレタルモ免サレ其後変装シテ米国ニ逃レタリ)ハ智利公使ノ人格ヲ見抜キタルモノカ其新住宅ニ智利公使館ヲ移シ以テ後ノ政府ガ之ヲ没収ゼンコトヲ防ガント企テタルガ平素同僚ヨリ穢ナガレ居ル同公使ハ一議ニ及ハズ即刻移転ヲ承諾シ同公使館門標ヲ「フォンテス」

使一人ナリ(同代理公使ハ頗ル好人物ニシテ上記「サンチエス、アスコナ」氏トモ往復セルコトアリ同氏ガ政変ノ際隠匿セシ場所ヲモ承知セル由ナレバ支那ガ今回率先シテ墨国ヲ承認セルモ「サンチエス」氏ニ於テ支那代理公使ヲ懲罰シタル結果ニ非ザルカ)

(六)亞爾然丁國公使ハ從來極端ナル反米(或ハ親独)思想ヲ有シ拉丁亞米利加ノ結合ニ関シ「カラランサ」氏ト意氣大ニ相投ジ(或ハ「カ」氏政府ノ信任ヲ得ンガ為メナリキトモ云ハル、兎ニ角拉丁系ノ典型タル余リ信賴シ難キ感情家ナリ)内外人ヨリ熱烈ナル「カラランシスト」ト目サレタル人物ナルガ今回ノ政變後急ニ「オブレゴンニスト」ト変ジ本国政府ヘ打電シ「南米諸国ヲ勧誘シテ速カニ仮政府ヲ承認スル」様提議セリト云フ(前大藏大臣「カブレラ(氏同公)」使館ニ隠レ居ルトノ噂モアリ)タルニ拘ラズ当地ニ於テハ米国ニ公使タリ大親獨派トシテ知ラレ(或ハ独人ニ旅券ヲ下付セリトカノ噂モアリ)タルニ拘ラズ当地ニ於テハ米国代理大使ト大ニ親交アリ「カラランサ」氏逝去後最後迄同氏ニ附隨シタル文武官數名ガ過半來當地陸軍監獄ニ収

一六 「メキシコ」革命動乱関係一件 八〇二

九四〇

容サレ居ルヲ見テ亜国公使ト同道シテ之ヲ慰問シ或ハ屢外務省ヲ訪問スル等多少人氣取的行動ヲナシ新聞紙上ニ人ノ注意ヲ惹ケルガ心アル外交官ハ皆其不謹慎ヲ笑ヒ其中ニハ禍ノ來ランコトヲ予占セリ

(七)六月十四日前記被収監者ノ一人 Gral. Barragán (カラシナ) 氏直属參謀長) ガ突然監視人ヲ置去リ逃亡スルヤ

丁度同人ノ住宅背後ニ当リ伊国公使館事務所アルノ故ヲ以テ仮政府ハ「バラガン」ガ必ズ伊国公使館ニ庇蔭ヲ求メタル (前大藏大臣「カブレラ」氏モ或ル公使館ニ隠レ居ルトノ風評アリ) モノト察シケン當夜ヨリ「ヤキ」蛮賊ヨリナル兵士ヲ其附近 (〔バラガン〕宅ト伊公使館ヲ中心トスル一区画) ニ配置シ出入ヲ警戒セル処恰モ當夜所要アリテ事務所ニ来リ再び外出セントスル伊公使 Ste. fano Carrara 氏ノ面前ニ四名ノ兵士現ハレ銃口ヲ其胸部ニ擬シ「即刻屋内ニ退クベシ然ラザレバ発砲ゼン」ト脅迫セシカバ 同公使ノ抗議トナリ陸軍省ヨリハ衛戍總督「ビル」中将ヲ外務省ヨリハ一吏員ヲ派シテ謝罪セシメ落着セル一事件アリ

(八)亜爾然丁公使館ニテハ元大學總長「マシアス」氏ヲ英國

トニオニ遁レタリ又「マシアス」氏モ「デ、ラ、ウェルタ」ヨリ旅券ヲ得テ海外ニ脱レタルコトヲ確聞セリ

八〇三 六月十九日 在墨國伊藤臨時代理公使ヨリ

墨國新政府承認問題ニ關スル各國ノ態度報告

並我方ノ執ルベキ態度ニ關シ意見稟申ノ件

政機密公信第二三号 (七月三十一日接受)

大正九年六月十九日

在墨

臨時代理公使 伊藤敬一(印)

外務大臣子爵 内田康哉殿

墨國承認問題ニ關スル件

本件ニ關スル英米仏伊代表者ノ意見ハ往電第七〇号及第七一号ヲ以テ報告申進置候處米國側ノ主張スル点ハ墨國憲法第八十四条第三項ニ

大統領闕位ノ場合ニ於テ国会閉会中ナルトキハ常置委員会仮大統領ヲ任命シ臨時議会ヲ召集シ承繼大統領ヲ選舉セシム云々 (常置委員会ハ殆ト「ゴンサーレス」派ニ買收サレタル為「オブレゴン」派ニ於テ同委員会ハ定數ニ

一六 「メキシコ」革命動乱関係一件 八〇三

満タゞ又「カラランサ」ニ隨ヒ行キシモノ多キヲ以テ憲法上其資格ヲ失セリト称セリ)

トアルニ拘ラズ「ソノラ」州知事ガ「アグア、プリエタ」盟約 (Plan de Agua Prieta) ニヨリ臨時議会ヲ召集シ承繼大統領ヲ選バシメタルコト及同知事ガ次期大統領選挙期日ヲ九月五日ニ延期シタルハ違憲ナルニ付承認問題ハ今急ニ之ヲ議スルノ時機ニアラズト云フニアリ然レバ在當地米国代理大使「サムマリン」氏 (往電第三五号ヲ以テ同氏帰任セザルベシトノ疇アリシ旨報告セルモ同氏ハ五月二日当市ニ帰還セリ) ハ米國政府ノ訓令ニ基キ万止ムヲ得ザル場合非公式ニ外務省ト書翰ノ往復ヲナス以外當國仮政府トハ表面上交通ヲ絶チ居リ現ニ本月十八日新任外務大臣「コヴァルビアス」氏ノ訪問ヲ受ケタル際ニモ「米墨間ニハ大小幾多ノ問題アルニ付貴下ト非公式ニ聯絡ヲ保ツコトハ最望マシキ所ナルモ其為米國政府ガ暗黙裡ニ墨國仮政府ヲ承認セル如ク認識サレザランコトヲ望ム」旨懇々声明シ置キ又今回墨國政府ガ「イグレシアス、カルデロン」ヲ米國へ派遣スル為旅券査証ヲ同代理大使ニ依頼シ來レルニ対シテモ單ニ國境及沿道ノ官憲ニ対シ非公式ノ護照ヲ与ヘ其旅券ニモ

公使館ニテハ前大藏大臣「カブレラ」氏ヲ又伊國公使館ニテハ一墨人ヲ庇蔭シ居ル旨米國代理大使ヨリ内聞セリ、然レドモ之等ハ總テ風説ニシテ真偽ヲ詳ニセズト雖「バラガン」副少將ガ逃亡セル時亜国公使館前ニ一時兵士ヲ立番セシメタルハ事實ナリ

〔余録〕「カラランサ」政府ノ首府引揚前数日間ハ「ヴェラクルース」首府間ノ鉄道交通全ク絶工時々軍用列車ノ中間駅ヲ往復スルニ過ギザリン為「ヴェラクルース」行旅客ハ非常ニ因難シ居リシガ恰モ「カ」政府ガ堂々三十余ノ列車ヲ並べ引揚グルニ方リ旅客ハ此機ヲ逸シテハ当分同海港ニ出ヅル能ハズトナシ夫々黄白ヲ使用シ便乗セルモノ多数アリシ由ナルガ中ニ在「ヴェラクルース」英國領事アリ其生命ニ関シ大ニ氣遣ハレタルモ「カ」軍敗北ト同時ニ叛軍ニ救ハレ無事帰港セリ、又右ノ内在「サリナ、クルス」齋藤弥一ナルモノモアリシガ之モ英國領事同様ノ待遇ヲ受ケ無事「ヴェラクルース」ニ送還セラレタリ

右及報告候 敬具

(備考) 本文記載「バラガン」副少將ハ無事「サン、アン

Alto Comisionado con carácter de Embajador Plenipotenciario ナル名義ヲ挿入セシメタル由ニ有之候從ツテ同代理大使ニ於テハ今日迄仮政府ノ如何ナル官人ヲモ訪問シタルニ対シテハ近々平服ノ儘ニテ答訪セン考ナリト申居候尚筆頭公使タル亜国公使ニ於テハ現承継大統領ガ憲法上適法ニ選バレタル者ト信ジ居ル由ニテ近々新外相ヨリ外交官ニ対シ大統領紹介ノ案内モアランガ其節ハ招ニ応ズル考ナリト申居ル外（米代理大使ハスル場合自分ハ不参スル考ナリト云ヘリ）白耳義、瑞典其他ノ代表者ヲ歴訪シテ速ニ現政府ヲ承認スルノ必要アル旨説キタル由ニ候

仏國代理公使及英國代表者ハ米代理大使ノ如クナラズ可成墨国政府ニ悪意ヲ示サズ円滑ニ事務ヲ処弁セン為非公式ニ「オブレゴン」將軍其他ノ武将ヲ訪ヒ又ハ承継大統領ニモ面謁シ新外相ヲモ訪問セル由ニ有之承認問題ニ関スル仏代理公使ノ意見ハ之ヲ急グノ必要ナキモ余リニ米国ヨリ遅レ為ニ墨国民ニ悪感ヲ抱カシムルハ不得策ナリト云フニアルモ英國代表者ハ今回 Mexican Railway (「ザ・モルタルーズ」線) ノ返還ヲ受ケタル等中々機敏ニ立廻リ (「カラランサ」時

代ニモ英墨外交關係絶エ居リシ為他ノ外交官ト異リ何等拘束ナキ行動ヲナシ居リシガ今回政変ノ為出現セシ仮政府ハ英國ガ「カラランサ」ヲ承認セザリシヲ徳トシ可成英國ノ歎未ダ何等決定スルノ時機ニ達セズト申居リ英國政府ノ意向ニ関シ何等洩ラス所無之又自身ニ於テモ實際何等具体的意見ヲ定メ居ラザル様子ニ有之候

白耳義公使ハ小官ニ対シ墨国憲法上ノ問題ハ外国人ノ彼是申スベキモノニ非ザルベキモ承継大統領ヲ任命シ得ルニ至レルハニ「カラランサ」ノ死ニヨルニ拘ラズ其死因ヲ糺明スル為ト称シ最後迄「カラランサ」氏ニ附隨セル内相其他ノ軍人ヲ投獄シ (「オブレゴン」直參墨市衛戍總督「ビル」中將ノ如キハ略式軍事裁判ニヨリ彼等ヲ銃殺セント主張セル) 「カラランサ」將軍其他ノ武將ヲ訪ヒ又ハ承継大統領ニ於テ同中將ヲ宥メタル為今日迄其生命ヲ救ヒ得タルナリト云フ) 置キ乍ラ肝心ノ責任者タル「カラランサ」殺害者「エレロ」ヲ起訴スルコトナク自由ニ放任シ (尤モ亜国公使ノ如キハ「オブレゴン」ハ「カラランサ」ノ死ニ対シ非常ニ悲嘆シ居ルノミナラズ犯人ヲ嚴罰ニ処センコトヲ欲スルモ何分其周囲ニハ幾多過激軍人アリテ

犯人ノ逮捕ヲ肯ゼズ若シ「オ」將軍ニ於テ自己ノ意思ヲ断行セバ勢ヒ彼等ノ離側ヲ免レズ故ニ不本意乍ラモ今日迄彼ヲ市中ニ横行闊歩セシメ居ル次第ナリト恰モ「オ」將軍ノ弁護人ナルカノ如ク同僚間ニ説廻リ居ル由ナルモ「エレロ」ガ単身首府ニ来リ証人トシテ屢々法廷ニ出入シ居ルモ畢竟「オブレゴン」ガ彼ノ自由ニ対シ保障ヲ与ヘタル為ニシテ「オブレゴン」ハ外国ノ承認ヲ得ン為只表面ヲ粉飾シ居ルノミナリ) 置クコト甚ダ心得難キコトニシテ「ウイルソン」大統領ノ所謂「血ヲ以テ購ヒタル政権」ハ承認シ難シト云ハザル可カラズ故ニ白国ハ當分承認問題ニ触ルコトナク便宜当局ト聯絡ヲ保チ (新外相ノ訪問ニ対シ同公使ハ私信ヲ認メ其答礼ガ承認ヲ意味セザル了解ニ於テ之ヲ為シ度シト申送リ先方ノ回答ヲ待チ居ル由ナリ) 米国ノ為ス所ヲ観望スベシト語リ候

往電第七三号独逸公使 (「カラランサ」時代ニ任命サレタルモノ) 起任ノ件ニ關シ瑞典代理公使ヲ經テ内情ヲ探り候處新獨公使ハ當分国書ヲ捧呈スルコト無カルベク現任独代理公使ニ於テモ可成新公使ヲ拘束セザル方針ニテ墨仮政府トハ交渉ヲ避ケ居リ新外相ノ訪問ニ対シテモ其私宅ニ名刺ヲ

一六 「メキシコ」革命動乱関係一件 八〇三

九四四

非ザレハ各本国ニ於テ眞面目ニ研究セラレザルベク其遲速ハニ米国ノ態度ニヨリ決スベシト云フニ一致シ居ルヤニ見受ケラレ候へ共明日ノコトハ容易ニ予断致難ク候唯南中米諸国中或ハ急ギ墨国ヲ承認スル國ヲ出ス（仮政府ハ米国ニ対シ「カルデロン」ヲ歐洲ニ対シ「バラヴィチニ」ヲ特派シ墨国ノ現状ヲ説明シ併セテ非公式ニ承認問題ヲ交渉セシメントスル（「カラランサ」政府ニ叛キ居リシ「サパタ」派「ペラエス」派「イヒニオ、アギラール」派皆

「オ」將軍ニ合シ新政府ヲ援ケ「ディアス」モ近々国外ニ去ルベシト伝ヘラレ残ル叛徒ハ「ヴィヤ」ノミニテ表面上墨国ハ平和ナル觀アリ）ト同時ニ亞爾然丁ニ対シテハ「ウルエタ」ナル能弁家ヲ公使トシテ派遣スルニ決シタリ又「グアテマラ」國ヨリハ相互承認ノ交渉ヲ為サシムル為既ニ一特使ヲ出發セシメタリト云フ）コトアル可キハ予想ニ難カラズ現ニ前記亞爾然丁公使ノ如キハ米国ノ墨国干渉ヲ拉丁亞米利加ノ結合ニヨリテ防ガントスル底意ヲ有スルガ如クニモ觀察セラレ候へ共此等中南米諸国外交官ノ行動ニ関シ歐洲ノ外交官ハ深ク考慮ヲ与ヘ居ラザルガ如クニ有之候尚墨国側ニ於テハ一日モ早ク米、英ノ承認ヲ得ント欲シ

八〇四 六月二十二日 在墨国伊藤臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛

墨国新政府承認問題ニ關スル西班牙公使ノ談

話等報告ノ件

政機密公信第二四号

（七月三十一日接受）

大正九年六月二十二日

在墨

臨時代理公使 伊藤敬一（印）

外務大臣子爵 内田康哉殿

墨国承認問題ニ關スル件（第二）

本日西班牙公使 Marqués de González ト会見シタル際墨

国承認問題ニ關シ同公使ノ為セル談話要領左ノ如シ

承認問題ハニ米国ノ態度ニヨリ決スベキハ勿論（同国

ハ墨国ニ於テ最大ノ利害關係ヲ有スルモノニ付例ヘバ石

油問題ヲ墨国ニ譲歩セシメ急ニ承認ヲ為スヤモ不計ト

雖ニシテ從来「ウィルソン」大統領ノ聲言セル所ニ拠

レバ今急ニ承認ヲ為ス可シトモ考ヘラレズ故ニ吾人ハ其

間當國仮政府ニ対シ承認ヲナシタルガ如キ挙動ヲ示サザ

ランコト肝要ナリ然ルニ墨国承認大統領始メ其他ノ官人

一六 「メキシコ」革命動乱関係一件 八〇四

一意其歎心ヲ求ムルニ焦慮シ（特ニ米国ニ對シテハ同國共和党ノ時代來ラザル前ニ承認ヲ得ントシ）大統領ハ米国通信員ヲ招キテ会食シ或ハ「ウェルズ、ファルゴ」通運会社、鉄道会社等ヲ返還セント声明シ米大使館ヘハ屢人ヲ送リテ米墨和親ノ為有ラユル努力ヲ為スベシトカ或ハ石油令ヲ可成寛大ニ解釈スベシ等唱ヘシメ「オブレゴン」自身モ米国通信員ニ對シ頻リニ親和声明ヲナシ英國代表者ニ對シテモ勉メテ親密ノ態度ヲ示シ居リ候

事情右ノ如クニ有之候ニ付日本ニ於テモ承認ヲ急グ必要ハナカルベク英、米、仏等ノ為ス所ニ倣ヒ仮政府トハ非公式ノ接觸ヲ保チ其感情ヲ害セザル様努ムルノ外ナカル可シト被存候因ニ支那代理公使ハ今回急ニ帰国スルコト相成候處当地ノ同僚間ニテハ彼ガ墨国ノ承認ヲ余リニ急ギタル為召還サルルニ至リタルナラント噂シ居リ候ヘ共本人ハ賜暇帰朝ノ上多分瑞典ニ赴任スルナラント申居リ候尚新任公使ノ赴任期モ未ダ決定セザル由ニ有之候

右及報告候 敬具

写送付先 在米大使

刺ヲ残シ、伊、白、米代表者ハ私信ヲ以テ自分等ノ答訪ガ承認ヲ意味スルモノニ非ザルノ了解ヲ以テ近日中ニ答礼シ度云々ト申送リタル為新外相ハ本日ノ新聞紙上左ノ如ク声明シ居レリ

外務大臣ノ声明書

予ハ引続キ各交国外交官ノ訪問ヲ受ケ居ル次第ナルガ

各外交官孰レモ皆教養アリ尊敬ニ值スル人士ナリ然レ

バ此等ノ人々ト私的關係ヲ結ブコトハ予ノ最欣幸トス

ル所ナリト雖外交慣例ニ通ゼザル人々ハ前記外交官ノ

礼讓行為ニ對シ懲リタル解釈ヲ為シ易キモノナルニ付

予ハ茲ニ此等諸士ガ外務省又ハ其長官ヲ訪問セラル

コトハ同様ノ礼讓行為ニ応酬セン私的希望及政府吏員ト懇親ヲ結ハントスル外何等ノ意味ナキモノナル事ヲ

声明ス

尚今回西、英、伊、仏、白五ヶ国ニ Confidential Am.

bassador トシテ派遣セラルル「バラヴィチニー」氏ニ対シ在留西班牙人ニ於テ盛大ナル送別会ヲ催シタルモ自分ハ之ニ出席スルコトヲ避け又同氏ノ旅券ニ対シテモ査証ヲ謝絶シタルガ恐ラク西班牙ハ勿論英、伊両国ニ於テモ同氏ノ資格ヲ認め接受セザルベシ云々

本件ニ關シ仏國代理公使ノ語レル所ニヨレバ「バラヴィチニー」氏ハ歐洲戦争中非常ニ聯合側弁護ニ勉メタル仁ナレバ今回歐洲ヘ出張中相当ノ待遇ヲ与フベキハ当然ナリト思考セラルルヲ以テ同代理公使ハ本国政府ヘ其旨打電シ同氏ノ旅券ニモ査証ヲ与ヘタル趣ナリ（「バラヴィチニー」ガ帰墨後仏國ニ対シ怨声ヲ放タンコトヲ虞ルトモ云ヘリ）尚仏國ノ在留民ハ昨二十一日「オブレゴン」將軍ニ昼餐ヲ饗シタル処仏代理公使ハ之ニモ出席シ（米代理大使ハ仏代理公使ノ態度ニ就キ多少猜疑シ居ル様子ニモ見ユ）新外相ノ訪問ニ先ソジ之ヲ往訪セル由ナリ

因ニ米国へ派遣セラルル「イグレシアス、カルデロン」ノ辞令ハ之ヲ知ル能ハズト雖「バラヴィチニー」ノ辞令ハ左ノ通りナリ

墨西哥合衆国

貴トノ有スル長所ニ鑑ミ予ハ貴下ヲ英國、仏國、白耳義、伊太利及西班牙ノ各國政府ニ対スル Confidential Ambassador ニ任命ス、惟フニ前記諸国ニ於ケル貴下ノ名声ハ貴下ガ墨国現下ノ時局ヲ説明シ併セテ最善ノ親和、和平、正義ノ基礎ニ於テ世界各国ト親交関係ヲ増進セントスル現政府ノ冀望ヲ闡明セラルル為此等諸國ト交渉セラルルニ方リ貴下ガ必ズ Persona grata タル可キヲ保障スルモノニテ貴下ガ現政府ノ名ニ於テ陳述スル所ハ到ル處ニ信用ヲ受クベキヲ疑ハズ合衆国行政部ハ貴下ガ俸給若クハ旅費ノ意味ニ於ケル報酬ナシニ此名譽職ヲ受諾セラレタル清廉ヲ感謝ス（ソモ拘ラズ一万「ペ」）

（有効ナル選挙、不再選）

千九百二十年六月十四日政厅ニ於テ

大統領 アドルフォ、デ、ラ、ウェルタ

外務次官 ドクトル、クッベルト、イダルゴ
右及報告候 敬具
写送付先 在米大使

八〇五 六月三十日 在墨国伊藤臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛

墨国仮政府ノ外務大臣ヲ非公式ニ訪問シ新政

府承認問題ノ成行、日墨關係等ニ付会談ノ件

（八月五日接受）

政機密公信第二五号

大正九年六月三十日

在墨 臨時代理公使 伊藤敬一（印）

外務大臣子爵 内田康哉殿

承継大統領ハ当然「カラランサ」政府ヲ繼承セルモノト信ジ居ルガ故ニ各國トノ外交關係ガ断絶セルモノト思惟セズ依テ墨國ヨリハ更メテ承認ヲ求ムル必要ナシ要ハ唯各國元首ニ対シ承継大統領就任ノ挨拶ヲナシ（或國ニ対シテハ既ニ発送セリ）之ニ対スル返輸ヲ得レバ其レニテ事足ル（註、之ハ即チ承認ヲ意味スルニ拘ラズ彼ハ只形式上ノコトナリト云ヘリ）

ト答ヘ候次ニ本月十九日ノ当地「ウニヴェルサール」新聞

（別添）紙上左ノ電報掲載有之候（別添同日夕刊仏字新聞ニモ転載シアリ）

「サン、アントニオ」発六月十八日

「オブレゴン」將軍ハ屢各国外交官ト會見セルガ最近ニ於テ某大国ノ代表者ト長時間ノ會談ヲ遂ゲタリ（註、亞爾蘭丁、伊太利、仏國、英國等ノ代表者トモ會見セルガ此所ニハ米代理大使ヲ指スナラン）

而シテ該会談中「ソノラ」州出身ノ同將軍ハ彼レガ政權ヲ得タル時遵フベキ國際政策ニ談及シ米墨間ノ善隣關係ヲ再興シ特ニ全米主義ノ養成ニ注意ヲ払フベキコトヲ腹我々ノ方ニ於テハ現政府ガ總テ憲法ニ準拠シテ成立シ現

声明ス

尚同將軍ハ單ニ歐洲ニ對スル而已ナラズ東洋諸國（註、複數ナレドモ日本ヲ指スコト明カナリ）ニ對シテモ米洲ノ問題ニ干与ヲ敢テセシメザラシムル為米國ト結合スルニ努ムベシ云々

ニ付右切抜ヲ外相ニ示シ之ハ新聞通信員ガ故意ニ曲筆シタルニ非ザルカラ疑フ何トナレバ苟クモ一國ノ大統領候補者タル者ガ輕々シクスクノ如キ言ヲ為スベシトハ信ゼラレズ、日本ハ既往ニ於テ墨国ニ對シ何等害ヲ加ヘタルコトナク将来モ亦然ルベシト陳ペタルニ對シ彼ハ

勿論「オブレゴン」ニ於テ斯ル言ヲ為シタリトハ信ズル能ハズ之ハ必定米國通信員ガ故意ニナシタルコト明カナリ例ヘバ日墨同盟説等ガ米國ニ於テ製造セラレ或時ノ如キハ右ニ閑スル両国外交官ノ間ニ交換シタル書翰ヲ見タリト伝ヘラレタルガ如シ、日墨両國ハ地理上非常ニ遠隔シ居レバ其間何等事件ノ發生ヲ許サザルコト吾人ノ夙ニ承知シ居ル所ナリ

ト答ヘ候右ハ當方ニ於テモ予期シタル所ニ有之候ニ付其上追究ヲ敢テセズ間接射撃ニ止メ置候処本新聞電報ニ關シ伊太利公使ハ直接「オブレゴン」ニ對シ其不謹慎ヲ責メタル

（写送付先、在米大使）

註 添附ノ新聞記事原文ヲ省略ス

八〇六 六月三十日 在墨国伊藤臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛

墨国新政府承認問題ニ對スル各國ノ態度、承

認獲得ノ為ノ墨国側ノ努力等報告ノ件

政機密公信第一六号

（八月五日接受）

大正九年六月三十日

在墨

臨時代理公使 伊藤敬一（印）

外務大臣子爵 内田康哉殿

墨国承認問題ニ關スル件（第三）

承認問題ニ關シテハ御電訓ニ從ヒ絶エズ同僚ト接觸ヲ保チ意見ヲ交換致居リ候処彼等ノ意見ハ政機密公第二三号及第二四号報告ノ通拉丁亞米利加諸國ノ代表者ノソレヲ除キテハ今急ニ承認ヲナスノ必要ナシト云フニ一致シ居リ候ヘ共墨国側ニ於テハ現仮政府ヲ憲法上正当ナル「カランサ」政府ノ繼承者ト称シ從ツテ墨國ヨリ進ンデ外國ノ承認ヲ求ムル必要ナシ只各國元首ニ對シ承認大統領就任ノ通知ヲ發スレバ足ル（然ラバ當然外國元首ヨリ返翰アリ之ニテ承認問題ハ終結ス）ト称シ居ルカト思ヘハ「オブレゴン」ノ如キ

ハ盛ニ親米主義ヲ宣伝シ居リ（伊國公使ノ如キハ數度會見又ハ会食ノ結果同人ニ愛想ヲ尽カシ如何ニシテモ大統領タルベキ人格手腕ナシ又彼ハ大統領ノ地位ヲ贏ンガ為ニハ米

ニ彼ハ之ヲ一笑ニ付シ去リタル由ニ有之候尚外相ト會見ノ際「日本政府ハ「カランサ」政府ニ對シ武器ヲ供給シタル様屢々「オブレゴン」派ノ新聞ニヨリテ伝ヘラレ甚シキハ軍艦八雲ガ大砲ヲ陸揚セリ等称セラレ又墨人中ニハ日本ガ不完全ナル製弾機械ヲ売付ケタリト申居ル由」ナルモ右ハ全然虛報ニシテ日本政府ハ未ダ曾テ斯ル相談ヲモ受ケタルコトナク又然様ノ周旋ヲ為シタルコトナシ但シ「カランサ」氏ノ代理人ガ日本ニ私的旅行ヲナシ日本商人ヨリ或種ノ機械ヲ買入レタルコトアルモ之ハ日本政府ノ閑知スル所ニアラザルハ「オブレゴン」將軍モ千万承知ノ筈ナリト申セシニ彼外相ハ能ク了解セリト答ヘ候ニ付余談トシテ下加州ニ於ケル日本臣民ニ對シ十分ノ保護ヲ与ヘ從前ノ如ク他外国人ト異ナル待遇ヲナサザル様注意アリ度旨ヲ陳ベ引取り候右及報告候 敬具

一六 「メキシコ」革命動乱関係一件 八〇六

九五〇

格シ故「ディアス」大統領時代ニモ顧ミラレザリシ怨ヲ以テ当代ノ「カルデロン」氏モ常ニ「ディアス」ニ反抗シ自ラ「デ、ラ、ウエルタ」ノ就任通知状ヲ携帶セリト伝ヘラレ由党ノ錚々タル分子トシテ時ニハ其牛耳ヲ取リタル事アリ其後故「マデロ」ノ革命ニ組シタリシガ「ウェルタ」ノ代ニ及ビ一時米国ニ避難シ其後又「カランサ」ノ革命軍ニ参加セシモ同志ノ中ニ先代ヲ攻撃セルモノアリトテ之ヲ斥ケンコトヲ「カランサ」ニ訴ヘシガ其容ルル所トナラズ又同人ハ千八百五十七年ノ憲法復活ヲ主張セルニ反シ「カランサ」ハ千九百十七年ニ新憲法ヲ制定セシカバ遂ニ之ト離反スルニ至レリ、去ル大正三年中「カランサ」「ヴィヤ」ノ間屢内証ヲ生ジ互ニ相讓ラザリシ際米国ノ斡旋(同年九月頃)ニヨリ「カルデロン」ヲ仮大統領ニ推サントセシ事アリ「ヴィヤ」ハ之ニ同意セリ又曾テ彼ガ華盛頓ニ行キシ時「ウィルソン」大統領ガ之ヲ引見セルハ他ノ墨国人ニ与ヘザル異常ノ優遇ナリシト称セラル、即チ此辺ノ事情ガ彼ヲ今回米国ニ派遣スルニ至リシ重ナル原因ナランカ、又同人ハ歴史的物語ヲ草スルニ長ジ相当ノ思想家トシテ国人ニ敬重セラルモ其实一人ノ姉ガ其背後ニアリテ之ヲ助ケ居ル為今日ノ名声ヲ得タル所以ニテ現ニ今回モ其姉ヲ同伴セ

Balvino Dávalos (『ディアス』時代ヨリノ外交官ニシテ何レノ時代ニモ上衣ヲ着替ヘ豹変スルニ妙ヲ得タル稍輕薄ナル人ナルモ其斯ノ如クスルハ一二生活ノ為ニシテ墨国官人中ニテハ比較的害少キ人ナラン) モ駐独公使ノ名義ニテ欧洲各国ニ派遣セラレ(大使館ニテハ旅券ニ査証セズ)又上院外交委員長ニシテ一時外務省事務ヲ取扱ヒ曩ニ「パンサーレス」派ノ一新聞ヲ主裁セシ Juan Sánchez Azcona (外交官ノ経歴ヲ有シ墨西哥流ノ利口者ナリ) モ駐西公使(墨国ニテハ在西班牙公使館ヲ大使館ニ昇格セント計画シ居レリ)トシテ近々出発スベシト伝ヘラレ候處予メ各駐在国政府ノ同意ヲ得ズシテ勝手ニ公使大使ヲ任命スル墨国政府ノ内意ハ「オブレゴン」其他ガロニテ強ガリ居ルニ似ズ歐米諸国ニ泣付キ一日モ早ク其承認ヲ得ントスルニアルハ疑ヲ容レズ候

独逸新任公使 Conde Adolfo de Montgelas (以前東京ニ在勤セリ)ハ六月二十七日当地ニ着シ三十日墨国外相ト会見ノ筈ナル処其到着ノ日新聞記者ニ談話セル所ニ依レバ信任状ハ持參シ居ラザルガ如クニ察セラレ候ヘ共同公使ノ行動ニ閑シテハ各国外交官ノ興味ヲ以テ觀察シ居ル所ニ有之候

一六 「メキシコ」革命動乱関係一件 八〇六

将又前電報告伯刺西爾国公使新任ノ件ニ閑シ墨国側ニテハ頻リト事實ラシク吹聴致シ居リ候ヘ共米国代理大使ガ國務省ヨリ受取リタル電報ニ依レバ右ハ全然虚報ナリシ由ニ有之候尚秘露国政府ハ近キ内墨国ヲ承認スルノ意向ヲ有シ居ル趣当地新聞紙上ニテ散見シ外務大臣モ亦斯ク語リ候ヘ共之ハ例ノ墨国一流ノ細工ニテ以テ各國ノ承認ヲ急ガサントスル底意ニ出デタルニ非ザルカト疑ハレ候、次ニ「グアテマラ」国政府ガ米墨両国ニ対シ派セル特使ハ米國ニテ任務ヲ果シ直チニ帰國致シ候由ニテ在当地瓦国代理公使ノ説明ニ依レバ右ハ「カランサ」大統領宛ノ信任状ヲ持參セルヲ以テ一度帰國ノ上更メテ墨国ニ来ル為ナリシトノ事ニ有之候ヘ共秘露ト云ヒ「グアテマラ」ト云ヒ平素米国ノ鼻息ヲ伺ヒ居ル国ナレバ該國ト何等ノ了解ナシニ墨国ヲ承認スルコトハ之ナカル可シト被存候

米国代理大使ニ対シ何時頃米国ノ承認來ルベキヤト尋ネ候処少シモ知ル所ナシ(米國大統領選舉問題ガ之ニ影響スルハ勿論ニ付)ト申候但シ同代理大使ニ於テ現仮政府及「オブレゴン」ガ「カランサ」政府ニ比シ遙ニ親米的ナルヲ信ジ居ルハ明カニシテ彼ノ談ニ依レバ「カランサ」ノ時代ニ比

九五一

リ、「カランサ」ト分離シタル彼ハ自然ト「オブレゴン」

ニ接近シタルモノナリ)ハ數日前墨市ヲ發シ華盛頓ニ向ヒ

「デ、ラ、ウエルタ」ノ就任通知状ヲ携帶セリト伝ヘラレ

候將又歐洲ヘ派遣ノ「エル、ウニヴェルサール」新聞社長

Felix F. Galavichini (『カランサ』時代文部次官タリ)後辞職シテ専ラ新聞經營ニ從ヒ巨万ノ富ヲ作レリ、歐洲戰爭中

聯合側ノ弁護ニ努メタルノ故ヲ以テ伊、英、仏、白ヨリ叙勲セラル、其後「ゴンサーレス」派ニ傾キ自己ハ同派ノ上

院議員候補ニ立チシガ抜目ナキ同人ノコトトテ今回ノ政變ニ際シ急ニ態度ヲ更メ該候補ヲ辞シ表面嚴正中立ヲ装ヒ居タルガ「オブレゴン」トハ余り反リノ合フ方ニアラザルヲ

以テ(「オブレゴン」ノ為數度投獄サレタリ)暫ク海外ニ出デント欲シ「デ、ラ、ウエルタ」ニ縋リ無報酬ノ名譽大

使ナル辞令ヲ貴ヒタルモ其政敵且新聞敵ノ大蔵大臣(「ヘラルド」新聞社長)「アルヴァラード」將軍ニ素破抜カレ 出發

ニ際シ一万「ペソ」ヲ受取りタルコト明カトナレリ尚一ヶ月一万「ペソ」ノ交際費ヲ受クル約アリトノ噂モアリ)モ既ニ出發シタル外一時首都ヲ占領シ軍政ヲ布キタル「ゴン

サーレス」派ノ大学總長タリシ数多キ墨国文学者ノ一人

スレバ国内ノ平和モ着々功ヲ奏シ各地ニ通ズル汽車モ今迄ニナク護衛兵ナシニ往復シ居ル有様（之レハ当地新聞ノ喧伝スル所ナレドモ其実危險ハ未ダ去ラズ護衛兵ヲ付シ居レリ）ナレバ尠クトモ表面上平和ノ実學ガリ居ルハ勿論故「ウェルタ」ノ前例アルヲ以テ可成政敵ヲ優遇シ外国人ヲ保護シ一意外国ノ信用ヲ得ルニ苦心（「カラランサ」暗殺事件ハ其近側者ガ卑怯ナル態度ヲ示シ「カラランサ」ヲ防護セザリシコトヲ高調シ彼等ヲ投獄シ公判ニ附セルノミニテ肝心ノ下手人ヲ捕縛セザルハ最初ヨリ本件ヲ有耶無耶ノ裡ニ葬リ去ラント欲セルニ由ル）シ外國資本ニ対シテ出来得ル限り便宜ヲ与ヘン誠意ヲ示シ今日迄ハ一般ニ能ク Behave シ居リ承継大統領ハ勿論「オブレゴン」モ米人ニ対シ好意ヲ有シ居レリトノ事ニ有之候へ共之ハ唯表面上ノコトニシテ其裡面ニハ諸種ノ禍因ガ伏在シ（「カラランサ」派ノGral. Osuna ハ最近「タマウリパス」州ニ於テ叛旗ヲ挙ゲタルコト陸軍省ヨリ発表セラル、而シテ現政府ハ今現ニ獄中ニ在ル「カラランサ」ノ武将連ヲ恐ルルコト甚シ）居ルコト上記ノ通リニ有之候而已ナラズ今迄ノ例ニヨリ墨人ハ米国ノ承認ヲ受ケ（墨国人ハ米国共和党ノ時代來ラバ一層大ナル圧

迫至ルベシト信ジ居ルナリ）其援助ヲ必要トスル間ハ種々ノ諂諛ヲ試ミ実行不能ノ約束サヘ敢テスト雖一度其目的ヲ達スルヤ忽チ脊ヲ翻シ背信行為ニ出ヅルコト珍シカラズ又斯クセザレハ永ク国民ノ信望ヲ繋ギ能ハザルノ事情ハ米国ニ於テモ十分承知シ居ル筈ニ有之候ヘバ此間些カノ油断モ情ヲ以テ判断スル能ハズ経済上ニ政治上ニ各国ノ相異レル利害關係ハ何時如何ナル局面ノ変化ヲ生ジ来ルヤモ不計候ヘ共（米国石油業者ガ昨今頻リニ当局ト交渉ヲ重ねツアルコト及英國代表者ガ暗中飛躍ヲ試ミツツアルハ注目ニ値スル所ナリ）日本ガ墨国ニ於テ有スル利害關係ハ米、英、仏等ノソレニ比シ言フニ足ラザル程ニ有之候ヘバ彼等ノ間ニ立チ特ニ敏捷ヲ競フノ必要無之ハ勿論斯クスレバ却テ彼等ノ猜疑ヲ招ク虞有之候而已ナラズ昨今ノ如ク親米風ノ吹キ競フ時ニハ一寸手出シガ出来兼ネ候ニ付当分彼等ノ為ス所ヲ見大概ノ場合ニハ歩調ヲ合セ行クヲ得策ト存候尚南中米諸国ノ代表者ガ現政府ニ同情シ米国ニ面当ガマシク行動シ居ルコト既報ノ通リニ有之候

右及報告候 敬具

写送付先 在米大使

八〇七 七月七日 在墨國伊藤臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛

カラランサ政府没落ニ關シ詳細報告ノ件

政公信第一五九号

（八月十八日接受）

大正九年七月七日

在墨

臨時代理公使 伊藤敬一（印）

外務大臣子爵 内田康哉殿

「カラランサ」政府没落ニ關スル報告ノ件

曩ニ電報セル如ク「カラランサ」政府ハ五月七日墨市ヲ引揚ゲ「ヴェラクルース」市ニ向ヒタルガ其斯ノ如キニ至リシ理由ハ最近ニ至リ四団ノ情勢大ニ非ニシテ各地ニ駐屯セシ司令官及其部下又ハ地方知事中「オブレゴン」派ニ通ジ「ソノラ」州叛軍ノ Plan de Agua Prieta ヲ承認シ中央政府ニ叛ク者続出シ最モ信頼セル「ディエゴス」中將ノ「ソノラ」討伐軍スラ抄々北進セズ（部下士卒中前進ヲ肯ゼザルモノ多ク同將軍ハ「グアダラハラ」市ヨリ進ムヲ得ズ「カラランサ」政府ノ首府引揚後部下ノ為捕ハルニ至レリ）中央部ニ活動ノ為出動ゼン「モンテス」少將（「ボニ

飛ナル風説ニ付何人モ信ヲ措カザリキ）ニシテ「カラランサ」政府ノ没落ヲ招キシ最近因ハ始終不即不離ノ態度ヲ持シタル軍閥候補者「ゴンサーレス」將軍ガ「カラランサ」大統領及「ボニーヤス」大使ト妥協成ラザリシヲ憤リ最初余り同情セザル如ク見エシ「オブレゴン」將軍（隻腕ト俗称ス）一派ノ叛ニ与シタルニ由ル、尚詳細ハ別号ニテ報告ノ筈

「カラランサ」氏自身モ亦最後迄奮闘スル決心ナリシハ五月五日附ヲ以テ翌日ノ新聞紙上ニ発表セル長文ノ宣言書ニ徵シ之ヲ看ルヲ得可ク又敗北者トシテ退京ヲ決シタルニ非ザルコト其引揚ノ最後迄堂々トシテ迫ラザル態度ヲ示シ（墨市引渡委員迄ヲ任命シ）タルコト及僅少ノ時間内ニ於テ殆ト全政府ヲ列車ニ載積セルガ如キ準備ヲ為セルヲ見テモ知ルコトヲ得ベシ五月六日ノ夜十一時大統領參謀長ガ仏国代理公使ヲ告別ノ為訪問シタル際為シタル談話ニヨレバ三ヶ月以内ニハ必ず帰京スル予定ナリシ由ニテ後衛ハ墨市ヲ距ル百三十九基米突ノ「アピサコ」駅（鉄道停車場）附近ニ残シ置ク筈ナリシ由ナリ

然ルニ五月六日ノ朝以来政府ハ愈々首府引揚ノ準備ヲ為シツツアリト伝ヘラレタルヲ以テ同日午後外交団長亞爾然丁

統領ト共ニ引揚ゲタル重ナル文武官ハ各省大臣（内通信大臣ハ一行ニ加ハルヲ欲セズ墨市ニ残留シ農務大臣ハ「ブエブラ」州知事候補者トシテ同州ニ遊説中今回ノ事件突発セシヲ以テ途中一行ニ加リタルガ如キモ一行敗走ノ結果墨市ニ引還セリ）大審院長及判事數名、国会常置委員ノ大部分、墨西哥州知事（戦死セリ）同聯邦都知事、墨西哥市長、「ボニーヤス」大使、大統領附參謀長及副官、總軍司令官「ムルギニア」中將、「モンテス」副少將、墨市警視總監、鐵道總裁「フォンテス」大佐、新聞記者、政府派各州知事及各官署ノ有志官吏、鐵道隊、飛行機隊、騎馬警察隊、陸軍士官学校学生、軍隊約五千人ナリシガ何分ニモ多大ノ重量ヲ有スル三十二近キ長列車ガ（此國ニテハ兵卒ハ皆列車ノ屋上ニテ旅行ス）蜿蜒長蛇ノ如ク進行シツツ予メ鐵道沿線ニ排置セシ護衛兵ヲ收容シ行ケルヲ以テ其前進緩徐ナリシハ勿論ナリ、故ヲ以テ最後ニ出發セシ砲兵隊（本隊ヲ最後ニ進列車ト連絡ヲ断タレ出發勿々墨市占領軍（「ゴンサーレス」派）ニ降服スルノ余儀ナキニ至リ（或ハ乗車ノ間ニ合ハザリシトモ云フ）「カラランサ」軍敗戦ノ惡兆ハ既ニ出發

耕地ヨリ之ヲ運搬シ線路ヲ修繕シタル等ニテ空シク滯在セルナリ）少許ニシテ停車始メテ列車近ク戦闘行ハレ夫レヨリ先ハ汽車ハ益徐行シ一日ノ朝「リソコナダ」駅前ニ於テ銃砲声殷ニ起り「カラソナ」氏モ戰線ニ立チ兵ヲ督励シ敵ヲ擊退シツツ同駅ニ前進シ一夜ヲ明カシ十二日朝再ビ前進ヲ始メタルモ此時汽罐車ノ用水燃油益欠乏シタルヲ以テ進行容易ナラス辛フジテ十三日ノ朝 Ajijic 駅ニ達シ僅カニ一隻ノ飛行機ニテ敵情ヲ偵察セシメタル處前面ニハ「グアダルーペ、サンチエス」少将（アギラール）中將ノ部下タリシ人）ノ兵アリ決定的ニ敵対ノ態度ヲ示シ居ルヲ知レルガ同日午後三時ヨリ戰ハ始マリ（墨西哥州知事「ミヤン」少将戰死ス）同五時ニ終リングガ「カ」軍尚優勢ニシテ能ク敵ヲ擊退セリ、然ルニ僅々二十時間以内ニ於テ達セラルベキ「ヴェラクルース」港ヲ目的トシテ出發セルコト故列車ニハ食糧飲水ノ準備全クナク各員飢渴ヲ訴フルコト甚シク加フルニ數日來引続キ疲労セル兵員ノ士氣ハ大ニ沮喪シ最早此上ノ戰ヲ欲セズ將校中ニモ進シ敵前ニ露出スルモノ多カラザルニ至リ十三日ノ夜ハ各員逃げ仕度ニ忙ハシク翌十四日午前十時ヨリ十一時ノ間ニ再ビ銃砲火ヲ交ヘ

市ニ入り進ンデ「タムピコ」市ヲ陥レ北方「ランド」市ニ勢ヲ延、ハシ三ヶ所ノ税關收入ヲ以テ優ニ政府ヲ支持シ程ナク墨市ニ帰還スル筈ナリシ由ノ處先「アピサコ」駅ニ於テ小規模ナガラモ敵襲ヲ受ケ食糧ニ不足ヲ感ジ「ペエブラ」市ヨリ着セル新聞紙ハ首都占領軍ノ優勢ヲ報ズルアリ、列車ノ前進ハ大ニ遅レタル上頗ノ綱トセル「アギラール」中將ハ部下「グアダルーペ、サンチエス」少将ノ背叛（無線電信ノ奇計ニ罹リ「オブレゴン」派ニ加担シタルナラン）ニ依リ北上スルヲ得ザルノミカ自ラハ僅少ノ部下ト共ニ山地ヲ彷徨シツツアリ彼我ノ聯絡全ク絶エ加フルニ「ゴンサレス」軍及「オブレゴン」軍ノ外ニ久シク「カ」政府ニ反抗セン「イヒニオ、アギラール」ノ軍サヘ加ハリテ要擊セルアリ「カ」軍当初ノ計画ニ一大齟齬（「カラソナ」氏ガ北方ヲ指サズシテ「ヴェラクルース」ニ向ヒシハ一大失策ナリトノ評アリ蓋シ北方ニハ尚「カ」政府ニ同情スルモノ多キヲ以テナリ）ヲ來タシ士氣大ニ沮喪シ味方ノ兵士中敵ニ投降シ或ハ逃亡スルモノヲ出シ流石ノ猛将「ムルギー」中將ノ奮戦モ能ク敵軍ヲ突破スル能ハズ遂ニ五月十四日ノ「アルヒーベス」駅（墨市ヲ去ル二百十六基米突）午後ノ戰ニ敗

シモ此時尚四千人ニ近キ兵士中僅カニ十分ノ「ノミ戰線ニ出デ六十二近キ機関砲中活動セシモノ十ヲ超エズ（敵モ亦前日來ノ敗戦ニ懲リ容易ニ前進セズ愈々列車ニ近ヅキ来リシハ午後ノ二時過ナリ）此間大部分ノ兵士及附近部落ノ住民ハ列車ノ周囲ニ集リ掠奪ヲ恣ニシ敵軍ノ目指ス所モ亦ニ列車ニ外ナラズ、軍律ノ紊レタルコト兵士ノ戰氣乏シキコト之ヲ正則ノ戰術眼ヨリ看ル時ハ殆ド戰争ト云ヒ能ハズトノ評アリ故ニ若シ「カ」軍中最後ノ五分間ヲ解スル將士アラバ更ニ陣ヲ立テ直シ敵ノ罔ヲ突破スルコト左程難事ニ非ザリシナランモ此頗勢ヲ挽回セントスル一人ノ勇士モ無カリシハ惜ムベキコトナリ

「カラソナ」軍最初ノ計画ニテハ墨市ヨリ「アピサコ」駅迄ノ沿道ハ勇敢無比ナル「ムルギー」中將（今獄中ニアリ）ノ率ユル軍隊ニ護衛セラレ同地ニ於テ「ピラール、サンチエス」副少将ノ軍之ニ合スルヲ以テ此地点以南ニハ夫々必要ナル後衛ヲ残シ囊ニ「ヴェラクルース」州ニ至リ募兵セル「アギラール」中將ニ迎ヘラレ（「アピサコ」駅ニテ電信電話ニヨリ「アギラール」中將ト聯絡ヲ保タントセシモ最早不可能ナリシトノ事ナリ）難ナク「ヴェラクルース」

一六 「メキシコ」革命動乱関係一件 八〇七

九五八

Santa Maria Ocotepec に着シ同夜上 下両院議員其他ノ文官ト別レ（乗馬不足ノ為）十六日 Temextla (ヒヨヨリ愈山地ニ入ル) 着十七日 Cuantimpam ハテ一同ノ會議ヲ開キ騎兵科学生ヲ墨市ニ帰還セシムルコトニ決シ同日 Tetela 着（「ア・ハ・パ・ハ」州山地ハ大蔵大臣「カブレラ」氏ノ出生地ナリ Coronel Gobriel Barrios ハ頗リ再ビ兵ノ編成ヲ為サントセシモ同大佐ハ既ニ「オブレゴン」派ニ組シ便宜ヲ得ル能ハズ唯一行ノ通過ヲ黙過セルニ過ギザリキ）十八日 Tlatepango ハ Tlapacoyan ムノ間ヲ彷徨シ再ビ Tlapacoyango に引還シ同地ニテ Necaxa に敵ノ追軍來ルトノ報ヲ得）二十日「サン・ルイス、ポートシ」州ニ入ラン為途ヲ Patha ハ取リ同地ニテ昼食シ La Union ニ行ク途中「マヌエル・ペラエス」（「タムピコ」方面）在リテ「カ」氏政府ニ反抗セシ人ニテ自ラ大地主ナルヲ以テ新憲法ニ反対セルガ今回「オブレゴン」ト握手スルニ至レリノ部下ニシテ囊ニ陸軍省官房長「マリヨール」少将ヲ通ジ「カ」政府ニ降服セル Rodolfo Herreo 大佐ニ迎ヘラ（「マリエーノ」少将ハ此処ヨリ Xico ハ先発セリ、而シテ同少将ガ「カラランサ」大統領ヲ「ヒンロ」ニ托シ自ラ同夜慘劇ノ現場ニ

因ニ我公使館ヨリハ花環ヲ贈レリ
右及報告候 敬具

註 カランサ大統領ノ都落ノ路筋ヲ示ス地図ヲ添附シアルモ之ヲ
省略ス

八〇八 七月九日 在墨國伊藤臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛

カラランサ没落後オブレゴン將軍ニ依リ表面國
内静穏トナレルモ叛旗ヲ掲ゲル者モアリ前途
尚不安ナル旨報告ノ件

政機密公信第二七号

（八月十八日接受）

大正九年七月九日

在墨

臨時代理公使 伊藤敬一（印）

外務大臣子爵 内田康哉殿

「カラランサ」政府没落後大統領候補者タリシ前駐米大使「ボニーアス」氏ハ米国ニ去リ「ゴンサーレス」將軍ハ志ヲ政界ニ絶チタリト称シテ郷里「ヌエボ、レオン」州ニ隠遁シ今ヤ「オブレゴン」將軍ノミ唯一ノ候補者トシテ残リ近ク宿望ヲ達シテ大統領ノ椅子ヲ占ムルコト確実ト相成リ

ルガ二十一日午前三時半ヨリ四時ノ間に於テ突然「エレロ」部下ノ為ニ襲ハレ身ニ数弾ヲ浴ビ即死セリ銃声ニ驚カサレタル一行ハ暗夜不意ノ襲撃ニ大ニ狼狽シ誰一人大統領ノ救援ニ赴キン者ナク大多数ハ「エレロ」ノ捕虜トナリ金品ヲ奪ハレタル上大統領ガ自殺セル旨ノ口述書ヲ取ラレ（「カ」氏ハ傍ニ臥セル内務大臣ニ向ヒ予ハ負傷シテ起ツ能ハズ速カニ予ニ銃ヲ与ヘヨトハヒシノミ再ビ言ヲ發セザリシト云フ）「カラランサ」氏ノ遺骸ヲ護リ墨市ニ出ヅル途中下車ヲ命ゼラレ自動車ニテ護送セラレ墨市陸軍監獄ニ投ゼラレタリ（大蔵大臣ハ此惨劇ノ場ヨリ逃亡シ今尚行衛不明ナリ）大統領ノ遺骸ハ二十四日早朝墨市ニ着遺族ニ引渡サレ同日午後墨市出発前家族ニ申遺シタル如ク一般墓地ノ第三区（貧民区）ニ埋葬セラレ多数ノ市民会葬シ外交団ハ一同大礼服ニテ葬儀ニ列シ最後ノ敬意ヲ表セルガ仮政府側ヨリ公式ニ会セルモノナカリシ（或者ヨリ花環ヲ贈リシモ拒絶サレタリト云フ）但シ学校劇場等ハ弔意ヲ表シテ休業セリ

昔日ノ叛徒モ多ク「オブレゴン」派ト合シ表面上ハ国内殆ド静穏ニ帰セル観アリ（「ヴィヤ」ト「ディアス」ヲ除キ）一時世ハ總テ「オ」將軍ノ意ノ儘ナルヤニ相見エ候サレバ「カラランサ」ノ後繼大統領ヲ選ブニ方リテモ「オブレゴン」派ハ「ゴンサーレス」將軍ヲ排シテ自家ノ傀儡タル前「ソノラ」州知事「アドルフ・オ、デ、ラ、ウエルタ」（本邦新聞紙上往々「ウエルタ」將軍ト記スルモノアルハ誤ナリ）ヲ其地位ニ据エ外ニ対シテハ盛ニ親米態度ヲ示シ内ニ対シテハ寛宥和解ノ政策ヲ標榜高調セシメ以テ内外ノ信望ヲ自党ニ蒐メ国内人心ノ動搖ヲ防ガント致シ候処元來政治家トシテハ経験ニ乏シク又其言行動モスレハ過激不謹慎ノ嫌アル「オ」將軍ノコトニモ有之又其近側ニ群集セル武将友人中ニハ極端ナル意見ヲ持スル者多ク各種ノ註文ヲ持出スラ以テ自然其聲言セシ所ノ堂々タルニ似ズ裡面ニハ隨分無理ナル行動ヲ余儀ナクセラレ居ルコト明白ニ有之例ヘバ政府部内ノ「ゴンサーレス」派ヲ排斥シテ自党分子ト置替ヘ（承継大統領ノ候補トシテ「ゴンサーレス」將軍中々声望アリ又同將軍派ニ於テモ此位ノコトハ「オブレゴン」ニ於テ讓ルナラント予期シタルガ如シ）旧「カラランサ」派ヲ甚

一六 「メキシコ」革命動乱関係一件 八〇八

九六〇

シク圧迫追究シ自党ノ犯罪者例ヘバ「カラナンサ」暗殺ノ直接責任者「エレロ」大佐ヲ不問ニ付スルハ最世人ノ齷齪スル所ニ有之従シテ反対派中ニハ不平怨嗟ノ声次第ニ高マリ折角静穏ニ帰セントスル墨国ノ前途ハ甚ダ不安ナル如クニ相見エ各種ノ噂巷間ニ伝ヘラルニ至リ候処果シテ最近ニ至リ左ノ如ク叛ヲ挙タルモノアルニ至リ候

〔一〕 Gral. Carlos Osuna

「タマウリペス」州 カランシスタ

〔二〕 Gral. Jesús Guajardo

「ロアウイア」州 ガンサーリスタ

〔三〕 Gral. Ricardo González

「ロアウイア」州 ガンサーリスタ

四、 Gral. Manuel Larraaga

Gral. Léon Martinez

「サン、ルイス、ポトシ」州 カランシスタ

右等叛將ガ仮政府ヲ非認スルニ至リシ動機、兵數及他ノ將軍連ト聯絡ノ有無ハ今之ヲ確知スルニ途ナキモ軍隊中ニ不平分子アリテ漸次蜂起スルニ至ルベキハ仮政府成立ノ当初ヨリ世人ノ危惧セシ所ニ有之候ヘバ其後モ各地ニ於テ叛旗ノ翻るヲ見ルコトハ予想スルニ難カラズト被存候尙前記

「オストーナ」將軍ノ叛ト相響應シテ「チャパス」州「タパチューラ」市ニ叛ヲ企テタルモノ有リシガ之ハ大事ニ至ラザル中ニ鎮定サレタリトノ事ニ有之候、而シテ斯ル叛乱ガ地方ニ起ル毎ニ世人ガ直ニ聯想スル人物ガ「ゴンサーレス」將軍ナルコトハ申ス迄モ無之「オブレゴン」派ニ於テモ此点ニ関シ大ナル不安ヲ抱ケルモノノ如ク既ニ仮政府ノ一二大臣ヨリハ「ガ」將軍ニ対シ此際至急態度ヲ明カニス可キ旨電報セリトノコトニ有之候

猶前政府ノ残党ニシテ目下米国「サン、アントニオ」ニ遁竄シ居ル連中モ追々墨国側ニ潛入シ来ル趣ニ有之候ヘバ此輩モ亦遠カラズ何事カラ企ツルナラント予期セラレ居リ候将又上記叛軍ガ当地仮政府ノ揚言スルガ如ク重大危險性ノモノニ無之数日中ニ撲滅セラルモノト仮定スルモ現政府ハ更ニ左ノ二大問題ヲ解決セザル可カラス之ガ能否ハ忽チ政府ノ存亡ニモ閃スト觀測サレ居リ候

(一)軍隊ノ解雇 今回政變ノ為「オブレゴン」「ガンサーレス」兩派ガ募集シタル兵員及從來ノ叛徒ガ之ニ合シタル者ヲ概算スレバ今現ニ仮政府ノ養ハザル可カラザル兵士約二十万人ナリトノ事ニ有之候ヘ共何時迄モ此ノ如キ多數ノ軍隊ヲ

維持スルコト到底貧弱ナル政府財政ノ許ス所ニ無之ニ付目

下政府ハ頻リニ其解雇方法ヲ研究中ニ有之或ハ屯田兵式ニ軍人農場ヲ開カンカトノ議モアル由ニ有之候ヘ共革命戦爭

ヲ職業ノ如ク心得居ル兵士ガ果シテ銃ヲ拋チ鍼ヲ取ルヲ肯ズルヤ否ヤ頗ル疑ハシク又彼等ヲ解雇スルニ方リテモ彼等ヲ満足セシムル丈ノ金錢給与ヲ為サザル可カラザルモ果シ

テ之レガ満足ニ行ハルヤ否ヤ、多数兵員ノ中ニハ不平ノ余リ再び叛ヲ企テ或ハ他ノ叛軍ニ投ズル者ナシトモ限ラレズ政府ノ不安トスルハ此点ニ有之候

(二)労働者問題 労働者ノ同盟罷業ハ今ヤ全世界ノ流行ト相成リ居リ候ヘ共當國ニテハ又特別ノ事情アリ益々彼等ヲ増長セシメツツ有之候即「オブレゴン」將軍ガ大統領候補ニ起

ツヤ先ヅ第一ニ軍人ニ渡リヲ付ケ次ギニ労働者ヲ指嗾スルニ努メタル結果今日ニ至リテハ労働者ノ資本家ニ対スル要求愈出デテ愈強ク仮政府ハ今尚労働者側ノ歛心ヲ買ハント

スルノ傾向アリ最近ニ於テハ墨西哥聯邦郡知事トシテ「ソノラ」州一労働団体ノ領袖 Selestino Gasca ヲ抜擢任命スルニ至リ大ニ資本家ノ反対ヲ受ケツツアル次第ニテ労働者問題ハ歐米先進諸国ニ於テサヘ未ダ満足ナル解決ヲ見ザル

政公信第一七六号

大正九年七月十九日

在墨

訳報ノ件

米国ノ墨国承認問題ニ對スル態度ニ關スルメキシコ市發行エキセルシオール紙論説ノ大意

(九月四日接受)

一六 「メキシコ」革命動乱関係一件 八〇九

九六一

臨時代理公使 伊藤敬一（印）

外務大臣子爵 内田康哉殿

墨国承認問題ニ閲スル件（第四）

本件ニ閲シ去ル十二日当地發行「エキセルシオール」紙ガ
掲載セシ論說大意左ニ及訳報候

敬具

国家主義ヲ妄信スル吾國ノ理想政治家ハ現政府ガ米國ノ承認ヲ求ムルニ汲々タル有様ヲ見テ不見識ナリト非難スベシト雖モ真ニ吾國刻下ノ急務ヲ理解スル現実派政治家ハ該承認ヲ得ン為「デ、ラ、ウェルタ」政府ガ華盛頓政府ニ対シ為シツツアル所ヲ必ズ諒トスルナル可シ

不幸ニモ我国ニ於ケル過去十年間ノ出来事ハ墨国存立ノ為米國ノ好意ヲ益必要トスルニ至レリ而シテ斯ル面倒ナル事態ヲ生ズルニ至リシ罪ハ固ヨリ之ヲ吾国人ノ瑕疵及「カランサ」氏政府ノ半信半疑、半挑半和的政策ニ帰セザル可カラザルモ「ウイルソン」氏ノ優柔不斷政策モ亦與ツテ大ナル力アリト謂ハザル可カラズ抑モ米國ノ承認ハ吾國現下ノ不安定ナル状態ニ於テ平和ヲ保障スル唯一ノ途ナルヲ以テ之ヲ哀願スルコト吾人ノ衷心堪へ難キ所ナリト雖如何セン

吾人ハ之ヲ忍バザレバ立チ行カザル境遇下ニ在ルナリ即チ此承認ヲ欠ク政府ハ其基礎不安ニシテ敵ノ乗ヅル所トナル虞アレバナリ

尤モ他ノ時代ニ於テハ墨国ノ渉外問題ハ一二均調政策ニヨリ之ヲ解決スルヲ得、一二外國政府ガ吾國ヲ承認スルトセザルトハ吾人ノ閲スル所ニ非ザリシト雖今ヤ然ラズ各国ノ承認ヲ得ント欲セバ先づ米國ニ膝ヲ屈シ其承認ヲ得ザル可カラザルニ至レリ而シテ其斯ノ如キニ至リシ原因ハ之ヲ吾國最近ノ実例ニヨリテ看ルヲ得ベシ則チ「ウェルタ」政府（訳註「デ、ラ、ウェルタ」ト混同セザルヲ要ス）ニ対スル米國政府ノ承認ナカリシコトハ歐洲各國政府（米國ニ先ンジ承認シタル）ニ大ナル教訓ヲ与ヘタルモノニテ當時米國ハ公然歐洲各國ニ対シ「ウェルタ」政府ニ与フル直接間接ノ援助ヲ快バザル旨表明セリ而シテ之ガ為當時成立セル外債ノ契約モ不实行ニ了リシモノニテ此事アリテ以来歐洲各國政府ハ先づ米國ノ意思ヲ確メタル上ニ非ザレバ事ヲ決スルノ不利ナルヲ悟ルニ至レリ

故ニ現政府ガ華盛頓政府ノ承認ヲ得ル為ニ種々勉メツツアルハ吾人ノ大ニ諒トスル所ニシテ又其成功ヲ望ンデ休マザタナル嘲笑ヨリ脱ルル唯一ノ方途ナレバナリ云々

八一〇 七月十九日 在墨国伊藤臨時代理公使ヨリ

内田外務大臣宛（電報）

墨国カトリック党ハ国民共和党ト改称シ「ド

ングエズ」氏ヲ大統領候補ニ推シタル件

第八〇号 （七月二十二日接受）

往電第七九号ニ閲シ

「ゴンチャヨウレス」將軍ハ軍法會議ノ結果放免セラレタリ「カトリック」党ハ今回国民共和党ト改称シ「アルフレッド、ロブレス、ドングエズ」ヲ大統領候補者ニ推スコトニ決セリ

右ニ閲シ「オブレゴン」派ノ意見ヲ聞クニ元來同党ハ守旧派ニシテ旧憲法ノ復旧ヲ主張スルモノ故一時ハ外国人ノ後腕ヲ振ハシム可ク墨国ノ承認問題ヲ解決セズシテ退位スルニ至ルナランカ蓋シ「ウイルソン」氏如何ニ傲岸ナレバトテ畢竟一ノ政治家ナリ此際自ラ進ンデ墨国ヲ承認シ以テ政

一六 「メキシコ」革命動乱関係一件 八一

九六四

援アリタルモ現政府ハ外国人ニ対スル寛大ノ待遇ヲ標榜スルモノ故最早同党ヲ援助スルノ要ナシ又内国ノ有識者及富裕階級ハ政争ニ飽キ居ルヲ以テ何レニモ加担セズ結局同党ノ競争ハ問題トナラズト樂觀ス

尚新候補者ハ「カラソサ」時代各叛徒ノ結合ヲ企テシコトアリ

八一 七月二十一日 在墨国伊藤臨時代理公使ヨリ

内田外務大臣宛

墨国叛将グアハルド逮捕銃殺セラレ其他ノ叛

將毛勢不振ノ旨報告ノ件

政公信第一八一号

大正九年七月二十一日

在墨

臨時代理公使 伊藤敬一(印)

外務大臣子爵 内田康哉殿

墨国叛将「グアハルド」銃殺セラレタル件

最近ニ於ケル墨国叛将數ニ關シテハ政公信第一七〇号及第(註)七一号ヲ以テ致報告置候處同報告中ノ「ベヌス、エメ、グ

アハルド」(Jesus M. Guajardo) 少將ハ約一ヶ月前「コア

セラレタル前大統領候補者「パブロ、ゲンサーレス」中將ハ証拠不十分ノ廉ヲ以テ本月二十日自由放免セラレ候

右及報告候 敬具

註 政公信第一七〇号及第一七一号省略セリ

八二 七月二十四日

在墨国伊藤臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛

叛將「フェリス、ディアス」ト現政府トノ妥

協交渉ニ付報告ノ件

(九月四日接受)

大正九年七月二十四日

在墨

臨時代理公使 伊藤敬一(印)

外務大臣子爵 内田康哉殿

本年五月ニ於ケル当國政變後ニ於テ Felix Diaz ハ密使ヲ派シ「オブレゴン」將軍ト會見セシメ降服条件ヲ交渉シタ

ル趣ハ當時ノ新聞紙上ニ於テ散見致シ候處今回「ディアス」派ノモノヨリ得タル文書及其者ヨリ聞取りタル談話ニ依レバ「フェリス、ディアス」ト現政府トノ關係ハ大略左ノ通ニ有之候

右ニテ「オブレゴン」ガ其手段ヲ採バス自家ノ勢力ヲ張ラ

一六 「メキシコ」革命動乱関係一件 八二

九六五

ウイラ州「ペドロ、デ、ラス、コロニアス」(Pedro de las Colonias)ニ於テ現政府ニ對シ叛旗ヲ挙ゲタルモノナル處時彼ニ利アラズシテ部下ヲ失ヒ窃ニ「モンテレイ」市ニ來リ再挙ヲ謀リ居ル中自宅ニ於テ逮捕セラレ即決軍事裁判ニヨリ再挙ヲ謀リ叛逆罪ヲ以テ問ハレ本月十八日午前七時同市ニ於テ銃殺セラレ候而シテ彼ガ現政府ニ對シ反旗ヲ翻シタルハ曩ニ「フランシスコ、ヴィヤ」(Francisco Villa)討伐ノ命ヲ受ケ「チヴァウア」州ニ向ヒタル途中方向ヲ轉ジテ謀叛シタルニ始マルモノニテ爾來山地ニ出没シテ數多ノ部落ヲ襲撃シ居リタルモ部下士卒ノ離散ニ遭ヒ遂ニ其目的ヲ遂ゲサリシ者ニ有之候其他ニ謀叛ヲ企テタル叛將等モ多クハ南風競ハズ政府軍ノ為ニ追擊セラレ居候即今ヨリ一十日程以前ニ反旗ヲ翻シタル「パブロ、ゲンサーレス」少將モ「ヌエボ、レオン」州「ミエル」(Mier, Estado de Nuevo León)ニ於テ敗北シ遂ニ米国外ニ遁入ルノ余儀ナキニ至リ又「ロアウイラ」州「カントン」ニ於ケル「リカルド、パンサー」レス、ヴォー(Ricardo Gonzalez V.)及「アントニオ、マルドナド」(Antonio Maldonado)等ノ叛將モ甚ダ振ハザル有様ニ有之候尚「モンテレイ」市ニ於テ軍事裁判ニ附

一六 「メキシコ」革命動乱関係一件 八一三

九六六

ントシ居ル様目ニ見ルガ如シト存候尚左ニ記載スル談話ハ余リ穿チ過ギタル様存ゼラレ候へ共兔ニ角一種ノ御参考トシテ致報告候

米国ハ現政府ヲ承認セザルベシ、又「オブレゴン」ハ到底大統領タリ得ザルベシ

「ディアス」ト「ペラエス」トハ元々其流レヲ同フスル

モノ故「オブレゴン」ノ選挙ヲ援助セザルベシ

「ディアス」ハ米国共和党上院議員等ト聯絡ヲ通ジ来ル

十二月迄ニ武器ト資金ヲ得テ現政府ヲ倒シ自ラ中央政界ニ乗出シ現今巴里ニ在ル「デ、ラ、バラ」ヲ大統領ニ

推スペシ

米国ヨリ「ディアス」派宛ノ武器ハ既ニ着セリ云々

右申進候 敬具

追テ昨今両日ノ新聞紙ニハ本件ニ関シ互ニ矛盾セル二個ノ記事ヲ掲ケ居リ候即其一ハ「ディアス」派ニ於テ盛ニ將軍連ヲ説キ謀叛ヲ勧誘シ居ルコトニテ其二ハ「ディアス」ハ政府ト妥協成立シタルヲ以テ近々海外ニ出デ兵卒ハ一ヶ月ノ給料ヲ得テ解散スペシトノコトニ有之候ヘ共離合叛服常ナラズ陰謀覬覦裏切ヲ事トシ毫モ恃ムニ足ラ

ザル国人ノコト故明日ノコトハ渺シモ予言スルヲ得ズ候但シ「ディアス」ノ使者「バロン」中将ガ目下当市ニアリ現政府ヨリ多額ノ生活費ヲ貢ガレ居ルハ事実ニ候將又昨今名乗リ上ゲシ共和党ト「ディアス」トノ関係如何モ大ニ世人ノ興味ヲ呼び居候

八一三 七月二十八日 在ロス・アンゼルス大山領事ヨリ 内田外務大臣宛(電報)

墨国政府ハ下加州知事討伐ノ為派兵スルコト

トナリ同知事ハ防禦準備ニ着手セル旨新聞報道ノ件

第七八号 (七月三十日接受)

新聞電報ニ依レバ墨国政府ハ「カンツウ」討伐ノ為兵三千ヲ低加州ニ送リ中一千ハ「マンサニヨ」ヨリ「エンセナダ」ニ向ヒ一千ハ「グワイマス」ヨリ「コロラド」河口ニ向フコトトナリ前者ハ七日後者ハ四日位ニテ目的地ニ到着スル模様ニ付「カンツウ」ハ仮大統領ニ対シ右派兵ノ理由ナキコトヲ述ベ其中止ヲ請求シ若シ聞カレザレバ其結果ニ対シテハ責任ヲ負フ能ハズトノ電信ヲ發シ「メキシカリ」ニ於テ兵員募集其他ノ防禦準備ニ着手シ四日以内ニ四千ノ防禦軍ヲ

第八三号

下加州知事ノ行動ニ関シ在「メヒカリ」日本人会ニ対シ問合中ナルモ回答ナク又當國中央政府ニ於テモ詳細ノ事情分

ラズ大袈裟ナル新聞ノ噂ノミ高ケレバ一度在羅府領事館員ヲ出張取調セシメラレ度シ但同地邦人ヘハ飽迄中立態度ヲ持シ慎重ニ行動シ危急ノ場合ニ付テハ便宜在羅府領事ヘ相談スペキ旨注意シ置ケリ尚当地ニテハ大事ニ至ラズシテ解決セラルベシト樂觀セラル(三十一日)

在羅府領事済

第八四号

編成スペキ旨ヲ語リ居レリト云フ

在米大使、在墨公使ヘ電報セリ

八一四

七月三十日 在ロス・アンゼルス大山領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

下加州知事ノ行動報告並メキシカリ在留日本

人ニ対シ中立態度ヲ採ル様諭告シタル件

第八一号

(八月一日接受)

新聞電報ニ依レバ「カンツウ」ハ三十日「カレキシコ」駐

在中央政府代表者ニ対シ交通断絶ノ告知ヲ發シタリ又「ハイマス」駐在米国領事ハ「メキシカリ」駐在米国領事ノ問

合ニ対シ出征軍ノ「ハイマス」出発ハ無根ナルモ「マサトラン」及ビ「マンサニヨ」ヨリ出征軍出発ノ風説アル旨回

答セリトノ事ナリ尚「メキシカリ」在留ノ日本人ニ対シ此際嚴重ナル中立態度ヲ採ルベキ旨諭告セリ

米国大使及墨国代理公使ヘ転電セリ

八一五 七月三十一日 在墨国伊藤臨時代理公使ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

下加州知事ノ行動ノ実情調査ノ為在ロス・ア

ンゼルス領事館員ヲ出張派遣方稟請ノ件

一六 「メキシコ」革命動乱関係一件 八一四 八一五 八一六

九六七

一六 「メキシコ」革命動乱関係一件 八一七 八一八 八一九 八二〇 九六八

スル様取計ハレタキ旨申来レルニ付在米大使ニ於テ御交渉ノ上在「ロス・アンゼルス」本邦領事ニ於テ右実行方法ヲ講ズル様御電訓相成様致シ度シ

在米大使、ロス・アンゼルスへ電報セリ

八一七 八月四日 内田外務大臣ヨリ 在ロス・アンゼルス大山領事宛(電報)

下加洲居留日本人保護ノ為必要ノ場合領事館

員出張差支ナキ件

第二二号

在墨代理公使発本大臣宛來電第八三号ニ關シ居留民保護ノ為必要アラハ貴館員ヲ出張センメラレ差支ナン

八一八 八月四日 内田外務大臣ヨリ 在米國幣原大使宛(電報)

下加洲在留邦人必要アラバ米国へ避難シ得ル

様米当局へ交渉方訓令ノ件

第三三九号

在墨代理公使発本大臣宛來電第八四号ニ關シ大山領事ト打合セノ上米国内ヘ避難ノ必要アリト認メラルニ於テハ密入国問題ノ喧シキ折柄ニ付此点特ニ注意ヲ加ヘラレ避難者

第八五号

下加州日本人会ヨリ米国新聞ニ表ハレタル日本人ガ知事援助説ハ無根ナリ又目下ノ情況ハ樂觀ヲ許ス旨電報アリタリ

八二〇 八月五日 在ロス・アンゼルス大山領事ヨリ

下加洲ノ形勢ニ關スル新聞電報報告ノ件

第八九号

新聞電報ニ依レバ低加州事件ハ不日平和ニ解決セラルベキ旨「メヒカリ」中央政府代表者及「オブレゴン」ヨリ在「ノガレス」同大將選舉事務所へ電報アリタルガ「カンツウ」ヲ動カサザル条件ニテ何等カ協議進行中ナルガ如シト

第八五号 (八月七日接受)

八二一 八月五日 在ロス・アンゼルス大山領事ヨリ 内田外務大臣宛(電報)

日本人人ノ知事援助説ノ新聞電報ハ無根ナル旨下

加州日本人会ヨリ通報ノ件

結局ノ処分ハ勿論當方ニ於テ其責任ニ當リ決シテ米國側ニ迷惑ヲ懸ケサルコトトシ貴地當局へ可然御交渉ノ上結果電報アリタシ

右在墨代理公使及在羅府領事へ転電アリタシ

八一九 八月四日 在墨國伊藤臨時代理公使ヨリ 内田外務大臣宛(電報)

加州日本人会ヨリ通報ノ件

ノコトナリ 五日

米国及墨国大公使へ転電セリ

八二一 八月五日 在ロス・アンゼルス大山領事ヨリ 内田外務大臣宛(電報)

下加洲ニ於テ交戦開始ノ危険有無ノ観測ニ付

報告ノ件

第九〇号

(八月七日接受)

米国及墨国大公使へ転電セリ

ナシト

米国及墨国大公使へ転電セリ

八二二 八月五日 在墨國伊藤臨時代理公使ヨリ 内田外務大臣宛

墨国仮政府ノ内閣員更迭ノ件

政公信第一九三号

(九月一十五日接受)

大正九年八月五日

在墨

臨時代理公使 伊藤敬一(印)

外務大臣子爵 内田康哉殿

一、内務大臣代理 Lic. Gilberto Valenzuela ；今回瑞西駐在全權公使ニ任ゼラレ其後任トシテ Lic. Inocente Lugo 内務次官ニ新任セラレタリ

二、外務大臣 Lic. Miguel Covarrubias ；今回駐英全權公使ニ任ゼラレタルガ後任者ノ任命アル迄外務次官上院議員 Doctor Cutberto Hidalgo 省務ヲ代理スペシト云フ

モ目下ノ形勢ニテハ多ク急変スルコトハ無カルベシ又同地易ナラザルガ如ク當地ニテノ批評ハ多ク樂觀ニ傾キ居リ如何ニ依リテ決セラルベキコトハ勿論ナルガ目下ノ處「カソツウ」ハ頻リニ兵ヲ募集シツツアルモ米国政府ニ於テ武器輸出ノ取締厳重ナル為強ナル軍備ヲ為スコト困難ナルト同時ニ中央政府ニ於テモ交通不便ノ為兵ヲ動カスコト容易ナラザルガ如ク當地ニテノ批評ハ多ク樂觀ニ傾キ居リ

目下平和ノ商議進行中新聞報ハ寧口時局ノ真相ヲ伝フルモノナルベシト称シ居レルガの確ナル報道ハ之ヲ知ル由ナキモ目下ノ形勢ニテハ多分急変スルコトハ無カルベシ又同地日本人ハ馬及「トランク」ノ微発ニ遭ヒタルモノアルモ其他ハ別条ナク国境間ノ交通及其他ノ事モ平常ト異ナルコト

一六 「メキシコ」革命動乱関係一件 八二一 八二二 八二三

九六八

八二三 八月五日 在墨國伊藤臨時代理公使ヨリ 内田外務大臣宛

九六九

**墨国仮政府外相ノ駐英公使転任ハ英國ノ墨国
新政府承認促進ノ為ナルベキ旨報告ノ件**

政機密公信第三四号

大正九年八月五日

在墨

臨時代理公使 伊藤敬一(印)

外務大臣子爵 内田康哉殿

墨国承認問題ニ関スル件(第五)

当国仮政府ノ外務大臣「ミゲール、コヴァルービアス」氏ハ今回本官ヲ免ゼラレ同時ニ英國駐在特命全權公使ニ任せラレ候

当国政府ハ英國トノ外交関係復活ヲ切望シ仮政府ノ承認ヲ可成速カニ受ケンガ為義ニハ墨西哥鉄道ヲ返還シ次デ特派

使節(「エル、ウニヴェルサール」紙社長「パラヴィチニ」)ヲ派遣シ旧交ヲ温メ其機嫌ヲ買ハソコトニ汲々タリ又

在当地伊国公使ガ駐英同國大使ヨリ受ケタル電報ニ依レバ

英國政府ニ於テモ近ク墨国ヲ承認スル意アルヤニ存ゼラレ

候處昨今當地新聞紙ノ伝フル所ニヨレバ英國政府ハ墨国大統領選挙後ニ於テ之ヲ承認スペキ意向ヲ洩ラシタル由ニ有

在米大使宛貴電第三三九号ニ關シ同大使ヘ左ノ通り電報セリ

第五〇号

貴電第一号ニ關シ聞ク所ニ依レバ目下「メキシカリ」在留民ノ確実ナル数ハ不明ナルモ多分四百五拾人余位其中入

米スル資格無キ者四百人余ナルベシトノ事ナルガ本官即座ノ意見ニ依レバ墨国内地ニ送ルコトハ直チニ生活上ノ問題ヲ生ズヘキガ故ニ好マシカラズ又米国内地ニ送リ自由ニ労働セシムルコトハ米国政府ヲ承諾セシムルコト困難ナルベキノミナラズ當方ニ於テモ責任ヲ以テ取締リ難シ從ツテ実行可能ノ方法トシテハ桑港移民局ノ如キ処ニ収容ヲ依頼スルカ夫レヨリモ更ニ本邦ニ送還スルカヨリ他ニ良策ナシト

ヨリ徒步旅行ニテ漸ク目的地ニ達シタリト云フガ如キモノナレバ危険目睫ニ迫ルニ非ザレバ斯ル方法ニテ避難スルヲ欲セザルベシ然レドモ政府トシテハ予メ万ノ場合ニ対スル策ヲ定メ彼等ニ向ツテ何等保護ノ態度ヲ示スペキ必要アリ

リ同時ニ其保護ハ前記ノ方法ニ依ル外ナシトスレバ之亦止ムヲ得ザルニ付無責任ナル批評家ニ対スル一政策トシテ仮

之候、當官辺ノ消息ニ通ズル者ノ言ニ依レバ當政府ハ英國及西班牙ト大使交換ヲ希望シツツアル由ニ有之候因ニ駐墨伊国公使ガ故「カラシナ」氏ノ遺族ヲ保護シ其他

「カラシナ」派ノモノト交際アル為ニヤ前記「コヴァルーピアス」外相ハ同公使ノ Persona non grata ナル旨伊国政府ニ通ジタル趣ニテ伊公使「カララ」氏ハ承繼大統領「デ、ラ、ウェルタ」ニ面会シ大ニ外相ノ不謹慎ヲ詰リタル處同

大統領ハ右外相ノ手腕ヲ聊カ買被リ居リタルヲ發見シ早晚罷免セント考へ居ル所ニ付何トカ處分スベシト語リタル由ニ有之候、然レバ同外相今回ノ転任ハ一ハ伊公使ニ対スル約束ノ實行ニシテ一ハ予テ同外相ガ英國ニ駐在ノ経験ヲ有シ同國官辺ニ知己アルヲ利用シ承認問題ノ速決ニ資セントセルモノト被存候

右及報告候 敬具

八二四 八月六日 在ロス・アンゼルス大山領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)
下加州動乱ノ場合在留邦人ノ米國ヘノ避難方

ニ關シ在米大使ニ意見稟申ノ件

第九一號

(八月八日接受)

ニ同地日本人会ニ對シ右保護方ニ對スル希望及其實行意見ヲ質シ彼等ヲシテ其答案ニ窮セシメ他ニ名案ナキ時ハ避難ヲ為帰國ヲ欲スル者ニ對シ送還ノ便宜ヲ与フルコトトシ同地ノ實際ノ形勢ニ応ジ適當ノ時機ニ右實行方ニ付同政府ノ協力ヲ仰グ事ト致度シ
尚批評家ノ意見ニ依レバ若シ中央政府ガ遠征隊ヲ派遣ストセバ第一戰地ハ「エンセナダ」又ハ其他ノ或海岸ノ地點ナラザルベカラズ然シテ「メキシカリ」ハ海岸ヨリ遠ク且日本人人等ノ労働地ハ渺々タル棉畑ノ大平野ナレバ果シテ戰地ト為ルベキ運命ヲ有スルヤ否ヤ明ナラズ從ツテ實際ニ危險アリトモ極急ノコトニハ非ザルベシ、尤モ「カンツウ」軍今後ノ情勢如何ニ依リテハ物品ノ徵発及徵兵ヲ強制セラルガ如キコトアルヤモ測リ難シトノコトナルガ本官ハ同地日本人ニ對シ危急ノ場合ニハ當方ニ在墨公使及閣下ニ急報シ同地米國領事ニ應急ノ保護ヲ仰グヘキ旨並ニ其他必要ト認ムル注意ヲ与ヘ置ケリ

外務大臣、在墨代理公使ヘ転電セリ

八二五 八月七日 在ロス・アンゼルス大山領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

一六 「メキシコ」革命動乱関係一件 八二六

九七二

危急ノ場合_下加州在留邦人ノ米國避難方ニ關シ在米大使へ報告ノ件

第九三号
(八月九日接受)

第九三号

(八月九日接受)

本官発在

本官発在

ハ直チニ出張スベキ旨ヲ申渡シ置ケリ
目下ノ状況ハ寧ロ樂觀セラレツツアルモ前記避難法ニ対シ
米国政府ノ同意ヲ求ムルノ可否ニ付御考慮アリタシ
外務大臣、在墨公使ヘ転電セリ

拙電第五

拙電第五〇号ニ閑シ若シ戦闘アリトモ勝敗ハ直チニ決セラ
ルベク危険ハ多分一時ノコトナルペキニ付大袈裟ナル避難

八二六 八月七日 在墨田区伊藤臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）
下加州騒乱ノ場合ノ在留邦人避難方法研究

ルモ若シ愈々危険ニ頗スルトキハ仮令米国政府ニ於テ好マ

第八六房

入ルコトハ自然ノ順序ナルベク米国憲ト雖モ之ヲ制シ得

本官発在ロス・アンゼルス領事宛
第一四号

此辺ニ腹案ヲ定ムル外ナカルベシト思考シ目下当地ニ滯在中ノ同地ノ日会幹部及他ノ重立チタルモノニ避難法ノ困難ナルコトヲ説明シ且其意見ヲ聞キ万一ノ場合ニ処スル節ノ参考トシテ國境ニ於ケル米國移民官ノ意向ヲ探ラシメタルニ同官ハ危急ノ場合ニハ「カレキンコ」ニ避難ヲ許スモ必ズ移民局ノ通路ヲ通過スペントノ意ヲ洩シタリトテ満足ノ意ヲ表シタルニ付本官ハ各種ノ意見ヲ与へ且必要ノ場合ニ

外務大臣及在米大使へ電報ス

内田外務大臣宛（電報）
下加州在留邦人保護ニ関シ中央政府ニ依頼済
ノ旨報告並羅府領事館員ヲシテ実地視察セシ
ムル必要アル旨稟申ノ件

卷八

大使、大臣及在羅府領事へ電報セリ
ナカルベシ

八二一八 八月七日 在墨国伊藤臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

下加州騒乱ノ場合ノ在留邦人保護方ニ関シ外務次官ニ申入ノ件

第八八号

（八月十日接受）

当国外務大臣転任シ次官事務取扱フコトトナレルニ付八月
ノ官房ロジニハハラノ令書第ニ万号

三日食一餐，一日食三餐，一日食二餐，一日食一餐。

續用各事多得電報。一四日，始到重慶。次日，北歸，至三

卷之三

引之以通萬物之氣也。故曰：「陰陽之精，氣之用，不外乎此」。

也。事主付之日本，吳蕙，一个土考官之子，義同，國文好。

「御衣類」一ノマツ百方三三、一尺紋序二有効二、一呉箋ヲ衣

頃ノ置ニマヽバ第一着ニ、王羅守頃事館ヨリハク氏

ノ裏也。次兄ヲ見察ノ然レニ深襄、万吉ヲ構ベレ、最三干

一六 「メキシコ」革命動亂関係一件 八三七 八三八

郵函第九五五号宛ニテ御通達アリタシ
大臣及大使ヘ電報セリ

八二九 八月九日 在ロス・アンゼルス大山領事ヨリ
内田外務大臣宛 (電報)

下加州メヒカリノ状態ニ鑑ミ館員派遣ハ今後

ノ模様ニ依リ実行シタキ件

第九八号 (八月十一日接受)

本官発在墨代理公使宛第二七号

「メヒカリ」ノ状態ハ大臣官拙電九〇号ノ通りナラズ目
下ノ處当地ニテ同地ノ主ナル日本人トノ意志ヲ疏通シ得ベ
キニ付館員派遣ハ今後ノ模様如何ニヨリ实行スベシ
外務大臣、在米大使ヘ転電セリ

八三〇 八月十二日 在墨國伊藤臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛 (電報)

墨国大統領墨国ノ外交政策新政府承認問題固

内鎮定ノ状況等談話ノ件

第八九号 (八月十四日接受)

八月十二日大統領ニ内謁シタル處彼ハ本官ヲ見ルヤ否ヤ旧
知ノ態度ヲ示シ二拾年前ノ学友ナリトテ打チ解ケ折柄來合

ハセル農務大臣ヲ退ケ五時間半許懇談セル中最モ肝要ナル
点ハ同大統領陸軍大臣「カエス」中将及「オブレゴン」中
將ノ三人ハ意氣投合シ特ニ対外關係ニ闊シテハ三人共「カ
ランサ」ノ对外政策ヲ固持スル考ナレバ新聞紙上伝ヘラレ
シ如キ親米主義ニアラズ各國ニ対シテ決シテ親疎ノ別ヲナ
サアルコト、現政府ト各国トノ間ニハ事實上外交關係繼續
セルモノト認ムルニ付墨國ヨリ承認ヲ求ムルコトヲ為サザ
ル考ニテ各國ヘハ夫々使臣ヲ派遣セリ云々ニシテ夫ヨリ
「ビヤ」ノ降伏ハ既定ノ事實ナルモ今後ノ行動ハ何トモ言
ヒ難キモ「ディアス」ハ今月中ニ海外ニ出ル約束ナルモ彼
ノ国内ニ在ルト否トハ別段政府ノ関スル所ニ非ズ蓋シ彼ハ
僅少ノ部下ヲ有スルニ過ギザレバ敢テ恐ルルニ足ラズ勿論
「ペラエス」ハ米國油業者ト連絡アルヲ以テ今後ノ動靜予
測シ難シト雖モ「ゴンサレス」派ノ大小首領ハ殆ド滅亡
シ其他二三ノ小叛徒数日内ニ退治サルベキヲ以テ今日程墨
國ガ平定セラレタル時ハナシト言ヘリ又去ル六月軍艦「デ
レロ」号難破ノ為米國及智利ヨリ一二艘壳渡ノ申込ヲ受ケ
居ルガ一千噸ヨリ一千五百若クハ二千噸位ノ海防艦ヲ買ヒ
度シトテ暗ニ日本ニ壳意無キヤヲ問ヒ斯様ナ小軍艦ヲ買ヒ

タリトテ米國ニ対シ戰意ヲ有スルモノトハ何人モ思ハレザ
ルベケレバ決シテ遠慮スル必要ナシト謂ヒ独逸ヨリ武器壳
渡シノ申入ヲ受ケタルコトナシト語レリ

在米大使ヘ電報セリ

八三一 八月十二日 在墨國伊藤臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛 (電報)

下加州ニ於テ戰端開始ノ場合「カンツウ」ハ日

本人ノ米境避難ヲ許サザルベシト墨国大統領

内話アリタル件

(八月十四日接受)

本官発在ロス・アンゼルス領事宛第二七号

大統領ニ内謁ノ際談下加州ニ及ビタルニ中央政府軍ハ「マ
サトラン」ヲ出發セル筈ナレバ遠カラズ目的地ニ達スベシ
ト雖モ愈々戰端ノ開カルル上ハ「カンツウ」ニ於テ日本人
ノ米境避難ヲ許サズ軍略上「メヒカリ」ニ抑留スペシト信
ズルヲ以テ予メ其ノ手順アリタシト述ベタルニ付其ノ御舍
ミヲ以テ然ルベク御取計相成度シ

大臣及在米大使ヘ電報セリ

一六 「メキシコ」革命動乱関係一件 八三一 八三二

一六 「メキシコ」革命動乱関係一件 八三三 八三四

九七六

当時ヨリ暴徒ノ巨魁トシテ同地方ニ蔓り居リ最近ニ於テ一度仮政府ニ降リ乍ラ尚モ曖昧ナル態度ヲ持シ居リシ Pedro Zamora 現政府ニ叛キ部下六百名ヲ率イテ山地ニ逃走致候之レガ為政府ハ早速討伐隊ヲ派遣シタルヲ以テ日ナラズ征服セラルニ至ルベシトノ事ニ有之候

右及報告候 敬具

追テ本文中 Pablo González ハ同名同姓ノ中将トハ別人ナリ又 Ricardo González ハ一旦捕ヘラレタルモ墨国ヲ立去ル条件ニテ大統領ノ特赦ヲ得タルガ墨市ニ來リ墨国内ニ居住スル許可ヲ得タリ

八三三 八月十四日 在ロス・アンゼルス大山領事ヨリ 内田外務大臣宛(電報)

メヒカリ在留日本人会幹部ト協議シ緊急避難

ノ場合ノ措置振指示ノ件 (八月十六日接受) 本官發在墨代理公使宛電報第一八号

貴電第一七号ニ関シ

「メキンカリ」日本人会幹部ノモノヲ當館ニ呼ビ寄セ種々協議ノ末左ノ通取計ラハラシムルコトトセリ

第九一號 (八月十八日接受) 下加州問題ハ平和ニ解決シ大統領ハ仮知事ヲ任命シ「カントウ」ハ近ク羅府ニ去ルベシト

ノ情報報告ノ件

八三四 八月十六日 在墨國伊藤臨時代理公使ヨリ 内田外務大臣宛(電報)

外務大臣、在米大使ヘ転電セリ

ハ數日中ニ事務引継ノ上「ロス・アンゼルス」ニ行ク筈之レニテ事件ハ一段落ヲ告ゲタルモノト認ムベキト大統領ノ意ヲ受ケ居ル新聞紙ニテハ第一着ニ日本人及支那人ニ対スル入国税ヲ撤廃シ賭博ヲ禁ズベシト報セリ

在米大使及羅府ヘ電報セリ

八三五 八月十八日 在ロス・アンゼルス大山領事ヨリ 内田外務大臣宛(電報)

下加州知事「カントウ」ヨリ平和裡ニ後任知

事ニ事務引継ヲ終了シタル件

第一〇一號 (八月二十日接受)

在墨代理公使発貴大臣宛往電第九一號ニ關シ

十八日「カントウ」ヨリ後任知事 General Luis M. Sáenz ハ対シ極メテ平和ニ事務引継キヲ終リタル旨「メキシカリ」日本人会ヨリ報告アリタリ
在米大使、在墨代理公使ヘ転電セリ

八三六 八月二十日 在墨國伊藤臨時代理公使ヨリ 内田外務大臣宛

米仏ハ九月ノ墨国大統領選挙後条件ヲ附シ新

政府ヲ承認スベシトノ新聞報道報告ノ件

一六 「メキシコ」革命動乱関係一件 八三五 八三六

一、至急同地移民政ニ面会シ彼ノ許可ニ基キ予メ避難地ノ選定ヲ請ヒ他ノ必要ナル情報ト共ニ之ヲ各在留民ニ周知セシムルコト

二、避難民ノ取締ハ德義上並ニ實際上日本人側ニ於テ責ニ任ゼザルベカラザルコトハ勿論ナルモ米國官憲取締方ニ付予メ諒解ヲ得クコト(過般移民官ノ談ニ依レバ多分米國軍隊ノ監視ノ下ニ置カルルコトトナルベシト云フ)

三、避難ニ関スル一切ノ準備及在留民ヘノ警告等ハ日本人其ノ任ニ当リ本官ノ助力ヲ要スルコトアルトキハ隨時申出ヅルコト

一、至急同地移民政ニ面会シ彼ノ許可ニ基キ予メ避難地ノ選定ヲ請ヒ他ノ必要ナル情報ト共ニ之ヲ各在留民ニ周知セシムルコト

二、避難民ノ取締ハ德義上並ニ實際上日本人側ニ於テ責ニ任ゼザルベカラザルコトハ勿論ナルモ米國官憲取締方ニ付予メ諒解ヲ得クコト(過般移民官ノ談ニ依レバ多分米國軍隊ノ監視ノ下ニ置カルルコトトナルベシト云フ)

三、避難ニ關スル一切ノ準備及在留民ヘノ警告等ハ日本人其ノ任ニ当リ本官ノ助力ヲ要スルコトアルトキハ隨時申出ヅルコト

一六 「メキシコ」革命動乱関係一件 八三七 八三八

九七八

八三七 八月二十三日 在ロス・アンゼルス大山領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

下加州ニ於ケル中央政府軍メキシカリニ進軍
中ノ趣ニ付在留邦人保護方中央政府ニ請求ア

リタキ旨在墨代理公使ヘ電報ノ件

第一〇三号 （八月二十五日接受）

本官発在墨代理公使宛電報第三〇号

「メキシカリ」日本人会ヨリノ通報ニ依レバ「カンツウ」

引退前中央政府ヨリ派遣セル討伐軍ハ「カリヲアルニア」

湾頭「サンフエリップ」ニ九百「コロラド」河畔「サンル

イス」ニ千五百アリ右ハ或ハ地理ノ関係上後還リ不便ノ為

カ又ハ「カンツウ」軍トノ関係上必要ナル為カ理由不明ナルモ目下何レモ「メキシカリ」ニ進軍シツタル様子ナル

ガ彼等ハ無紀律且給養不充分故恰モ飢エタル狼ノ如キモノナレバ其ノ乱暴スベキコト想像ニ難カラザルノミナラズ支那人ガ最モ標的トナリ易キタメ日本人ハ其ノ巻添ニ遇フベキ虞アリ尤モ右ノ如キ場合ニハ米国軍隊「メキシコ」側ニ進入シ良民及外国人ノ保護ニ任ズベキ模様ナリトテ種々ナル不安ノ風説ヲ報ジ来レリ右ハ何処迄信憑スルニ足ルヤ不明

ナルモ取リ敢ヘズ右ノ如キ場合ニハ日本人ノ居留民ハ支那人ト区別サレ得ル様日墨両国旗ヲ掲揚シ且成ル可ク外出ヲ避クル様注意シ置キタルモ彼等ノ保護方ニ関シ墨国司令官並ニ新知事ニ然ル可ク訓示方中央政府へ請求アリタシ外務大臣、在米大使ヘ転電セリ

八三八 八月二十三日 在墨國伊藤臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛

下加州北部知事問題解決ニ付報告ノ件

通公信第二〇八号

大正九年八月二十三日

在墨

外務大臣子爵 内田康哉殿

下加州事件解決セル件

下加州北部知事「カンツウ」大佐ガ飽ク迄其椅子ニ齧リ付キ囊ニ任命サレタル後任知事ニ事務引継ヲナサズ其後中央政府ニ於テ同地知事ヲ民衆投票ニヨリ任命スペク決定セルニ対シテ反抗シ盛シニ募兵武器買入ヲナシ遂ニ七月二十八日布告ヲ發シテ公々然叛旗ヲ翻シタル結果中央政府ニ於テ

之ガ討伐ノ為ノ軍隊ヲ派遣スル事ト相成リ候處同地方ニハ邦人七百余名在留致居リ多分大事ニハ至ラザル可ク樂觀セラレタルモ万一ノ場合ニ於テ狼狽スルガ如キコト無之様予

メ保護ノ方法ヲ講ジ置度ト存候ニ付當方ヨリハ數次ノ電報ヲ以テ万一ノ際ハ米国内ニ避難セシムル様御取計相成度旨

稟請致シタル次第ニ有之候處本件ハ當國ニ於ケル幾多ノ前例ニ洩レズ其初メニ於テ脱兎ノ勢ヲ示シ仰々シキ宣言ヲナシタルニ拘ラズ終リハ少女ノ如ク仲裁スル者アリテ「カンツウ」ハ愈本月十八日其地位ヲ Ing. Luis M. Salazar ニ譲リ「ロス・アンゼルス」ヘ出発シタル為無事解決ヲ告ク

ルニ至リ候

右及報告候 敬具

在墨

八三九 八月二十六日 在ロス・アンゼルス大山領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

メヒカリノ情況ニ閑スル新聞報報告ノ件

第一〇七号 （八月二十八日接受）

本官発在墨公使宛電報第三一号

拙電第三〇号ニ関シ

二十六日「メヒカリ」発新聞電報ニ依レバ遠征隊前衛來着

一六 「メキシコ」革命動乱関係一件 八三九 八四〇

外務大臣子爵 内田康哉殿

下加州「メヒカリ」在留本邦人ノ保護ニ閑スル件
曩ニ當國下加州北部知事「カンツウ」ガ現政府ノ命令ヲ奉ゼス陽ニ離叛スルニ至リ候為中央政府ハ之レガ討伐隊ヲ派遣スルニ決シ候處右討伐隊ノ目的地ニ到着セザル前「カンツウ」ハ世人ノ予想通り和解ノ態度ヲ示シ仮ニ任命サレタ

ル後任者ニ事務ヲ引継ギ同地ヲ立去リ事件ハ「先ダ」解決ヲ告グルニ至リ候然ル処政府派遣軍ハ事件落着後ニ拘ラズ尚進軍ヲ中止セズ近日中ニ「メヒカリ」市ニ到着ノ予定ナルガ無規律ニシテ給養足ラザル多数兵士ガ同地着ノ上ハ在留外国人ニ対シ如何ナル亂暴危害ヲ加フルヤモ難計邦人一同アリ度旨在羅府大山領事ヨリ電報ノ次第有之候ニ付早速当国外務省へ照会シ當該官憲へ可然取計ハレ度旨及依頼候處同省ヨリ「メヒカリ」駐屯軍司令官ヘ日本人ニ対シ有効ナル保護ト十分ナル保障トヲ与フベキ旨電訓シタル趣回答有之候条右様御承知相成度此段及報告候 敬具

(本信写送附先、在羅府領事)

八四一 九月二日 在本邦墨国代理公使
埴原外務次官(会談)

日墨国交関係ハ繼續シ居ルヤト在本邦墨国代

理公使埴原外務次官二問合ノ件

九月二日在本邦墨国代理公使埴原次官ヲ來訪シ日本政府ニ於テハ日下日墨両国間ノ国交関係繼續セルモノト認メラル

ルヤ將又中絶セルモノト認メラルルヤ或種問題ノ處理上必

要アル趣ヲ以テ日本政府ニ照会方本国政府ヨリ訓電ニ接シタルニ付右ニ對スル日本政府ノ意見承知致度旨申出テタリ仍テ次官ハ本問題ニハ墨国新政府承認ヲ含ムヤト反問シタル処同代理公使ハ然ラズト答ヘタルヲ以テ次官ハ果シテ然ラバ貴我両國ノ関係ハ依然繼續シ居リ未ダ曾テ中絶シタルコトナシ若シ國交中絶シタリトセバ在墨帝国公使館ヲ引揚ゲ貴下ニ對シテモ亦旅券ヲ交付スル等ノコトアリ得ベキニ非ズヤ尤モ新政府承認ノ問題ハ全然問題ニテ同問題ハ目下日本政府ニ於テ考慮中ナリ以上ハ日本政府ノ意見トシテ貴國政府へ報告セラルルモ支障ナキ旨ヲ答ヘ更ニ貴下ノ所謂或問題トハ如何ト尋ネタル處代理公使ハ升ハ承知シ居ラズルモ思フニ本件ハ本国政府ヨリ在外各代表者ニ宛テタル同文訓電ナルヘシト答ヘタリ

八四二 九月五日 在墨国伊藤臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

オブレゴン墨国大統領ニ當選セルモ国民ハ冷

第九九号

九月五日大統領選挙行ハレ「オブレゴン」大多数ニテ當選

淡ナル旨報告ノ件

(九月七日接受)

セルガ国民ハ真ニ冷淡ニシテ頗ル静穏ナリキ

八四三 十月一日 在墨国伊藤臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛

墨国新政府承認問題ニ閑連シアルゼンチンノ

第一条「ヘース、ウルエタ」氏ヲ亞国駐劄墨国特命

全權公使トシテ承認接受ス

右及報告候 敬具

八四四 十月五日 在墨国伊藤臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛

墨国労働者ノ行ヒタル示威運動ニ閑シ報告ノ

件

政公信第二三六号

(十一月十七日接受)

大正九年十月五日 在墨

臨時代理公使 伊藤敬一(印)

外務大臣子爵 内田康哉殿

墨国承認問題ニ閑スル件(第七)

先般当國仮政府ヨリ派遣セルアーラン丁國駐劄墨国公使「ヘ

ース、ウルエタ」氏ハ今回亞国大統領ニ謁見シタル件ニ

関シ左ノ通り當國外務省へ電報シ來リ候右ニ依レバ予々墨

國現政府ガ高調セル如ク墨国ノ政変ハ何等涉外關係ニ變化

ヲ及ボサズ外國ノ承認ヲ受クル必要ナシトノ主張亞国ニ於テ裏書セルヤニ見ラレ候

本使ヲ亞国駐劄墨国特命全權公使ト認ムル旨規定シタル

亞国官令左ノ如シ

一六 「メキシコ」革命動乱関係一件 八四三 八四四

九八一

一六 「メキシコ」革命動乱関係一件 八四五

九八一

二十三条（労働協調ニ関スル規定ナリ）ノ改正並物価調節委員会ノ設立請願ニ関シ約千名ニ近キ労働者ノ示威運動ア

リタルガ彼等ノ中ニハ過激派ノ色彩ヲ帶ベルモノ混入シ居旗ヲ翻シ盛ニ群集ニ向テ過激主義ヲ鼓吹シ又此機ヲ利用シテ自己ノ人気ヲ得ン為過激的演説ヲナシタル下院議員及政府吏員アリシカバ世上ノ物議ヲ醸シ神聖ナル政厅ニ於テ而モ嘗テ前例ナキ不埒ナル言動ヲ敢テシタル廉ヲ以テ之等演説者ヲ処罰スペシトノ議論高ク政府当局者ハ目下之ガ取調中ナリ而シテ各地方ニ於テモ同様労働者ノ示威運動アリタルモ騒擾スルニ至ラズ單ニ書面ヲ以テ大統領へ前記憲法改正方ヲ請願セシニ止マレリ

右及報告候 敬具

八四五

十月八日

在墨国伊藤臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛

墨国新政府承認問題ニ對スル各國ノ態度ニ付

統報ノ件

（十一月十七日接受）

政機密公信第三七号

単純ナル内謁見ニ過ギズ何等承認問題ニ關係ナカル可ク察セラレ候其他独逸、西班牙、瑞西、智利等ヘ派シタル墨国新公使ニ就テハ何等ノ報ニ接セズ候唯茲ニ当国政府ノ注文通リニ成行ケル如ク察セラルハ政公信第二三一号ヲ以テ報告致候通リ亞爾然丁國ガ別段承認問題ニ触レズシテ墨国新公使ヲ接受セルコトニ有之両國間ニハ此事実ヲ以テ外交關係ノ正式ニ継続シ居レルモノト見ルヲ得ベク此上何等承認問題モ起ラザル可ク候

之ニ反シ米国ニ派遣サレシ墨国大使「イグレシアス、カルデロン」ハ過去五ヶ月ノ間華盛頓ニ滯在シ米国ノ承認ヲ得ルニ努力致シタルモ一向成績挙ラザルヲ以テ今般愈一行ヲ纏メテ帰墨スルニ決シタル旨公表セラレ候之ハ畢竟石油問題ニ關スル當国政府ト米国石油業者（表面）トノ交渉抄々シク進マザル為米国政府ニ於テ承認問題ニ触ルルヲ好マザルニ因ルベク前記墨国大使ハ未ダ米国々務卿ニモ面会スルヲ得ズ唯数回次官ト非公式ニ会見ヲナシタルニ過ギズト伝ヘラレ居リ候サレバ「オブレゴン」ガ愈々大統領ニ就任スル迄ハ米国ノ承認問題ハ到底物ニナラザル可シト一般ニ觀測セラレ候

大正九年十月八日

九八一

在墨
臨時代理公使 伊藤敬一（印）

外務大臣伯爵 内田康哉殿

墨国承認問題ニ關スル件（第八）

当國ノ秩序ハ日ヲ逐フテ回復ン国内殆ド平定ヲ見仮政府ノ信用モ追々増加致候従テ当地新聞紙ガ日々伝フル官辺供給ノ情報ニヨレバ今ニモ米国其他ノ承認アルガ如ク相見エ候ヘ共其寒諸外国孰レモ之ヲ急ギ居ラザルガ如クニ観察セラレ候而已ナラズ當国政府ガ称シテ承認ヲ得タリトカ或ハ外交關係ヲ復旧シタリ（事實上外交關係ハ断絶シタルコトナキニ付憲法上正当ニ承繼セル「デ、ラ、ウエルタ」大統領ノ政府ハ特ニ外國政府ノ承認ヲ受クル必要ナク唯正式ニ交際ヲ繼續スレハ足ルトハ當國政府ノ常ニ高調スル所ナリ）トカナス所モ一向外部ヨリ見テ輪郭明瞭ナラズ例ヘバ「グアテマラ」國ノ特派使節ハ去ル八月中當地ニ來着致候ヘ共別段國書ヲ捧呈シタル事實モ無之有耶無耶裡ニ帰國ヲ急ギ又歐洲ヘ派遣セル墨国特派使「パラヴィチニ」モ白耳義及西班牙皇帝ニ謁見シタルコトヲ仰々敷報ジ來リ候ヘ共之ハ

石油問題ニ關シテハ當國政府ハ最初大ニ色氣ヲ示シ出来ル丈讓歩ノ意アル如ク相見エ候處追々ト折衝ヲ重ヌル間ニ米國側ノ非望ヲ見抜キシモノカ其後容易ニ讓歩セザルノミカ却テ石油ニ關シテハ「カラナンサ」ノ政策ヲ襲踏スル旨發表致セシ位ニ有之將又「オブレゴン」ノ如キモ僅々一ヶ月前述ハ大ニ米国ニ秋波ヲ送リ一意其歎心ヲ買フニ努メ居リソノガ昨今ハ漸ク其ノ言語ヲ慎ム様相成リ昵近者ノ話ニテハ僅々一ヶ月ノ間ニ全ク別人ト相成リ最早前日ノ親米態度無之由ニ有之候

尚遣米大使「カルデロン」帰墨ノ内情ニ關シテハ更ニ探査ノ上報告可致候 敬具

八四六 十月九日

在墨国伊藤臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

英仏米三国間ノ墨国処分ニ關スル秘密條約ノ存在ハ確実ナリトメジーナ元外務次官発表セ

ル件

第一〇一號

（十月十一日接受）

Reventlow 伯ガ柏林ニ於テ声明セル英仏米三国間ニ墨国ノ処分ヲ米国ニ委ヌル事ニ關スル秘密條約ノ存在ニ關シ「カ

一六 「メキシコ」革命動乱関係一件 八四七 八四八

九八四

ランサ」ノ外務次官「メジーナ」ハ其ノ存在事実ナリト発表セル為物議ヲ醸セリ 九日

八四七 十月十二日 在墨国伊藤臨時代理公使ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

墨国新政府承認問題ニ付各國ノ動向報告ノ件

第一〇二号

(十月十九日接受)

貴電第一八号ニ閲シ Don. Leopoldo Blazquez ハ亞爾然丁國婦人ヲ妻トスルタメ「カラランサ」時代同國(不明)トシテ赴任シ代理公使ヲ勤メ以前ヨリ外交官ノ経歴ヲ有シ国内政治ニ関係ナキ人ニシテ評判惡シカラザルモ一般「ラテン」亞米利加人ノ性癖ヲ有スルハ勿論ナルベシ日下尚亞國ニアリトモ云ヒ或ハ帰墨又ハ日本へ渡航中ナリトモ云ヒ判然セズ但シ支那ハ同人ノ persona grata ナルヲ回答シタリ

今日迄事實上墨国ヲ承認セルモノハ亞爾然丁「ホンジュラス」「グアテマラ」「サルヴァドル」ニシテ支那ハ公文ヲ以テ承認セリ

独逸ハ二ヶ月前英國伊西西班牙ニ対シ承認ニ閲スル意向ヲ

尋ネタル處何レモ米国ノ承認ヲ待チ居ル如ク承知セルヲ以テ当国外務省ニ対シ独逸ガ他国ニ先立チ承認スルコトハ從

代表者ノ意見報告ノ件

第一〇四号

(十月十五日接受)

往電第一〇二号ニ閲シ独逸公使「モンシュラ」伯ニ尋ネタル處自分ハ Reventlow 伯ヲ知ルモ政治上意見ヲ異ニスル

墨国処分ニ閲スル秘密條約ノ存否ニ付独英仏

ス」
「グアテマラ」「サルヴァドル」ニシテ支那ハ公文ヲ以テ承認セリ

独逸ハ二ヶ月前英國伊西西班牙ニ対シ承認ニ閲スル意向ヲ

尋ネタル處何レモ米国ノ承認ヲ待チ居ル如ク承知セルヲ以テ当国外務省ニ対シ独逸ガ他国ニ先立チ承認スルコトハ從

来屢々兩國ニ閲シ立テラレタル風説ニ鑑ミ面白カラザルニ依リ英、伊、西等ニ次ギ承認スペシト説明シ諒解ヲ得タリ又先般當國ヨリ公使ヲ派遣セシメタルトキモ de facto 公使トシテ外交官名簿ニ掲載スベキモ独逸外務省ハ同公使ヨリ口頭若クハ「ノート、ベルバール」又ハ「メモランダ」ノ交渉ヲ受ケ正式公文ノ交換ハ承認後迄之ヲナサザル旨之又諒解セシメタリトコトナリ大統領ノ親書ニ対シテハ米、英、伊、西等未ダ回答セザルハ勿論仏國モ或ハ駐仏墨公使ヲ介シテ非公式ニ親書接受ノ挨拶ヲナシタルヤモ知レズト雖モ未ダ正式ニ回答セズ独逸、瑞典モ未ダナリ又独、西、英、智利等へハ新政府ヨリ公使ヲ派遣セルモ何レモ「アグレマン」ヲ求メズシテ出発セシメ(以下未着)

八四八 十月十三日 在墨国伊藤臨時代理公使ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

墨国処分ニ閲スル秘密條約ノ存否ニ付独英仏

ス」
「グアテマラ」「サルヴァドル」ニシテ支那ハ公文ヲ以テ承認セリ

第一〇四号

(十月十五日接受)

往電第一〇二号ニ閲シ独逸公使「モンシュラ」伯ニ尋ネタル處自分ハ Reventlow 伯ヲ知ルモ政治上意見ヲ異ニスル

墨国仮政府ニ付スル各國外交官ノ態度ニ閲ス

モ恐ラク三國間ニ秘密條約ノ存在スル事ハナカラん但シ一

ル件

政機密公信第三八号

(十一月一十六日接受)

大正九年十月十二日

在墨

臨時代理公使 伊藤敬一(印)

外務大臣伯爵 内田康哉殿

去ル五月ノ政變ニ於テ「カラランサ」政府没落シ「デ、ラ、ウェルタ」ヲ承繼大統領トセル現仮政府成立スルヤ當時當國ニ駐在セル各國外交官ハ右政變後ニ處ス可キ各本国政府ノ態度ヲ遽ニ忖度シ能ハザリシト且又仮政府根柢ノ程モ危ノ報道ヲ有スルヲ以テ之ニ応ジ難シト回答セル電報写ヲ有スルヲ以テ右秘密條約ノ存在ヲ認メズト云ヒ又仮国代表者ハ一九一五年ヨリ一九一六年頃ニ於テ在墨仏人ノ保護ニ関シ米国政府ト或種ノ交渉アリシハ想像シ得ルト雖モ秘密條約ノ存在セザル事ハ其後我国ノ為セル所ヲ見明カナラズヤト語レリ

八四九

十月十三日 在墨国伊藤臨時代理公使ヨリ

一六 「メキシコ」革命動乱関係一件 八四九

九八五

一六 「メキシコ」革命動乱関係一件 八五〇

九八六

以テ同公使ト新政府外務省トノ間ニ確執ヲ生ジ遂ニ当市駐在西国副領事ハ之ガ犠牲トナリテ其職務執行ニ対スル認可状ヲ取消サルルニ至レルガ如キ此等ハ無論極端ナル例ナルモ総ジテ各国使臣共大ニ戒心致シ居リ候處其後仮政府ノ根柢次第ニ鞏固ヲ加ヘ国内各地ノ争乱モ順次鎮定セラレ外国人人ニ対シテモ出来得ル丈好意ヲ表シ候モノカラ各国外交官ノ新政府ニ対スル態度モ漸次緩和スルニ至リ去ル九月十六日ニ於ケル当國独立祭当日ノ儀式ニハ例年ノ如ク大礼服ヲ

コソ着用セザレ何レモ非公式ヲ以テ参列シ(米国代理大使、西班牙公使並ニ玖馬代理公使ノミハ不參セルモ西国公使ハ例年参列セザル慣例ヲ作り玖馬代表者ハ旅行中ナリキ)益々接近ノ度ヲ加ヘタルト同時ニ米、英、仏、西、伊ノ在留民ハ各多大ノ利益ヲ當國ニ有シ居リ候ニ付自然之等諸國ノ外交官ハ非公式ニ當國政府ト接触ヲ保ツ必要有之近時ニ於テハ亞爾然丁、「グアテマラ」、「ボンデュラス」諸国ガ新政府ヲ事實上承認セル以外他ノ列国使臣ニ於テモ公式ノ交通往復ハ別問題トシテ非公式文書ノ往復交際等日ヲ逐フテ增加シ事実ニ於テ其關係最早旧時ニ異ナル事ナク英國代表者、亞爾然丁公使、伊太利公使、米代理大使、智利公使等

ハ次期大統領ニ當選セル「オブレゴン」將軍及新政府当路ノ官憲ヲ招キテ宴ヲ張ルニ至リ最近米国大使館ニ於ケル「テー、ダンサン」ニハ外務省事務ヲ管掌スル外務次官モ其席ニ列レルヲ見受ケ申候尚「オブレゴン」將軍ハ既ニ二回米国ニ旅行シ其都度盛ナル歓迎ヲ受ケ候由ニテ當國政府ハ米墨互ニ接近シ承認ヲ急グ必要ハ墨国側ニ非ズシテ寧ロ米国側ニアリト揚言シ居リ候

右報告申進候 敬具

八五〇 十月二十一日

在墨国伊藤臨時代理公使ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

墨国大統領ハ条件付承認ヲ拒絶シ米国ノ墨国

第一〇八号

(十月二十三日接受)

大戰中米国情報局長タリ講和會議ニ於テモ常ニ「ヴィルソン」ノ側ニ在リタル「ジョーデ、クリール」去ル十一日当地ニ着米国大統領ノ秘密使命ヲ帶ベル旨伝ヘラレタル処十六日急遽帰米セリ右ニ関シ新聞紙ノ伝フル所ニ拠レバ承認問題ニ關シ當國政府ノ意向ヲ探ル為大統領ト會見セルニ無条件承認ヲ強硬ニ主張セル為何等具体的問題ニ触レズシテ帰

貴電第五三五号ニ関シ

米セルナリト云フ夫レカアラヌカ墨国大統領ハ十五日數多ノ新聞記者ト会見シ条件附ノ承認ヲ拒絶スル旨声言セルガ之ニテ米国ノ墨国承認ハ當分決定セザルベシト評判セラル在米大使ヘ転電セリ

八五一 十月三十日

在米国幣原大使(ヨリ)

内田外務大臣宛(電報)

米墨間ノ友好關係回復セラルベシト米国國務

長官声明ノ件

(十一月一日接受)

向問合方訓令ノ件

第五三五号

二十九日國務卿ハ在当地墨西哥新政府代表者ト國務卿トノ往復文ヲ公表シ近ク米墨ノ友好關係完全ニ恢復セラル可シ

ト声明セルヲ以テ新政府ノ承認近キニアルベシト予想セラル在墨公使ヘ転電セリ

八五二 十一月五日

内田外務大臣(ヨリ)

在米国幣原大使宛(電報)

墨国新政府承認ノ形式及条件等ニ関スル米国

政府ノ意向問合方訓令ノ件

第五〇九号

一六 「メキシコ」革命動乱関係一件 八五一 八五二 八五三 八五四

墨国政府ハ鮑迄無条件承認ヲ主張シ墨国公使

八五四 十一月六日

在墨国伊藤臨時代理公使(ヨリ)

内田外務大臣(ヨリ)

右本大臣ノ訓令トシテ仏伊ヘ転電アリタシ

在米大使來電ニ依レハ米国政府ノ墨国新政府承認ハ近カルヘキ見込ナル趣ノ処右承認問題ニ対スル貴任國政府ノ態度茲承認ノ形式条件等ニ関スル其ノ意向参考ノ為承知シタシニ付御問合ノ上回電アリタシ

九八七

外務大臣伯爵 内田康哉殿

墨国承認問題其他ニ関スル件

本日迄ニ墨国ヲ承認（承認ノ通告、大統領ヘノ返翰又ハ墨国新任公使ノ接受等）セル諸國ハ左ノ通リニ有之候

支那、和蘭、瑞西、古倫比亞、巴奈馬、サルヴァドル、

ガテマラ、ホンザラス、亞爾然丁、智利、

独逸ハ聯合国ノ手前公然承認ヲ憚リ居ルモ両国ノ新公使ハ

双方ニ駐在シ何時ニテモ国書捧呈ノ準備アリ只管英國、西

班牙等ノ承認ヲ待ツモノノ如ク秘露モ早晚承認スヘシトノ

コトニ有之西班牙モ近ク承認ノ意アルモノノ如ク英、仏モ

米国ト前後シテ承認スル模様ニ有之最近米国ヨリ達セル新

聞電報ニヨレバ「オブレゴン」大統領就任後間モナク承認

スペシトノコトニ有之候ヘバ我邦ニ於テモ余リ他国ニ後レ

ザル様承認アランコトヲ希望致候ニ付予メ其形式ニ付御訓

示相煩度候但当國ノ希望スル所ハ新公使ヲ接受スベキ回答

又ハ大統領ニ対スル御返翰發送ノ事實ヲ以テ國交ノ完全ナ

ル復旧ト見做スコトニ有之候

新政府ハ銳意内外ノ信用ヲ得ルニ勵メ（「オブレゴン」ノ傀儡ニ過ギザル可シト想像セラレシ「デ、ラ、ウェルタ」モ

貴電第五〇九号ニ關シ十一月九日國務卿ニ面会ノ序ヲ以テ

其意向ヲ尋ネタルニ米国政府トシテハ目下墨国ノ財産没収

ニ關スル現行法等ニ關シ両国政府間ノ意思疏通ヲ図リ居ル

次第ナルガ遠カラズ満足ナル了解ヲ見ルニ至ル可キヲ以テ

其上ハ形式上ハ全然無条件ノ承認ヲ与フル心算ナリト語レ

リ米墨交渉ノ内容ニ付テ同官ハ説明ヲ避ケ追ッテ適當ノ時

期ニ本使ニ内話スルコトアル可シト附言セリ

貴電第五六九号
（十一月十六日接受）

國務長官内話ノ件

八六一 十一月十五日 在墨国伊藤臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

英國代表者ヨリモ彼此トノ注文アルモ墨国現政府ハ勿論
「オブレゴン」ニ於テハ憲法第二十七条特ニ石油ニ關スル規定ニ就テハ一步モ讓歩セザル覺悟ナルニ付此際我方ヨリ進ンデ承認ヲ請ハザル考ナリ」云々ニ有之候（十一月十五日附記）

八六〇 十一月十三日 在米國幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

墨国新政府承認ニ關スル米国政府ノ意向ニ付
（メキシコ）革命動乱関係一件 八六〇 八六一

割合ニ手腕アルヲ認メラレタリ）外国人ノ保護、国内ノ平定ニハ最努力シ叛賊ニ対シテハ莫大ナル金錢ヲ与へ降服又ハ国外出向ヲ勧メ又「コアウイラ」州及「ヴエラクルース」港其他ニ於テ頻々行ハル同盟罷業鎮定ノ為ニモ非常ナル

金額ヲ支出シタリトノコトニ有之從テ米国人及墨国人ハ一体ニ現政府ヲ謳歌シ實業界モ大ニ活氣ヲ呈シ米人ノ視察團

ハ統々渡來致候然レバ「オブレゴン」大統領就任後ニ於テモ今迄ノ方針ヲ改メズ財政ノ弥縫サヘ付ケバ墨国ハ當分平

和ヲ樂シミ得ベシト一般ニ信ゼラレ居リ候尤モ米国共和党ノ時代トナラバ今迄トハ異リ遙ニ大ナル圧迫ヲ受クベシト

モ今迄ノ方針ヲ改メズ財政ノ弥縫サヘ付ケバ墨国ハ當分平

一六 「メキシコ」革命動乱関係一件 八六一 八六二 八六三 八六四 八六五

九九一

深ク信用ヲ置ケズト言ヘリ

在米大使へ転電ス

八六一 十一月二十日 在墨国伊藤臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

各国外交官ハ墨国新大統領就任式ニ列席スベ

キニ付之ト同一行動ヲ採ルベキ旨報告ノ件

第一一八号 （十一月二十二日接受）

本月三十日夜十二時新大統領ノ就任式ニ際シ外交団ニ対シ

列席ヲ求メ来ルベキ模様ナル處歐洲各国外交官ノ意見ハ米

国ニシテ何ノ途「オブレゴン」ヲ承認シ各国モ又之ニ倣フ

モノトセバ其ノ就任式ニ参列スルコト寧ロ穩當ナラント云

フニアリ依ツテ本官ハ彼等ノ多数ト同一行動ヲ取ルベシ

八六二 十一月二十六日 在伊国落合大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

墨国新政府承認問題ニ関スル伊国政府ノ意向

報告ノ件

第二四五号 （十一月一日接受）

在英大使宛貴電第四九四号接受當時大臣不在中ナリシニ付

政務次官ニ就キ内報方依頼シ置キ猶二十五日大臣ニ面会ノ

八六三 十一月二十六日 在伊国落合大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

墨国新政府承認問題ニ関スル伊国政府ノ意向

第一〇一二号

（十一月二十七日接受）

貴電第五三六号貴電第四九四号ニ対シ往電第九六三号末段

ヲ以テ一応答申セル処尚二十六日問合セニ対シ其後事態何

等発展ナキ旨当局ヨリ回答アリ

八六六 十一月二十七日 在墨国伊藤臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

独米西仏等各国ノ墨国新政府承認実現スベキ

二付我国モ墨国ノ希望ニ副フ様取計ハレタキ

旨稟請ノ件

第一二三号 （十一月二十九日接受）

在独墨国公使ヨリ大統領宛ノ電報ニ依レバ独逸政府ハ十一

月二十五日大統領ノ親翰ニ対シ返翰ヲ発シタル趣ニテ西国

モ同様承認スペキ模様アリ米国ニ対スル交渉モ進捗セル由

ニテ急ニ承認アルヤモ計ラレズ仏國ハ其代表者ニ対シ大略

非公式ニテ大統領就任式ニ参列スペキ旨訓令セル有様ニテ

早晚各国ノ承認実現スペキニ付我国ニ於テモ可成当國ノ希

望ニ副ハレ早速 de la Huerta ニ対スル御返翰ヲ発セラレ

其旨在本邦墨国代理公使ヘ通牒方御取計アリタシ右ノ如ク

スルトキハ新大統領ニ対シ面目ヲ施スコトナルベシ

八六八 十二月一日 在米国幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

米国國務省ハ急速ニ墨国新政府ヲ承認スルコ

ト無カルベキ旨報告ノ件

第五九九号

（十一月三日接受）

節回答ヲ求メタル処二十六日附覚書ニテ左ノ如ク内報シ來

レリ

「オブレゴン」將軍ノ墨西哥新政府ハ伊国ノ承認ヲ求メ來
レリ今日迄ノ処主要各国ハ何レモ同新政府ヲ承認スルニ至
ラズト雖モ米国ハ右承認ヲ与フルナラムト考ヘラル節ア
リ其ノ承認ノ場合ニハ伊国政府モ亦未だ満足セラレ居ラザ
ル伊国臣民ノ請求權ガ決済セラルベキコトヲ条件トシテ
「オブレゴン」將軍ノ希望ニ応ズルナルベシ

在英米仏各大使及聯盟総会帝国代表ニ転電セリ
「オブレゴン」將軍ノ希望ニ応ズルナルベシ

在英國永井臨時代理大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

八六四 十一月二十六日 在英國林大使宛（電報）
墨国新政府承認ニ関スル件

第五三六号

往電第四九四号ノ件至急電報アリタシ

右在伊大使ヘ転電アリタシ

八六五 十一月二十六日 在英國永井臨時代理大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

墨国政府承認問題ニ關シ英國ニ於テハ其後何
等進展ナキ旨当局ヨリ回答アリタル件

第三六号

帝國政府ハ此際墨国ノ希望ヲ容レ新公使ノ任命ニ承認ヲ与
フルコトニ證議中ナル処十二月一日迄ニ間ニ合ハザルベキ

ニ付貴官ハ承認ノ有無ニ関セズ新大統領ノ就任式ニ参列セ
ラレ差支ナシ尚「ウェルタ」ニ対スル御答翰發送ノ義ハ差

控ヘ追テ新大統領ヨリ就任通知ノ親書ヲ寄セタル際御答翰

ヲ發セラルルコトナルヘン右御含迄

在米大使ヘ転電アリタシ

八六九 十二月一日 在米国幣原大使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

米国國務省ハ急速ニ墨国新政府ヲ承認スル

ト無カルベキ旨報告ノ件

一六 「メキシコ」革命動乱関係一件 八六六 八六七 八六八

（十一月三日接受）

九九三

一六 「メキシコ」革命動乱関係一件 八六九

九九四

在墨代理公使発貴大臣宛第一二二号ニ關シ國務省ハ二十八日在墨代理大使ニ対シ「オブレゴン」ノ就任式ニハ非公式ニ参列スペキ旨ヲ命ジタル趣ニテ國務省ハ憲法第二十七条其ノ他両國間ノ懸案ヲ一掃スル為新條約ノ締結ヲ提議シ居ルモ未ダ回答ニ接セズ依ッテ急速ニ承認ヲナスガ如キコトハ無カルベシト云フ

在墨代理公使ヘ転電セリ

八六九 十二月一日 在墨国伊藤臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛

墨国新大統領就任式ノ状況報告ノ件

政公信第二八二号

(大正十年一月十九日接受)

大正九年十二月一日

在墨

臨時代理公使 伊藤敬一(印)

外務大臣伯爵 内田康哉殿

本年九月五日墨国大統領ニ當選シタル「オブレゴン」將軍(General don Alvaro Obregon)ノ大統領就任式ハ十二月一日午前零時国会ニ於テ挙行セラレ候其節當國仮政府ヲ承認シタル國ノ代表者ハ悉ク大礼服着用非承認國ノ代表者ハ

米国代理大使ヲ始メ燕尾服ニテ同儀式ニ参列致候其他右就任式参列ノ為來墨シタル米国南部諸州数名ノ知事及当選知事並同地方ニ於テ銀行、鐵道、農、工、商業等ニ関係アル重立タル米人約三千名ヨリ成ル墨国觀光団ハ賓客トシテ列席致候尚同日午前十一時新大統領ハ政庁ニ於テ各国外交官ノ祝賀ヲ相受ケ候處英、米代表者ヲ除キタル諸國ノ代表者ハ全部參賀致候

右及報告候 敬具

因ニ亞爾然丁國政府ハ當國駐劄同國公使ヲ特派大使ニ智利國政府ハ同國公使ヲ「ウルグアイ」國政府ハ同國代理公使ヲ夫々特派使節ニ任命右就任式ニ参列セシメ「グアテマラ」「ホンヂュラス」國政府ハ何レモ特派使節ヲ派遣シ「エル、サルヴァドール」國ハ當地在勤同國總領事ヲ特使ニ任命儀式ニ参列セシメ候此段申添候也

尚今回米国加州、「テキサス」「アーカンソー」「アリゾナ」州其他ヨリ来墨セル觀光団ハ駐米墨国各領事ガ當國外務省ノ内訓ニ基キ勧誘斡旋セル為メ斯ク多數ニ渡来セルモノニテ右諸団体ノ滯墨中ハ宿料車馬料電信料郵便料其他一切當國ニ於テ負担致候外一週間ハ殆ド連日連夜款

待シ多大ノ感動ヲ与ヘテ帰米セシメ候

八七〇 十二月三日 閣議決定

各国ノ墨国新政府承認ノ趨勢ニ鑑ミ我国王該
新政府承認ノ措置ヲ執ルベキ件

閣議決定

ノ親書ヲ

天皇陛下ニ捧呈シタルモ當時新政府承認ノ時期ニアラザリシニ鑑ミ御答翰ヲ發セラレザリシガ今般更ニ在本邦墨国代理公使ヨリ駐日新公使「ブラスケス」氏ノ任命ニ対シ帝國政府ノ承認ヲ求メ来レリ

新政府承認問題ニ対スル列國ノ態度ヲ見ルニ支那ハ率先公文ヲ以テ承認ヲ行ヒ和蘭、瑞西、独逸及中米諸國ハ承継大臣会ニ於テ承継大統領選挙ノ結果「ソノラ」州知事「アドルフオ、デ、ラ、ウェルタ」氏当選シ新政府ヲ組織セリ新政府ハ九月五日次期大統領ノ選挙ヲ施行シタルカ「オブレゴン」將軍大多数ヲ以テ當選シ同將軍ハ來ル十二月一日午前零時ヲ以テ就任式ヲ挙行スルコトトナリ国内全ク平静ニ帰セリ

新政府ハ自ラ「カラランサ」政府ノ繼承者ヲ以テ任シ從テ進ムテ各國ノ承認ヲ求ムルノ途ニ出デズ承継大統領就任通知ノ親書ニ対スル各國元首ノ御答翰又ハ在外使臣ノ駐派任命ニ対スル各國政府ノ承認ヲ得テ正式ニ外交關係ヲ開始セムコトヲ希望シ帝国ニ対シテモ過般承継大統領ヨリ就任通知

一六 「メキシコ」革命動乱関係一件 八七〇

九九五

西諸国代表者ハ本国政府ニ対シ米国ノ承認如何ニ拘ラズ十二月一日ヲ以テ新政府ヲ承認セムコトヲ勧奨シタル趣ナリ前記ノ如ク列國ノ或者ハ既ニ承認ヲ了シ爾余諸國ノ承認亦目眞ノ間ニ迫レルニ顧ミ帝國政府ハ此ノ際墨国ノ希望ヲ容レ新公使ノ任命ニ対シ承認ヲ与ヘ以テ新政府承認ノ実ヲ挙

一六 「メキシコ」革命動乱関係一件 八七

九九六

クルコト日墨両国国交ノ増進ニ資スル所以ト思考セラル
ニ依リ至急右様措置スルコト致シ度

八七一 十二月六日 在桑港太田總領事ヨリ

内田外務大臣宛

米国ハ親米的ナルオブレゴンノ新政府ヲ速ニ

承認スペキナリトノ桑港弁護士ドリューーノ談

話報告ノ件

附屬書 十二月六日附在桑港太田總領事ヨリ在墨伊藤臨

時代理公使宛墨公第二号写

公第四〇一号 (大正十年一月六日接受)

大正九年十二月四日

在桑港 総領事 太田為吉(印)

外務大臣伯爵 内田康哉殿

大正九年十二月六日付在墨伊藤臨時代理

公使宛墨公第一号信写送付

一、米墨関係ニ関スル桑港法律家「ドリューー」ノ談話ニ

関スル件

(附屬書)

(写)

墨公第二号

在墨 大正九年十二月六日 在桑港 総領事 太田為吉

臨時代理公使 伊藤敬一殿

米墨関係ニ関スル桑港法律家「ドリューー」ノ談話

ニ関スル件

「オブレゴン」ガ当地法曹家「ドリューー」ナル者ノ在墨公使ト任命セラレンコトヲ歓迎スル旨語リタリトノ当地夕刊

「ブレチン」紙記事ニ關シテハ十二月四日附第一号拙信ヲ以テ申准置候処六日当地「クロニクル」紙ハ最近帰桑セル

「ドリューー」ノ語ル所ナリトテ同人ハ其ノ「オブレゴン」トノ親密關係竝ニ「オブレゴン」ノ真ノ愛國者タルニ顧ミ

米国ノ墨国政府承認貫徹ノ為メ全力ヲ倒注スヘキコト、「オブレゴン」ハ米国ノ親友ニシテ社会政治經濟上米墨間ノ結合ヲ確信シ居レルコト、及「オブレゴン」ノ不斷ノ努力ノ結果両国人ノ感情一変親交ノ途ニ向ヒタルコト等ヲ掲載致

居候間何等御参考迄新聞切抜及御送付候 敬具

本信写送付先内田大臣在米大使

註 添附ノ新聞切抜ヲ省略ス

八七二 十二月六日 在墨伊藤臨時代理公使ヨリ

内田外務大臣宛

米国及英國ノ墨国新政府承認問題ニ關シ墨国

交渉ノ件

政公信第二八五号 (大正十年一月十九日接受)

大正九年十二月六日

在墨 臨時代理公使 伊藤敬一(印)

外務大臣伯爵 内田康哉殿

(附 英國ノ承認問題)

墨国新政府ガ米国ト承認問題ヲ交渉セシムル為義ニ「イグレシアス、カルデロン」ヲ派遣シタルモ同氏ハ対米折衝ニ成功セズ帰墨シタルヲ以テ其後「ロベルト、ペスケイア」其任ニ当リ居ル趣既ニ報告申進置候処米国側ニ於テハ依然石油令ヲ中心トシテ在墨米人ノ保護其他ニ関スル条件ヲ附随セシメテ之ガ交渉ニ応ジ(「カラランサ」ヲ承認スル前幾多ノ約束ヲ為セシモ毫モ実行ヲ見ザリシニ付今回ハ文書ヲ以テ約束セシムル趣意ナル由)來リタル模様ニテ上記「ペス

ケイラ」氏ハ國務卿「コルビイ」氏ニ宛テ長文ノ書面ヲ送リ各般ノ保障ヲ約シタル結果國務卿ハ十一月二十五日之ニ回答シ速ニ両國委員ニ任命シ条約ニ調印センコトヲ提議シタルヲ以テ「ペスケイラ」氏ハ之ヲ齎シ帰墨致候

先之米国上院議員「フォール」ガ墨国新大統領就任式ニ「ハーディング」當選大統領ヲ代表シテ参列スペキ(「ハーディング」氏及「フォール」氏ニ案内シタルハ外務省ナリト伝ヘラル)噂有之候処「ペスケイラ」氏ハ早速在米墨国各領事ニ対シ同上院議員ノ旅券ニ査証スペカラザル旨訓令ヲ發シタルヲ以テ直ニ墨国外務ノ取消命令トナリ(「ペ」氏ハ大統領直属ニシテ外務省ニ関係ナク從テ領事ニ対シ何等命令シ得ルノ地位ニアラザルハ勿論斯ノ如キハ墨国政府ノ本意ニ非ザル理由ニテ)其後米国石油協会ニテ「ペ」氏ガ石油王 Doheny ノ顧問弁護士ト激論シタル等ノ事件アリ當時米墨両国新聞ノ記事ヲ賑ハシタルコト有之又右ノ為「ペ」氏ハ國務省ノ感情ヲ害シ承認問題ノ交渉一頓挫ヲ來セルヲ以テ同氏ハ墨国政府ヨリ召還サレタリトモ噂セラレ候モ其辺ノ内情ハ之ヲ詳ニスルヲ得ズト雖モ新大統領ハ未ダ何人ヲモ駐米密使ニ任命セズ暫ク形勢ヲ觀望スルラシク察セラ

一六 「メキシコ」革命動乱関係一件 八七二

九九七

一六 「メキシコ」革命動乱関係一件 八七三

九九八

レ候尚「ペ」氏ガ帰墨ノ上新聞紙ニ対シ數度公表セル陳述
書ノ英訳別紙ノ通り（「コルビイ」國務卿ノ返翰ヲモ添へ）
差進候間御一覽相成度候

被存候
註 別紙切抜省略

上叙「コルビイ」氏ノ条約締結提議ニ関シ当地新聞紙ノ論

評ハ民主党政府ト締結セル條約ガ果シテ共和党ノ多数ヲ制
スル上院ノ批准ヲ得ルヤ否ヤ疑ハシキヲ以テ今急ギ斯ノ如
キ挙ニ出ヅルノ必要ナシト云フニ一致シ中ニハ条約締結ノ
如キハ國辱ナリ之ハ米国ニ併合セラルル第一步ナリト論ジ
タルモノモ有之候

尚石油問題ニ関シ多大ノ讓歩ヲナスコトハ墨国側ノ忍ビ能
ハザル所ナルベク之ヲ強ヒテ為ス時ハ国内政治ニ影響ヲ及
ボス虞モ有之ヲ以テ当局ハ常ニ強硬ナル態度ヲ裝ヒ居リ候
本件ニ關シ新聞紙上ニ發表セル「ペスケイラ」ノ論弁モ別
紙切抜ニテ御承知相成度此段申進候 敬具

（附）英國ハ昨今頻リニ墨国ニ対シ「インターオセアニア」
「ク」鐵道其他ノ返還、公債利子ノ支払、英人所有土地
ノ処分並ニ其弁償ニ關シ交渉ヲ重ヌルヤニ伝ヘラレ候從
テ同國ノ墨国承認モ伊太利、西班牙、仏國等ノ如ク迅速
ニ行ハレザルベク米、英ハ最モ後レテ承認スルナラント

八七三 十二月七日 在墨国伊藤臨時代理公使ヨリ

内田外務大臣宛

日本政府ガ墨国新任公使ヘノアグレマン詮議

中ナル旨墨国大統領ニ内報ノ件

政機密公信第四三号 （大正十年一月十八日接受）

大正九年十二月七日

在墨

臨時代理公使 伊藤敬一（印）

外務大臣伯爵 内田康哉殿

十一月三十日夜半ニ挙行セラレ候當國新大統領「オブレゴン」將軍ノ就任式ニ参列セントスル一時間前ニ於テ接到致
候貴電ニヨリ墨国新任公使ニ対シ「アグレマン」ヲ与フベ
ク御詮議中ノ趣承知致候ニ付翌十二月一日午後前仮大統領
「デ、ラ、ウェルタ」氏ヲ官邸ニ訪ヒ右ノ趣内報致置キ越
エテ三日新大統領ノ「レセプション」ニ列シタル際人ヲ避
ケテ同大統領及外務大臣ヘモ内報致候處三人共非常ニ悦ビ
右ハ大ナル「モーラル、サッポート」ニシテ（伊太利及西

班牙公使モ本国ニ向ヒ頻リニ打電シ一日モ早ク承認アリ度
旨上申シ居リ候）墨国ニトリテ大ナル福音ナリト申シ帝国

政府ヘ深甚ナル謝意ヲ伝ヘラレタキ旨申居リ候
尚在本邦墨国代理公使ヨリハ今七日朝當国外務省ヘ愈新公
使承認サレタル旨入電有之タル由ニ有之候

因ニ伯刺西爾國モ帝國政府ト同様墨国新公使ヲ接受スル
コトト相成候

右申進候 敬具
当地諸新聞紙ハ孰レモ本件ヲ重要視シ本邦ノ對墨態度ヲ
賞讃致シ「デモクラタ」紙ノ如キハ我陛下ノ御写真ヲ掲
載致シ候（十二月八日）

第一八一九号 （十二月十三日接受）
在英大使宛貴電第五五五号ヲ以テ御通報了承墨西哥新政府
承認ノ問題ハ予テ石井大使ヨリ當国外務大臣ニモ談話セラ
レ同大臣ハ何レ仏國政府ニ於テ方針決定ノ上ハ石井大使ニ
其前通報ノ事ニ話済ミノ次第モアルニ付當國政務局長ニ
二月十日面会ノ序ヲ以テ本官ヨリ実ハ別ニ訓令ヲ受ケタル
次第ニハ非ザルモ前來ノ引懸リモアルニ付同局長ノ参考迄

ニ小官接手ノ本國來電ヲ内聞ニ達シ置ク旨ヲ前置キシテ右
貴電ノ趣談話致シタル処同局長ハ右ハ當然墨西哥新政府ノ
承認ヲ意味スルモノナルベシト言ヘルニ付日本政府ノ意志
モ其心算ナリト答ヘ置キタリ尚其節同局長ノ談ニ依レバ仏
國モ最早墨西哥政府ヲ承認スルニ「ヂスボーズ」シ居ルモ

八七四 十二月八日 内田外務大臣ヨリ
在英國林大使宛（電報）
日本政府ハ墨国新政府承認ニ決シ新公使ニア
ゲレマンヲ発シタル件

第五五五号
帝国政府ハ墨国ノ希望ヲ容レ新公使「ブラスケス」ノ任命
ニ対シ承認ヲ与ヘ以テ新政府承認ノ実ヲ挙クルニ決シ十二
月六日「アグレマン」ヲ発シタリ

一六 「メキシコ」革命動乱関係一件 八七四 八七五

九九九

石油等ニ投資シ居ル関係モアリ米国ガ承認シタル後ニ之ヲ承認スル心組ナルガ米国モ其内承認スルニ至ルベシト思ハルトノ事ナリ

聯盟総会帝国代表ニ転電セリ

八七六 十二月十八日 在墨国伊藤臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛

米国ニ依ル承認ハ墨国ニ絶対必要ナリトノ新聞論説訳報ノ件

政公信第三〇三号 (大正十年一月十七日接受)
大正九年十二月十八日

在墨

臨時代理公使 伊藤敬一(印)

外務大臣伯爵 内田康哉殿

本月八日ノ朝刊「エキセルシオール」紙ハ墨国ハ是非共米國ノ承認ヲ受ケザレバ何事ヲモ為シ能ハズトテ左ノ如キ社説ヲ掲ゲ候処右ハ時節柄大ニ参考ト可相成ト被存候ニ付大要及訳報候

本紙ハ本月一日ヲ以テ開始セラレシ新政府ニ對シ當面ノ重大問題ニ關シ意見ヲ開陳スルコトヲ其義務ナリト思考

題、財政問題及政治問題之ナリ而シテ事態最重大ナルハ此三問題ガ相互關聯シ同時相纏綿シテ起リ来ルニアリトス然レドモ國際問題ハ最重要ナルモノニテ後ノ二問題ハ或程度迄之ニ從属スルモノト見ルヲ得ベシ

吾人ハ「デ、ラ、ウェルタ」氏ノ仮政府成立後幾クモナク該政府ニ對スル米国ノ承認問題ニ關シ赤裸々ニ所見ヲ

發表セルガ當時米国ノ承認ガ直ニ行ハル可キヲ予想セル

人士尠カラザリシニ拘ラズ吾人ハ独リ其然ラザル可キヲ

言明シ尚凡ユル予見ヲ綜合シ「ウェルソン」大統領ハ所

謂「墨国事件」ニ於テ數次ノ失敗ヲ重ネタル後故其儘問題ヲ後繼者ニ引渡スナラン附加セリ而シテ其後米国ニ

於ケル大統領ノ選挙ガ共和党ノ勝利ニ帰セルノ時吾人ハ少時ノ間或ハ「ウェルソン」氏ガ老婆的頑見ヲ以テ墨国

問題ニ關シ最後ノ嫌惡ヲ勝利党ニ与フルヤモ知レズト思惟セルコトアリ然レドモ恐ラク「ウェルソン」氏ハ徹頭

徹尾彼ノ為ス所ニ反対ナル上院ニ於テハ本件ニ關シ彼ノ与フル決定ガ当然失敗ニ了ル可キヲ危懼シ自ラ抑制シタルモノカ承認問題ノ決セザルコト今日モ猶仮政府ノ當時ト何等異ル所ナキハ偶々以テ吾人ノ予見ガ甚ダ誤ラザリ

セリ而シテ吾人ガ前ニモ一言セル如ク最近數年ニ亘レル種々雜多ナル偶發事件ヲ通ジテ我国ノ總ユル公人間ニハ一種ノ樂觀主義ガ萌芽シ之ガ復タ遍ク国内新聞ニ反映セルヲ見タリト雖モ時局ハ爾ク容易ニ樂觀ヲ容サザル而已カ尚有リ余ル程ノ難件否寧ロ危険ヲ伴フヲ見ルナリサレバ彼等樂觀者流ハ輕卒ニモ非ズ將又不用意ニモ非ズ全ク善意ヲ以テ上記ノ如キ空中樓閣ヲ画ケルモノナルニ拘ラズ吾人ハ既ニ百万言ヨリモ的確剝切ナル事實ガ順次之等空中樓閣ヲ破壊シツツアルヲ見ル

「オブレゴン」政府ハ今ヤ吾人ガ何時カハ到着セントシテ翹望セル長キ道程ノ終ニ達セルコト恰モ總ユル希望ト責任トニ満テル国民生活ノ中程ニ於テ設ケラレタル間隙ノ終リシガ如シサレバ我國ノ内外ニテハ同政府ガ此間隙ヲ充填シ以テ十年ノ久シキ間難破ニ瀕セル國家ヲ救ハントスルノ使命ヲ帶ベルモノナリトノ予感ヲ抱クモノ多シ然レドモ此重任ヲ負ヒ之ヲ實現セントスル新政府ハ特ニ事態ヲ正解シ永キ迷夢ニ陥レル空想家ニ拘ラズ別ニ沈着冷静ニ事物ノ真相ヲ考慮セザル可カラズ

今ヤ深刻ナル三問題ハ懸リテ政府ノ面前ニアリ國際問

シヲ証スルニ足ラン

サレバ「オブレゴン」政府ガ米国ニ對シ承認問題ニ關スル交渉ヲ再始セント欲セバ宜シク之ヲ明年三月四日後ニ待タザル可カラズ蓋シ夫レ以前ニ於ケル總ユル努力ハ吾人ノ目シテ全ク不必要トスル所ノモノタレバナリ吾人ハ勿論今日ト雖モ「デ、ラ、ウェルタ」政府ガ其渴望セル白堯館ノ「肯諾」ヲ得ントシテ努力セル當時ト同ジク又其頃吾人ガ記述セル如ク米国ニ對シ偏ニ哀願の態度ヲ持スルコト國家主義ニ囚ハレタル理想政治家ガ頗ル屈辱ト感ズル所ナル可キヲ感得スト雖モ真ニ墨国ノ要スル所ノモノヲ熟知シ且吾国ハ不幸ニモ「ワシントン」政府ノ承認ナクシテ何事ヲモ為シ能ハザルノ事実ヲ明知セル現実政治家ハ米国ノ承認ヲ求メントスル努力ガ若シ的確ニ正シキモノト称スルヲ得ズンバ少クモ時宜ニ適応セルモノタリト認ム可キヲ信ズ

請フ幻想ニ耽ルヲ止メヨ米国ノ承認ハ墨国政府ニ取り其運命ヲ開拓スル唯一ノ路タルニ非ズヤ單リ過去ニ於ケル愚昧ノ徒ノミハ吾国ノ「光榮ナル孤立」ヲ祝福シ得タリシナラン蓋シ過去ニ於ケル吾人ハ世界列国及其政府ト沒

一六 「メキシコ」革命動乱関係一件 八七六

一〇〇一

交渉ニ打過ギ少シモ彼等ニ認メラルコト無ク生存スルヲ得タレバナリ然レドモ今ヤ然ラズ列國ノ承認ハ絶対的必要ニシテ又不可欠要件ナリ否吾人ハ今一步進ンデ之決定的必要事ナリト言ハント欲ス而シテ吾人ガ去ル七月仮政府ガ其外交的交渉ヲ「ワシントン」ニ開始セルニ方リ叙説セル如ク他列國ノ承認ハ措キ先づ第一ニ米國ノ夫レヲ求メザル可カラザルコト茲ニ再ビ附加セザル可カラズ如何トナレバ米國ノ承認ヲ得ル能ハザルニ於テハ吾人ハ今照々タル真実ノ篝火ノ下ニ事実ヲ語リツツアリ自然外交的ニ經濟的ニ和睦親交ヲ結バ此見地ヨリシテ昨日受クルコト能ハザルガ故ナリサレバ此見地ヨリシテ昨日発表セラレタル伯刺西爾國ノ承認ノ如キハ快ハ即チ快ナリト雖モ吾人ガ要望シツツアル「ブラヴォ」河彼岸ノ夫レノ如ク重大意義ヲ有スルモノニ非ズ又既ニ得ラレタル如ク見ユル独逸ノ承認ノ如キモ正反対ノ場合ニ比シ利便ハ即チ利便ナリト雖モ前者ト同様未ダ以テ重大ナル意義ヲナスニ足ラザルナリ

然リ而シテ承認ニ閑スル米國現政府ノ決定ガ一時延期セラレタリトスレバ吾人ガ必要ト為ス所如何ヲ予メ忖度ス

ルニ在リト謂ハザル可カラス若シ夫レ最近ニ於ケル隣邦若干團體ガ墨國ニ對スル承認ノ促進ニ努メツツアルノ事実ヨリ判断セバ吾人ハ好望ナル解決ニ達ス可キヲ信ズルニ躊躇セザル可シト雖モ悲シム可シ由來政策テフモノハ動搖變化常ナク隱顯予測シ難キモノアリ縱令此瞬間ニ於ケル事態ガ万事順潮ノ惑ヲ呈スルニ拘ラズ米國将来ノ政府ガ何時新タル形式ノ監視の政策ニ出デ其間ニハ各種ノ葛藤軋轢ヲ惹起シ以テ承認問題ヲ延引スペキヤ亦測ラレザルナリ嘗テ共和黨政綱中ニハ對墨政策ニ闇シテ若干ノ条件ヲ羅列セシコトアリ今即チ之ヲ記憶ヨリ想起サンカ曰ク『米人ノ生命財産ヲ尊重スルコト、彼等ニ對スル非行ニ対シ速ニ満足ナル解決ヲ与フルコト、彼等ノ被害ニ対シテ正当ナル賠償ヲナスコトニ對シ十分ナル保障ヲ与フルノ意思及能力ヲ有スル責任アルモノニ非ザレバ如何ナル墨國政府ヲモ断ジテ之ヲ承認ス可カラズ』ト即チ一言ニシテ之ヲ言ヘバ米國共和党ハ其綱領トシテ米國市民ノ生命財産ヲ保障スルノ意思ト能力ヲ有セザル如何ナル墨國政府ヲモ之ヲ承認セズト云フニ帰ス然ラバ共和党ハ果シテ何時ノ日如何ナル時期ニ於テ墨國政府ガ此等ノ申進候也

条件ヲ充タセルモノト判定ス可キカ模糊トシテ予測ス可カラザルモノ実ニ茲ニ存ス如何トナレバ既ニ吾人ノ叙述セル如ク斯ノ如キ不定曖昧ナル宣言ハ彼等ガ執ラントスル政策ニ隨時当テ嵌メンガ為メノ型トシテ作製セラレタルモノナルガ故ナリ於是吾人ハ唯迷路ニ立ツアルノミ然リ吾人ハ其対米關係ニ於テ嘗テ迷路ニ立タザリシコトアリヤ

八七七 十二月二十一日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛

対墨武力干涉ヲ主張セル米國クロージー少将ノ北京リーダー紙主筆トノ会見談報告ノ件

公第四五七号

(大正十年一月六日接受)

在支那

特命全權公使 小幡西吉(印)

外務大臣伯爵 内田康哉殿

米国予備砲兵少将「ヴィリヤム・クロージー」氏(William Crozier)ハ墨西哥ニ対シ米國ノ武力干涉ヲ主張シ居ルモノナル由ニテ同氏今般当地方ニ漫遊シ来リタル處同氏

一六 「メキシコ」革命動乱関係一件 八七七 八七八

註 新聞切抜省略

八七八 十二月三十一日 在墨国伊藤臨時代理公使ヨリ
内田外務大臣宛

墨国新政府承認ニ對スル仏國ノ態度ニ閑スル

新聞記事報告ノ件

米公信第三二〇号
大正九年十二月三十一日
在墨

臨時代理公使 伊藤敬一(印)

外務大臣伯爵 内田康哉殿

墨国新政府承認ニ閣スル仏國ノ態度ニ閣スル件

本月二十二日ノ当地各新聞ハ巴里二十一日発聯合通信トシ
テ墨国承認ニ閣スル仏国外務大臣 Georges Leygues 氏ノ
声言セル所ヲ掲載致候右ニ依レバ仏國ハ英國ト同一步調ヲ
トリ米國ノ承認アルニ非ザレバ墨国ヲ承認セザル可シトノ
コトニ有之候而シテ右ハ先年「カラナンサ」政府ノ石油令ニ
対シ英、米、仏ガ抗議セシニ鑑ミ有リ得ベキコトト被存候
而已ナラズ當國官民ニ於テモ予期シ居ル事トシテ世人ハ寧

ロ冷静ナル態度ヲ以テ此報道ヲ受取リタル如ク相見エ候ヘ
共單リ仏字新聞 Le Courier du Mexique ハ仏国在留民
ノ立場ヨリ見テ仏國ノ態度ガ甚ダ不利益ナル旨論評致シ候
尚在当地仏國代理公使ハ漸ク一昨二十九日ニ至リ右ノ如キ
新聞電報ガ全然虛報ナル旨當国外務省へ通告致候由ナルモ
其正誤ガ余リニ時日ヲ経過セル為一般世人ノ大ナル注意ヲ
惹カザリシ様被存候本件ニ閣スル仏字新聞記事ノ写及切抜
相添此段及報告候

註 新聞記事ノ写及切抜省略

敬具

日本外交文書 大正九年 第一冊下巻 終

附錄 日本外交文書 大正九年第一冊 日附索引